

農 工 通 信



No. 81



小金井キャンパス13号館

● 同窓会創立50周年記念事業の募金活動中 平成23年3月末まで

Tokyo University of Agriculture and Technology



<http://tuat-dousoukai.jpn.org/>

Contents

■ 同窓会長の挨拶	3	静岡県への就職と支部同窓会	
■ 理事長就任の挨拶	4	栗原 績 (農工 S42)	32
■ 理事長退任の挨拶	4	息子が農民になりました	
■ 同窓会第47回通常総会・理事会開催さる	5	人見 達雄 (農 S45)	33
■ 同窓会創立50周年記念事業の募金活動ご協力をお願い	10	お姫様と3匹の侍	
■ 部会別寄附者一覧	13	戸谷 政弘 (製糸 S40)	34
■ 叙勲受章者からの寄稿		人生常に挑戦	
受章の栄に浴して		足立 憲一 (製糸 S35)	35
山下 実 (農 S24)	16	限界集落突入直前集落	
私の人生は旅の連続		白石 郁朗 (農 S46)	36
坂口 正三 (農 S35)	16	気違い水と自然保護	
叙勲受章の栄に浴して		貞松 光男 (農 S34)	36
青木 誠 (農 S37)	17	農工大生の酒造り	
50年間の思い出		池浦隆太郎 (農化 S62)	37
稲葉 次郎 (農 S38)	18	仕事の近況報告と「すた井」のことなどなど	
■ 同窓生からの寄稿		西野 実 (農学院 H9)	38
総会所感 (50周年記念事業)		農場から海へ	
児玉 満男 (製糸 S34)	20	荒木恵美子 (農化 S48)	39
キャリア・アドバイザー (進路・就職相談員) の仕事に携わって		中国の牧場にて	
櫻井 邦雄 (農化 S37)	21	岩瀬 慎司 (獣医 S47)	40
キャリア・アドバイザーの任を終えて		高専編入生 OB あれこれ	
甕 秀磨 (工化 S39)	22	田中 好一 (機械 S55)	41
「第47回関東学生馬術女子競技大会・馬場馬術競技」で東京農工大学馬術部が団体優勝! 石坂さおりさんと悠風号が個人二連覇を達成!		計量制度について	
田谷 一善 (獣医 S46)	23	中田 幹夫 (機械 S61)	42
最近の FS センター事情		東京農工大学と愛泉会と私	
島田 順 (養蚕院 S48)	24	三上 泰夫 (農化 S45)	43
昭和32年卒業獣医学科クラス会記		ママさん研究者の道	
加藤 正彦 (獣医 S32)	25	吉野 知子 (工博 H17)	44
詩 東京農工大学 わが母校		「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界遺産に	
池田 澄雄 (獣医 S32)	26	大塚 克巳 (製糸 S45)	45
武蔵野山栢会卒業50周年記念総会を開催して		天蚕の魅力でむらおこしに挑戦	
岡部 廣二 (林 S35)	26	柳沼 泰衛 (養蚕 S31)	46
吉村聡君への別れの言葉		深い思いと筋道の通った考え	
岡野 幸治 (林 S62)	27	浜田竜之介 (農化 S32)	47
大人になって再び始めた剣道		■ 退職の挨拶	
稲葉 健司 (農工 H2)	28	鎌田 壽彦 (生物生産学科)	48
農工大の思い出&近況報告		若林 敬子 (国際環境農学専攻)	48
立川 道雄 (電気 S41)	28	白石 旭 (技術経営研究科)	48
農工大に入学した頃のことなど		越前谷明子 (国際センター)	48
西村 寿 (農工 S50)	29	國眼 孝雄 (化学システム工学科)	48
ありがたき母校を訪ねて		■ 平成21年度同窓会学生援助事業報告	49
平山 誠 (農化院 S47)	30	■ 平成21年度卒業生・修了生	57
60年昔の思い出		■ 部会・支部・クラス会だより	64
渡邊 實 (農 S24)	30	■ 掲示板	68
波丘地農業研究所の羊		■ 事務局だより	71
新井 紀子 (農 S45)	31	■ 編集後記	



同窓会長の挨拶

藤森明彦 (工化S42)

同窓生の皆様にはお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。

10月に名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) が開かれるそうです (本誌がお手元に届くころにはすでに終わっているかもしれません)。「生物多様性」と言う言葉は企業活動と言う観点からはイメージしづらいと思っていたのですが、我が国の優良企業の内、その環境目標の一つに「生物多様性」への対応を挙げている企業が少なからずあるそうです。そのような分野では数多くの農工大同窓生が活躍しておられるのだらうなと想像すると、縁遠く思っていた今度の会議にも興味がわきます。

Sustainableな地球に向けて数多くの活動が行われております。太陽光発電やHV自動車、それにバイオマスなどに関する記事が新聞紙面を飾らない日はない今日です。農工融合領域における新しい技術の開発が求められているところであり、その分野における研究・教育の両面において農工大学に一層の期待を持つものです。

さて、農工通信の80号にて同窓会長就任のご挨拶を申し上げたのがちょっと前のこととと思っていましたが、月日のたつのは早いものです。この一年の間に民主党の鳩山政権が誕生し、事業仕分けで色々と影響を受けられた方もおられるのではないかと思います。官邸の主は早くも菅さんになりましたが、教育・研究に対して国はより力を入れることはあっても、いささかなりとも手を抜くようなことのないよう願うところです。

処で、私は同窓会の目的に沿ってより魅力的な機会とサービスを提供することが、私共に期待されていることだと認識してまいりました。それにもかかわらず、昨今の個人情報保護に関する社会の要望の高まりにより、同窓会名簿の発行と言う会の重要な目的事項の一つを削除せざるを得なくなりました。もちろん、同窓会員の動静に関する情報の更新・管理には従来と変わらぬ努力をいたしてまいりますが、部分的にも多少のご不便をおかけすることになることを遺憾に思っている次第です。近い将来、もっとスマートな方法でこの問題が解決されることを願っております。

2年後の平成24年に創立50周年を迎える私ども同窓会が、その2年後に創基140周年を迎える大学と一体となって「地球を回そう農工大記念プロジェクト」を推進していることはすでにご高承の通りであります。その目玉の一つである「産学交流会館 (仮称)」の建設プロジェクトも、当初の構想をさらに上回る姿で着々と進んでおります。その中に同窓会の部屋も確保されることとなり、来秋頃には皆様にお使いいただけることになると思います。各分科会の会合場所として、又大学主催のいろいろな催しへの参加の折に積極的にご利用いただけることを期待しております。

処で、同窓会としてこの記念事業をより意義深いものとするため、皆様からの寄附をお願いしてまいりました。多くの会員の皆様から浄財をご寄附いただきましたが、スタートした直後にリーマンショックに見舞われた影響のため、当初予定額を未だ大幅に下回っており、6月末現在で最低目標額の45%弱しか集まっておりません。幸いにして景気も大分戻ってきている感がありますので、募金期間を来春3月末迄延長しております。金額の多寡を問わず、募金に参加して頂くことを通じて皆様の母校との絆をより一層深めて頂ければ幸いです。

(平成22年8月記)



理事長就任の挨拶

高橋 幸資（農化 S45）

本年5月29日開催の第47回総会において、藤森会長の指名を受けて理事長に選任されました。亀山前理事長の後任として本会の会務の運営と事業の執行に当たることとなり、その責任の重さを感じています。何卒よろしくお願いいたします。

本会は、農・工の同窓会が昭和37年に統合され、平成24年にめでたく創立50周年を迎えます。皆様のご理解をいただきながら、現在記念事業の募金活動を鋭意進めているところですが、本事業がこれまでの同窓の諸先輩の想いとご尽力に改めて想いを馳せ、次の50年に向けてさらなる発展を期すよい機会でありたいと、切に願っています。

本年4月20日に宮崎県において口蹄疫の発症が確認されて以来、急速に拡がって20万頭に及ぶ甚大な被害に発展し、今後の再建も含め本会としても大いに心配しています。特に、全頭処分の被害に遭われた本会会員、関係業務に携わっている宮崎県支部会員、ならびに、隣接近県の関係支部会員、農水省の関係同窓会員にはご心労もさぞかし大きいことと思います。改めて心よりお見舞申し上げます。本学獣医学科の教員2名も国からの要請を受けて支援のため宮崎県に派遣され

ました。一日も早い完全な終息を切に念願しています。

さて、本会の現状と将来を俯瞰しますと、会務の運営・事業の執行の面において多くの課題を抱えているように思います。たとえば、本会の目的に照らして是とする事業を新たに計画するとしたら、事務支援を含め組織体制等は如何にすればよいか、会費収入に依存した財務体質の中で会計システムを改善するには如何にすればよいか、本会が法人格のある組織へ移行するとしたら如何にすればよいか、若手会員の参画が多くある部会・支部を目指すには如何にすればよいか、外国会員の活動を支援し海外支部組織を整備するには如何にすればよいか、諸規則を階層的に整備・充実して会を運営するには如何にすればよいか、10年後に契約満期となる八王子分収林の措置は如何にすればよいか、農工通信やホームページを充実するには如何にすればよいか等々多々あります。これらはいずれも互いに関連し、しかも自ずと一定の制約もあり、また、将来に亘る大事な課題でもあります。一つ一つ改善に向けて努力したいと思いますので、重ねて皆様の倍旧のご理解とご支援ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

理事長退任の挨拶

亀山 秀雄（化工 S48）

このたび平成20～21年度の理事長の任期を終え、高橋幸資先生に引き継いでいただきました。会長、副会長、常務理事および事務局長のご協力、無事任務を遂行することができました。教育研究の貴重な時間を割いてご協力いただいた理事の方々に深く感謝いたします。理事長就任の挨拶で書きました同窓会創立50周年記念事業における募金事業は、予定した金額の25%しか集まらず、平成23年3月まで延長いたしました。小金井記念ホールの建設の目処はつきましたが、大学50周年記念ホール（府中）の増改修の予算の目処が立たず、そのため引き続き募金部長として残留することに致しました。同窓生の皆様におかれましては、何とぞ募金にご協力お願い申し上げます。

この2年間の理事長の任を担う中で、同窓会は、異なる世代と専門の人が集まって、卒業後も互いに自己研鑽を続けながら母校や社会の発展のために活動する共同体であるとの気持ちを強く持つに至りました。支

部活動や部会活動も大切ですが、専門や信念や趣味を同じにする同窓会が世代を超えて集まり活動することもこれからの同窓会活動のあり方ではないでしょうか。6000人の在學生の中の7%が留学生です。これからグローバル化が進む中で、国の枠を超えた交流も同窓会だからできると思います。会員情報管理や大学の歴史的な資産の保護、大学の教育研究活動支援、産学連携活動支援、国際交流、大学の社会貢献活動支援など、農工大同窓会の社会的な役割はこれから益々重要になると思います。その中で、他大学と比較して、弱いのが同窓生からの大学への財政的な支援と思います。国からの運営交付金が億単位で減らされていく現在、是非、同窓生が大学に財政面で力強い支援ができるようになれば良いと思います。これからも同窓会活動により一層のご支援とご協力をお願いして退任の挨拶と致します。

同窓会第47回通常総会・理事会開催さる

■日時：平成22年5月29日（土）13：30～15：15 ■場所：府中キャンパス 農学部講堂 ■出席者：171名（内委任状59名）



第47回通常総会・理事会は、5月29日（土）、母校府中キャンパス農学部講堂にて開催された。通常総会に先だって理事会が開催され、藤森会長を議長として副会長の推挙、理事の推薦、特別会員の推薦、通常総会の議案が承認された。

高橋副理事長から、出席者が成立定数を超過通常総会が成立した旨の報告があった。

藤森会長から、「同窓会創立50周年記念事業の募金の協力要請・会員名簿発行廃止等」の挨拶があった。続いて、ご出席いただいた小畑学長をはじめ、来賓（西村副学長、國見農学研究院長、千賀連合農学研究科長、畑中名誉会長、梶井東京農工大学教育研究振興財団理事長）の紹介があった後、小畑学長から同窓会からの支援に対する謝意があり、大学の現状（早大との共同大学院の設置・女性教員の積極的採用・研究院の分離等）の紹介があった。

引き続き、高橋副理事長から、通常総会の議長については会則第9条に基づき藤森会長が務める旨の説明があった後、議事録署名名人に大里耕司理事、渡邊敏行理事を選出し議事に入った。

議 事

1、平成21年度事業報告及び決算報告並びに監査報告

堀総務部長より、資料に基づき平成21年度事業報告〔別記1〕、多羅尾経理部長より、平成21年度決算報告〔別記2〕があった。続いて壁矢監事より、決算報告書・帳簿・伝票等の精査をした結果、何れも適正に処理されており、事業・業務執行状況も適正であること、また、個人情報の保護に関する取り扱いも適正に行われている旨の報告があり、何れの報告も異議なく承認された。

2、同窓会会員名簿発行廃止に伴う会則の一部改正

亀山理事長より、会員名簿発行廃止に伴う会則の一部改正〔別記3〕について提案がなされ、審議の結果、原案どおり承認された。

3、平成22年度事業計画及び収支予算

堀総務部長より、資料に基づき平成22年度事業計画〔別記4〕、多羅尾経理部長より、平成22年度収支予算〔別記5〕の提案と説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

4、副会長の選任

亀山理事長より、平成22年度副会長の交代に伴う2名の副会長の選任について理事会で推挙された者の提案がなされ、審議の結果、原案どおり承認された。

5、理事・代議員の選任、理事長・常務理事の指名、監事の選出

亀山理事長より、平成22～23年度理事会推薦理事（15名）、部会推薦理事（64名）、部会推薦代議員（41名）、支部推薦代議員（48名）の選任、及び監事（3名）の選出について提案がなされ、審議の結果、原案どおり承認された。

続いて、藤森会長から高橋新理事長及び常務理事の指名があった。

6、特別会員の推薦

亀山理事長より、理事会で推薦された特別会員の紹介があった。

7、同窓会創立50周年記念事業の募金活動

高橋副理事長より、一昨年の通常総会で承認され、募金活動を開始してから約2年目を迎えようとしておりますが、最低目標額の43%と低い水準に止まっているため、募金活動期間を更に1年間延長して、平成23年3月末日までとした旨の説明があった。

また、通常総会に先立って開催された第3回同窓会創立50周年記念事業会の資料〔別記6〕に基づき募金の協力要請を再度行った。

8、同窓会50年史発行の進捗状況及び原稿依頼

大石同窓会50年史編纂委員長より、同窓会50年史発行の進捗状況の報告及び各部会長・各支部長に部会・支部の創立の経緯、活動の記録等について、再々度の執筆依頼を行い、原稿の最終提出期限を平成22年10月末日とした。

9、「農工通信81号」の11月末発行

堀総務部長より、昨年に引き続き発行時期を11月下旬にしたい旨の提案があり、承認された。

10、その他

新旧理事長の新任・退任の挨拶があった。

通常総会終了後、福利厚生センターにおいて懇親会が開催された。

〔別記1〕

平成21年度事業報告

1 第46回通常総会・理事会の開催

平成21年5月30日（土）、小金井キャンパスにて第46回通常総会・理事会を開催した。議事内容は、1）平成20年度事業報告（案）、収支決算報告（案）、監査報告、2）平成21年度事業計画（案）、予算（案）、3）平成21～22年度会長・副会長の選任（案）、4）特別会員の推薦（案）、5）同窓会創立50周年記念事業の募金活動、6）同窓会50年史の発行の進捗状況及び原稿依頼、7）「農工通信81号」の発行時期の変更（案）、8）同窓会室に通じる木道改修計画（案）9）その他、①新旧会長の挨拶②畑中会長の名誉会長への推挙について諮られ承認された。

2 平成21年度副会長懇談会の開催

平成21年11月7日（土）大学50周年記念ホールにて開催。議案内容は、1）募金の部会別・支部別集計状況（平成21年9月末現在）、同窓会50年史発行に伴う部会・支部からの寄稿に対する協力要請及び進捗状況、3）同窓会会員名簿発行に関するアンケート調査結果及び今後の方針、4）産学交流会館（小金井記念ホール）の進捗状況について懇談をした。

3 産学交流会館（小金井記念ホール）の建設

平成22年3月16日開催の東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業実行委員会において、平成22年7月着工予定であることの説明があった。

4 同窓会組織の強化、活性化および財務体質の健全化

部会・支部・職域組織の活動を更に強化して支援するとともに、同窓会

創立50周年記念事業募金活動のため各組織との連携を強め、例年に増して常務理事の積極的な派遣を行った。平成19～20年度に引続き、入会金、賛助会費等の大幅な収入増を図るための対策を推進した。また、本年はペイオフ対策として始めた国債購入計画最終年となったが、ペイオフ対策の充実と利息の増収を計って、国債の追加購入と普通預金の定期預金への切替えを行った。

5 同窓会創立50周年記念事業の募金活動

平成20年度第45回通常総会において承認され、募金活動（2ヶ年計画）がスタートしたが、平成21年4月末日現在で最低目標額（80,000千円）の24%の募金額に止っていたため、第2回同窓会創立50周年記念事業会及び第46回通常総会において部会・支部に対して再度の協力の要請を行った。また、更に募金活動の期間を1年延長した。

6 同窓会50年史の発行の進捗状況及び原稿依頼

平成21年度第46回通常総会において、同窓会50年史発行の進捗状況の説明及び各部会・支部の「創立の経緯、活動の記録等」についての原稿の執筆依頼を部会長・支部長各位宛に行った。

7 「農工通信80号」の発行時期の変更

例年「農工通信」は8月下旬に発行し各会員宛に発送していたが、募金目標額の達成率を向上させるために、振込用紙等を「農工通信」に同封して再度の協力要請を図るべく、発行時期を11月下旬に変更した。

8 同窓会室に通じる木道改修計画

平成15年度に同窓会室と同時に竣工した木道が、腐食が甚だしく通行等に支障をきたしていたため、平成21年度の予算に計上し、承認後に簡易舗装道路に改修した。

9 同窓会PR活動の実施

同窓会紹介パンフレット及びHPの更なる充実を図り、PR活動に努めた。

10 会員の動静整理の継続実施

農工通信の末着信会員について常時追跡の動静調査を行った。

11 (財)東京農工大学教育研究振興財団への協力

本財団の事務に対する実質的支援を従来どおり継続して行った。

12 母校に対する援助、新入正会員歓迎行事の継続実施

学生の勉学・学生生活に関して、学会発表・コンテスト・コンクール等発表・入賞祝い・優秀卒論副賞等の援助・学園祭・課外活動の援助・同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援等の予算を前年度と比べて更に増額して行った。また、卒業・修了証書カバーの贈呈を継続して行った。

13 会員の慶弔

祝電・弔電を打電した。

[別記2]

平成21年度収支決算報告 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

基本金決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 平成21年度予算額	(B) 平成21年度決算額	(A)-(B) 増減	備 考
前年度繰越金	327,941,130	327,941,130	0	
終 身 会 費	1,980,000	1,990,000	-10,000	一般66人×30千円=1,980千円 留学生1人×10千円=10千円
賛 助 会 費	26,760,000	25,780,000	980,000	一般859人×30千円=25,770千円 留学生1人×10千円=10千円
そ の 他	0	0	0	
合 計	356,681,130	355,711,130	970,000	

(2) 支出 (単位：円)

特別会計繰出	5,000,000	5,000,000	0	基本金より (会員名簿発行資金)
〃	5,000,000	5,000,000	0	〃 (50周年記念事業資金)
〃	3,000,000	3,000,000	0	〃 (木道改修資金)
一般会計通常繰出	13,380,000	13,380,000	0	〃 (賛助会費の2分の1)
一般会計特別繰出分	4,807,677	4,807,677	0	〃 (一般会計支出予算の不足分)
合 計	31,187,677	31,187,677	0	

(3) 残高 (単位：円)

収入 - 支出	325,493,453	324,523,453	970,000	
---------	-------------	-------------	---------	--

一般会計決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 平成21年度 予算額	(B) 平成21年度 決算額	(A)-(B) 増減	備 考
前年度繰越金	2,450,823	2,450,823	0	
入 会 金	4,565,000	4,440,000	125,000	888人×5千円=4,440千円
年 会 費	1,006,500	870,100	136,400	579人×1.5千円=868.5千円 1人×1.6千円=1.6千円
利 子	1,720,000	1,584,513	135,487	国債・定期・普通
基本金より繰入	18,187,677	18,187,677	0	
その他(雑収入)	300,000	1,037,106	-737,106	「農工通信」広告料、 国債購入剰余金
合 計	28,230,000	28,570,219	-340,219	

(2) 支出 (単位：円)

事 業 費	16,490,000	15,535,433	954,567		
内	会員名簿管理費	1,500,000	1,248,461	251,539	人件費及び諸経費の節約
	会 報 発 行 費	6,100,000	5,978,687	121,313	安価契約
	HP管理作成費	420,000	408,225	11,775	
	部会・支部活動費	3,570,000	3,104,265	465,735	6部会・11支部未申請
	新入正会員歓迎費	1,000,000	698,630	301,370	安価契約
	母校援助費	3,500,000	3,710,000	-210,000	申請件数の増加
	分収林管理費	50,000	7,170	42,830	
内	資料整備費	350,000	379,995	-29,995	
	会 議 費	1,970,000	1,734,514	235,486	
内	総 会 会 議 費	1,820,000	1,609,010	210,990	出席人数の減少(8人)
	副会長懇談会	70,000	65,704	4,296	
内	常務理事会議費	80,000	59,800	20,200	
	事 務 費	8,570,000	7,291,256	1,278,744	
内	雑 給	4,390,000	4,275,271	114,729	人件費の節約
	備 品 費	100,000	0	100,000	購入しなかった
	消 耗 品 費	800,000	725,162	74,838	節約
	通 信 費	800,000	715,984	84,016	節約
	旅 費	1,700,000	1,031,370	668,630	支部総会の開催数が 予定より少なかった
	事務用品印刷費	50,000	44,100	5,900	
	慶 弔 費	80,000	24,290	55,710	
	光 熱 水 費	110,000	102,256	7,744	
	雑 費	200,000	83,013	116,987	節約
	そ の 他	340,000	289,810	50,190	
職員厚生積立金	200,000	200,000	0		
予 備 費	1,000,000	356,819	643,181	パソコン及びソフトの購入	
支 出 合 計	28,230,000	25,118,022	3,111,978		



特別会計決算

(1) 収入

(単位:円)

款 項 目	(A) 会員名簿 発行資金	(B) 職員厚生 資金	(C) 50周年記念 事業資金	(D) 木道改修 資金	(A)+(B)+(C)+(D) 合計
前年度繰越金	14,670,528	350,951	5,592,625	0	20,614,104
繰 入 金	5,000,000	200,000	5,000,000	3,000,000	13,200,000
立替払い返付金	—	—	1,370,982	—	1,370,982
利 息	90,599	153	23,351	0	114,103
合 計	19,761,127	551,104	11,986,958	3,000,000	35,299,189

(2) 支出

(単位:円)

支出合計	220,949	56,000	22,890	3,000,000	3,299,839
------	---------	--------	--------	-----------	-----------

(3) 残高

(単位:円)

収入-支出	19,540,178	495,104	11,964,068	0	31,999,350
-------	------------	---------	------------	---	------------

【別記3】

【現会則】

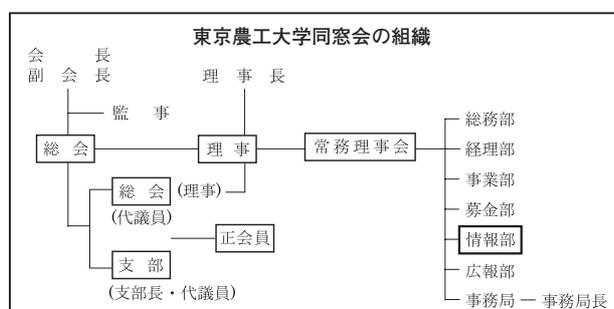
第2条 本会はその目的を達成するため次の事業を行なう。

1. 会報および会員名簿の発行
2. 会員の福利厚生のための事業
3. 学術講演会、講習会などの開催
4. 調査研究および雑誌、図書の発行
5. その他必要な事業

【改定案】

第2条 本会はその目的を達成するため次の事業を行なう。

1. 会報の発行
2. 会員動静の調査および情報の提供
3. 会員の福利厚生のための事業
4. 学術講演会、講習会などの開催
5. 調査研究および雑誌、図書の発行
6. その他必要な事業



【別記4】

平成22年度事業計画

1 第47回通常総会・理事会の開催

平成22年5月29日(土)、府中キャンパスにて第47回通常総会・理事会を開催する。議事内容は、1)平成21年度事業報告(案)、収支決算報告(案)、監査報告、2)同窓会会員名簿発行廃止に伴う会則の一部改正(案)、3)平成22年度事業計画(案)、予算(案)、4)副会長の選任(案)、5)平成22~23年度理事・代議員の選任(案)、監事の選出(案)、6)特別会員の推薦報告、7)同窓会創立50周年記念事業、8)同窓会50年史の発行、9)「農工通信81号」の11月末発行、10)その他新旧理事長の挨拶を予定する。

2 平成22年度副会長懇談会の開催

平成22年11月13日(土)の開催を予定する

3 同窓会組織の強化、活性化および財務体質の健全化

部会・支部・職域組織の活動を更に強化して支援する。同窓会創立50周年記念事業募金活動のため各組織との連携を強める必要がある。そのため昨年度に引き続き常務理事の積極的な派遣を行う。平成20~21年度に引き続き、入会金、賛助会費等の大幅な収入増を図るための対策を推進する。また、ペイオフ対策として始めた国債購入5カ年計画も毎年償還期日が到来するため、更に有利な国債を購入する。

4 同窓会創立50周年記念事業の推進

平成20年度第45回通常総会において承認され、募金活動(2ヶ年計画)がスタートしたが、募金集計額が最低目標額を大幅に下回っているため、更に募金活動期間を1年間延長(平成22年度末まで)し、記念事業の実施計画を推進する。

5 同窓会50年史の発行の進捗状況及び原稿依頼

平成22年度第47回通常総会において、同窓会50年史発行の進捗状況の説明及び未提出の各部長・支部長宛に各部会・支部の「創立の経緯、活動の記録等」についての原稿の執筆の催促を行う。

6 「農工通信81号」の11月末発行

昨年に引き続き募金目標額の達成率を向上させるために、振込用紙等を11月末発行の「農工通信81号」に同封して再々度の協力要請を行う。

7 同窓会PR活動の実施

同窓会紹介パンフレット及びHPの更なる充実を図り、PR活動に努める。

8 会員の動静整理の継続実施

農工通信の未着信会員について常時追跡の動静調査を行う。

9 (財)東京農工大学教育研究振興財団への協力

本財団の事務に対する実質的支援を従来どおり継続して行う。

10 母校に対する援助、新入正会員歓迎行事の継続実施

学生の勉学・学生生活に関して、学会発表・コンテスト・コンクール等発表・入賞祝い・優秀卒論副賞等の援助・学園祭・課外活動の援助・同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援等の予算を前年度と比べて更に増額して行う。また、卒業・修了証書カバーの贈呈を継続して行う。

11 会員の慶弔

祝電・弔電を打電する。

【別記5】

平成22年度収支予算

(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

基本金予算

(1) 収入

(単位:円)

款 項 目	(A) 平成22年度予算額	(B) 平成21年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	324,523,453	327,941,130	-3,417,677	
終 身 会 費	1,860,000	1,980,000	-120,000	前年度実績人数(66人)×0.95=62人相当分:62人×30千円=1,860千円
賛 助 会 費	24,510,000	26,760,000	-2,250,000	前年度実績人数(860人)×0.95=817人相当分:817人×30千円=24,510千円
そ の 他	0	0	0	
合 計	350,893,453	356,681,130	-5,787,677	

(2) 支出

(単位:円)

特別会計繰出	0	5,000,000	-5,000,000	会員名簿発行資金
〃	5,000,000	5,000,000	0	50周年記念事業資金
〃	0	3,000,000	-3,000,000	木道改修資金
一般会計通常繰出	12,255,000	13,380,000	-1,125,000	賛助会費の2分の1
一般会計特別繰出	5,498,303	4,807,677	690,626	一般会計支出予算の不足分を繰出す
合 計	22,753,303	31,187,677	-8,434,374	

(3) 残高

(単位:円)

収入-支出	328,140,150	325,493,453	2,646,697	
-------	-------------	-------------	-----------	--

一般会計予算

(1) 収入

(単位:円)

款 項 目	(A) 平成22年度予算額	(B) 平成21年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	3,452,197	2,450,823	1,001,374	
入 会 金	4,220,000	4,565,000	-345,000	前年度実績人数(888人)×0.95=844人相当分:844人×5千円=4,220千円
年 会 費	826,500	1,006,500	-180,000	前年度実績人数(580人)×0.95=551人相当分:551人×1.5千円=826.5千円
利 子	2,168,000	1,720,000	448,000	国債受取利息見込額(2,048千円)+定期預金受取利息見込額(120千円)=2,168千円
基本金より繰入	17,753,303	18,187,677	-434,374	
その他(雑収入)	320,000	300,000	20,000	「農工通信」の広告料見込額を前年度並みとし、320千円とした
合 計	28,740,000	28,230,000	510,000	

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	(A) 平成22年度予算額	(B) 平成21年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考	
事 業 費	17,230,000	16,490,000	740,000		
内 新 入 正 会 員 款 迎 費	会員名簿管理費	1,500,000	1,500,000	0	会員の勤怠調査等件費(1,300千円)+諸経費(200千円)=1,500千円
	会 報 発 行 費	6,100,000	6,100,000	0	3年間の実績額を斟酌して計上
	HP 管理作成費	400,000	420,000	- 20,000	〃
	部会・支部活動費	4,100,000	3,570,000	530,000	前年度実績額(3,200千円)+部会・支部における講演謝金(30×30千円=900千円)=4,100千円
	新入正会員歓迎費	900,000	1,000,000	- 100,000	前年度実績額(700千円)+短プロ分(200千円)=900千円
	母 校 援 助 費	3,800,000	3,500,000	300,000	前年度実績額を計上
	分収林管理費	50,000	50,000	0	前年度予算額を計上
	資 料 整 備 費	380,000	350,000	30,000	3年間の実績額を斟酌して計上
	会 議 費	2,020,000	1,970,000	50,000	
	内 副 会 長 懇 談 会	総 会 会 議 費	1,820,000	1,820,000	0
副 会 長 懇 談 会		70,000	70,000	0	〃
常 務 理 事 会 議 費		130,000	80,000	50,000	新旧常務理事引継ぎ会(50千円増)
事 務 費	8,270,000	8,570,000	- 300,000		
内 旅 費	雑 給	4,390,000	4,390,000	0	3年間の実績額を斟酌して計上
	備 品 費	100,000	100,000	0	前年度予算額を計上
	消 耗 品 費	750,000	800,000	- 50,000	3年間の実績額を斟酌して計上
	通 信 費	750,000	800,000	- 50,000	〃
	旅 費	1,500,000	1,700,000	- 200,000	前年度実績額(1,100千円)+増加見込み分(400千円)=1,500千円
	事務用品印刷費	50,000	50,000	0	3年間の実績額を斟酌して計上
	慶 弔 費	80,000	80,000	0	〃
	光 熱 水 費	110,000	110,000	0	〃
	雑 費	200,000	200,000	0	〃
	そ の 他	340,000	340,000	0	〃
職員厚生積立金	220,000	200,000	20,000	人間ドック補助金1名増(20千円)	
予 備 費	1,000,000	1,000,000	0	前年度予算額を計上	
支 出 合 計	28,740,000	28,230,000	510,000		

特別会計予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿 発行資金	(B) 職員厚生 資 金	(C) 50周年記念 事業資金	(A)+(B)+(C) 合 計
前年度繰越金	19,540,178	495,104	11,964,068	31,999,350
繰 入 金	0	220,000	5,000,000	5,220,000
立替払い返付金	0	0	0	0
利 息	30,000	150	23,000	53,150
合 計	19,570,178	715,254	16,987,068	37,272,500

(2) 支出 (単位：円)

合 計	0	120,000	100,000	220,000
-----	---	---------	---------	---------

(3) 残高 (単位：円)

収入 - 支出	19,570,178	595,254	16,887,068	37,052,500
---------	------------	---------	------------	------------



【別記6】

同窓会各位

「東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業」
について同窓会員の皆様にお知らせとお願い

このことについて、既にご寄附をいただいております皆様へ、お礼を申し上げますと共に、皆様のご芳名は、同窓会のホームページ（振込日から概ね1.5ヶ月後）と農工通信81号（平成21年6月30日までに振込済の方）に掲載させていただいておりますので、お知らせいたします。

つきましては、募金に関する再度のお願い文書は、同窓会員（約32,000名）全員に発送させていただきますので、既にご協力いただいた方には重複いたしますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

諸般厳しい時期ではありますが、一層のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成21年11月吉日
東京農工大学同窓会
理事長 亀山 秀雄

「平成22年4月末現在の同窓会創立50周年記念事業募金集計結果」

記

- 最低目標額 80,000,000円
- 4月末現在の集計額合計 34,645,205円
- 部会・支部別集計内訳
 - 部会別集計額 31,404,205円
 - 支部別集計額 3,241,000円
 合 計 34,645,205円
- 4月末現在の達成率 43.3%

同窓会創立50周年記念事業 部会別募金状況一覧

平成22年4月30日現在

部会名	項目	最低目標額(円)	募金額(円)	達成率	募金者数(人)
農学・生物生産学部会		6,400,000	4,481,000	0.70	285
蚕糸生物学部会		4,160,000	1,614,500	0.39	154
植防・応用生物学部会		2,720,000	510,000	0.19	43
農芸化学・応用生命化学部会		4,320,000	2,911,000	0.67	196
林産・生物資源工学部会		2,960,000	770,000	0.26	64
環 境 科 学 部 会		3,040,000	567,205	0.19	40
林 学 部 会		3,760,000	2,383,000	0.63	209
生産環境工学部会		2,640,000	1,455,000	0.55	124
地域生態システム学部会		1,520,000	91,500	0.06	13
獣 医 学 部 会		4,240,000	4,168,000	0.98	230
製糸・高分子・生命工学部会		5,520,000	1,485,000	0.27	128
繊維・有機材料部会		4,480,000	1,483,000	0.33	101
化 学 工 学 部 会		3,680,000	1,565,000	0.43	105
応用分子化学部会		6,320,000	2,088,000	0.33	154
機械システム工学部会		9,360,000	1,592,000	0.17	109
電気電子工学部会		7,760,000	1,415,000	0.18	83
応用物理学部会		3,440,000	345,000	0.10	32
情報工学部会		3,120,000	265,000	0.80	24
製糸部会女子部		480,000	205,000	0.43	13
M O T 部 会		80,000	1,070,000	13.38	4
B A S E 部 会			40,000		4
そ の 他			900,000		25
合 計		80,000,000	31,404,205	0.39	2,140

同窓会創立50周年記念事業 支部別募金集計表

平成22年4月30日現在

単位：円

	募金額	目標額	達成率	備考(振込日等)
北海道	100,000	150,000	0.67	21.2.25
青森		50,000		
秋田	155,000	50,000	3.1	21.7.9
岩手	100,000	50,000	2	21.6.26/22.2.22
山形		50,000		
宮城		100,000		
福島	235,000	150,000	1.57	22.2.5
茨城		200,000		
栃木	200,000	200,000	1	21.2.13/21.11.16
群馬		200,000		
埼玉	200,000	200,000	1	21.10.2/22.3.9/22.3.30
千葉	300,000	200,000	1.5	20.9.3/21.4.14/21.12.11
東京	250,000	250,000	1	21.11.11
神奈川	200,000	200,000	1	21.9.24
新潟	40,000	100,000	0.4	20.9.2/21.7.23
富山	100,000	100,000	1	21.6.29
石川		50,000		
福井		50,000		
山梨	162,000	150,000	1.08	21.11.18
長野	50,000	200,000	0.25	21.11.11
岐阜	30,000	100,000	0.3	21.5.11
静岡	200,000	200,000	1	21.8.25
愛知	100,000	200,000	0.5	22.4.30
三重		100,000		
大阪		200,000		
京都	100,000	100,000	1	22.2.22
滋賀		50,000		
奈良	50,000	50,000	1	21.12.4
和歌山		50,000		
兵庫		200,000		
岡山	10,000	100,000	0.1	20.12.15
広島	5,000	100,000	0.05	21.6.3
山口	25,000	50,000	0.5	21.12.28
鳥取	100,000	100,000	1	21.5.22
島根	80,000	50,000	1.6	20.9.9/21.10.19
香川	50,000	50,000	1	22.3.8
徳島	10,000	50,000	0.2	21.10.23
高知	50,000	50,000	1	21.8.4
愛媛	30,000	50,000	0.6	21.12.21
福岡		100,000		
佐賀	10,000	50,000	0.2	22.2.17
長崎		50,000		
熊本	100,000	100,000	1	21.6.17
大分	50,000	50,000	1	21.8.19
宮崎	149,000	50,000	2.98	20.8.13
鹿児島		50,000		
沖縄		50,000		
合計	3,241,000	5,050,000	0.64	

同窓会支部長及び連絡員

(平成22年9月21日現在)

都府道県	支部長名	連絡員名
北海道	西村 弘行 (農化S42)	宇野沢正美 (農工S46)
青森	原子 重男 (獣医S28)	大橋 統州 (農 S54)
秋田	加藤 公朗 (林 S30)	舂谷 雅広 (農工S61)
岩手	黒田 栄喜 (農 S52)	小森 貞男 (農 S61)
山形	石井 正市 (養蚕S44)	近野 広行 (農 S63)
宮城	真木 伸治 (養蚕S48)	佐藤 大輔 (林 H4)
福島	柳沼 泰衛 (蚕 S31)	本馬 昌直 (農 H2)
茨城	松丸 勝二 (農 S37)	佐藤 明彦 (農 S59)
栃木	村松梅太郎 (獣医S39)	南木 好樹 (農工S58)
群馬		岡野 幸治 (林 S62)
埼玉	善林 六朗 (農 S40)	稲場 康仁 (農工S61)
千葉	中村 圭一 (林 S39)	豊田 祐輔 (蚕糸H3)
東京	馬場 信行 (林 S35)	山本 賢 (農工S43)
神奈川	則武 宏一 (農工S41)	青木 稔 (獣医S54)
新潟	中村 幸夫 (農 S32)	高橋 紀男 (農工S60)
富山	青木 誠 (農 S37)	加門 克己 (環保H6)
石川		武内 昭也 (環保H3)
福井	島田 昭男 (林 S38)	新海 隆介 (環・資H12)
山梨	後藤 文次 (製糸S30)	依田 健人 (製糸S57)
長野	小池 洋男 (農 S42)	所 弘志 (農工S58)
岐阜	武野 明義 (織高S60)	河村 尚徳 (養蚕S42)
静岡	水口 衛 (獣医S29)	田中久美乃 (地生H16)
愛知	上井 和彦 (農 S33)	水野銚一郎 (農 S42)
三重	吉田 譲 (獣医S45)	古野 優 (獣医S60)
大阪	暮石 裕 (林 S35)	竹中 秀夫 (製糸S50)
京都	植村左千夫 (林 S20)	西村 寿 (農工S50)
滋賀	勝田 謙次 (織化S34)	南井 隆 (林 H1)
奈良	太田 道明 (農工S42)	望月 昇 (化工S57)
和歌山	山本 湧蔵 (林 S23)	中村 純子 (環・資H6)
兵庫	橋田 勝明 (獣医S46)	安徳 剛志 (林 S59)
岡山	内藤 照章 (獣医S34)	佐々木真也 (獣医H9)
広島	市村 光由 (織工S34)	三宅 信行 (環保S55)
山口	赤木 道博 (獣医S49)	岡本 賢一 (植防H4)
鳥取	西尾 邑次 (農S17・9)	小林 壽 (製糸S24)
島根	中尾 清治 (農工S34)	松浦 史瑞 (林産H1)
香川	岡崎 進 (獣医S38)	河野 幸彦 (林 S63)
徳島	岡田 幸助 (林 S28)	小杉純一郎 (林 S63)
高知	松田 誠祐 (農工S39)	寺峰 孜 (養蚕S45)
愛媛	門屋 一臣 (農 S33)	白石 郁朗 (農 S46)
福岡	藤木 重喜 (拓殖S18)	白石 哲広 (林産S50)
佐賀	貞松 光男 (農 S34)	御厨 秀樹 (植防S56)
長崎	本多 正二 (製糸S32)	片岡 正登 (製糸S48)
熊本	小邦 徹 (林 S41)	上野 周子 (植防S61)
大分	原田 順二 (養蚕S44)	伊藤 信二 (農工S55)
宮崎	小崎 宏 (農 S45)	井上新三郎 (農工S54)
鹿児島		遠矢 栄久 (林産S50)
沖縄	宮城 稔 (農化S38)	河口 哲也 (応生H6)
横浜会	児玉 満男 (製糸S34)	加藤裕二郎 (製糸S44)

同窓会創立50周年記念事業募金活動ご協力をお願い

理事長 高橋 幸資

同窓会会員の皆様には、平素より多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

東京農工大学創基140年・同窓会創立50周年合同記念事業も平成20年5月に発足してから約2年が経過いたしました。この間に、募金にご協力して頂いた多くの会員の皆様に厚くお礼申し上げます（寄附者のご芳名はP13～15に掲載させていただきます）。

この記念事業につきましては、すでに詳細（別記P10～12）を紹介し、ご協力をお願いしているところですが、小金井キャンパスをご卒業された多くの会員の皆様からの要望で、部会・クラス会等の会議のために利用できる小金井記念ホールの設置及び現在、同窓会員が利用している大学50周年記念ホール（府中キャンパス本部構内）の狭隘の解消、独立した玄関・トイレ、倉庫等の増改修並びに学生援助の実施を事業の内容として予定しております。

しかしながら、50周年記念事業の募金状況は、現時点で約3,500万円と、最低目標額の8,000万円には程遠い状況です（募金経過のご報告はP8～9参照）。

皆様にご負担をお願いすることは心苦しい限りではございますが、今後募金活動を平成23年3月末日まで実施しておりますので、一人でも多くの会員の皆様から、暖かいご支援を賜り、合同記念事業を成功させ母校の発展に貢献したいと考えております。すでに募金された方もたくさんおられますが、まだ募金をされていない会員の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げる次第でございます。

小金井記念ホール完成予想図

東京農工大学 小金井キャンパス 産学交流会館 全景



〔別記〕

東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業について

会長 藤森 明彦

謹啓 同窓各位におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本学同窓会は、農学部同窓会 駒場校友会および工学部（繊維学部）同窓会 西ヶ原同窓会を統一し、新同窓会として昭和37年（1962年）に設立されました。学科卒業生・専攻修了生を中心とした各部会の活動、都道府県単位の支部活動を通じて年々発展し、46,000名余の同窓を擁する組織となり、平成24年（2012年）には、晴れて創立50周年を迎える運びとなりました。

一方、東京農工大学は、明治7年（1874年）に内務省勸業寮内藤新宿出張所農事修学場および同出張所蚕業試験掛を創基として、平成26年（2014年）に創基140周年を迎えます。

そこで、これを機に、同窓会創立50周年記念事業を行うこととし、同窓会では数年をかけて副会長懇談会、副会長・支部長懇談会および記念事業企画委員会等で鋭意検討を続けて参りましたが、平成20年5月の総会において、本格実施のご承認をいただき、平成23年3月末日までの予定で募金活動を実施しております。

合同記念事業の内容および募金目標額は別紙のとおりですが、同窓会としては、総額1億2,000万円の募金をつのり次の5件の事業を行うことといたしました。

- 1) 記念ホールの設置及び整備充実
 - ・小金井記念ホールの設置
 - ・大学50周年記念ホール(府中)の増改修
 - 2) 学生援助の実施
 - 3) 同窓会50年史の刊行*
 - 4) 祝賀会の挙行*
 - 5) 関係事業経費
- *なお、3)および4)の事業は寄附金の減免税措置の対象外であるため、募金活動(寄附金)の対象とせず同窓会予算から負担することといたします。

同窓各位には、本会および大学の一層の発展のために諸般厳しい時期ではありますが、格別のご支援をいただきますよう、衷心よりご協力をお願い申し上げます。

〔別記〕

東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業募金趣意書

東京農工大学は、明治7(1874)年、我が国最初の農学教育及び蚕業指導のために開設された、内務省勸業寮内藤新宿出張所農事修学場及び同出張所蚕業試験掛を創基とし、平成26(2014)年に創基140周年を迎えます。その後、幾多の変遷を経て、昭和24(1949)年に東京農林専門学校と東京繊維専門学校を包括した新制の東京農工大学が発足しました。

また、平成16(2004)年の国立大学法人化と同時に大学院重点化を達成し、これまで以上に研究重視型の大学として基盤整備を行いました。

発足当初、農学部と繊維学部の2学部であった教育研究組織は、年々拡充発展を遂げ、現在では、大学院の研究組織である共生科学技術研究院、大学院の教育組織である工学府、農学府、生物システム応用科学府、連合農学研究科及び技術経営研究科、農学部及び工学部の2学部のほか、大学教育センター、産官学連携・知的財産センター、国際センター、学術研究支援総合センター、科学博物館などの多数のセンター・施設を有し、学生数も大学院生約2,000人、学部学生約4,000人を数えるに至っており、新制大学以降13,000人を超える大学院修了生、36,000人を超える学部卒業生を社会に貢献する人材として送り出してきました。

東京農工大学は、現在の地球規模での課題である、環境破壊、エネルギー問題、人口急増による食糧不足問題などグローバルで深刻な問題を解決し、循環型社会を再構築するため、科学技術の発展や新たな学問分野での創造、それを担う人材育成の先頭に立つ実績と実力を持つことを自覚し、さらにその責任を果たしていくことを使命として、大学の基本理念「使命志向型教育研究—美しい地球持続のための全学的努力—」(MORE SENSE)のもと、創造性と国際性豊かな研究者・技術者を養成し、循環型社会の構築に貢献できる大学としての役割を担います。

東京農工大学同窓会は、昭和37(1962)年に同窓生及び母校の発展をはかることを目的に設立し、平成24(2012)年に創立50周年を迎えます。大学行事に対する援助、学園祭及び学生の学会発表や各種大会の出場等への援助、会員の相互情報通信及び大学の最新情報等を発信する農工通信の発行などを行っています。

このたび、今後の東京農工大学の更なる発展を期するため、「東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業」—地球をまわそう農工大記念プロジェクト—を実施することとし、以下の事業を企画しました。

事業概要

- ・産学連携活動の一層の促進のための産学交流会館建設
- ・学生の学習環境の向上を図るための東京農工大学基金の創設
- ・東京農工大学科学博物館の充実
- ・記念ホールの設置及び整備充実
- ・合同記念式典の開催
- ・同窓会50年史の刊行(別途、同窓会予算より負担)

つきましては、この記念事業を成功させるため、何卒この趣旨にご賛同いただきまして、卒業生各位はもとより、関係各位の絶大なご支援をお願い申し上げます。

平成22年11月吉日

合同記念事業実行委員会

委員長 東京農工大学学長 小畑 秀文

副委員長 東京農工大学同窓会会長 藤森 明彦

東京農工大学同窓会創立50周年記念事業募金要項

1. 寄附目的

東京農工大学同窓会創立50周年記念事業実施のための資金調達

2. 事業の内容

1) 合同記念事業内容

2) うち同窓会記念事業内容

大 学		同 窓 会	
事 業 名	所要額 (千円)	事 業 名	目標額 (千円)
産学連携活動の一層の促進のための産学交流会館建設	250,000		
記念ホールの設置及び整備充実	89,000	記念ホールの設置及び整備充実 ・小金井記念ホールの設置 ・大学50周年記念ホール(府中)の増改修	50,000 39,000
学生の学習環境の向上を図るための東京農工大学基金の創設	120,000	学生援助	28,000
東京農工大学科学博物館の充実	30,000		
合同記念式典の開催等	11,000	事務経費	3,000
計	500,000	計	120,000

* 同窓会50年史刊行費および祝賀会費は別途同窓会予算より負担する

3. 募金目標額

1億2千万円

4. 募金の単位

個人 1口 5,000円 (できるだけ2口以上を希望いたします。)

5. 募金期間

平成20年7月から平成23年3月

6. 募金の方法

同封の募金振込用紙をご利用下さい。

銀行(三菱東京UFJ銀行・みずほ銀行)からのお振込みも可能です。

7. その他

ご寄附をいただいた方のご芳名を、同窓会誌およびホームページに掲載させていただきます。

ご芳名の開示を希望されない場合は、振込用紙にご記入をお願いします。

なお、振込用紙の口座番号記号は同窓生専用の口座となっております。

部会別寄附者一覽

部会別寄附者一覽

- 1、平成22年6月末現在。
- 2、掲載順は50音順。
- 3、() は非掲載希望者を内数で示す。
- 4、詳細は同窓会HPをご参照ください。
- 5、以下敬称略。

農学・生物生産学部会 288名(13名)

青木 誠
浅井 雅美
浅野 昭
浅野 一郎
芦川孝三郎
熱田 正行
阿部宇一郎
天野 昭一
荒井 榮造
新井 孝
荒田 久
飯田 一人
池田 良他
猪澤 洋
石川 駿二
石川 皓哉
石倉 昇
石崎 新一郎
石原 眞治
石森 道雄
板橋 久雅
伊藤 雅貞
稲葉 次郎
稲葉 友則
井上 隆
井上 満
井上 完二
井上 誠司
猪瀬 忠實
今井 直也
今市 忠志
岩崎 和晴
岩崎 徹
岩本 隼人
上井 和彦
植原 貞範
白井 千秋
宇田 良一
宇田 成昭
内田 成信
榎戸 彩子
遠藤 武雄
遠藤 和海
大川 泰一郎
大澤 良
大澤 隆治
太田 勝彦
太田 舜三
太塚 真紀
大伴 秀郎
大野 史史・あゆみ
大橋 統州
小川 宏次
小川 純子
小川 忠司
小川 秀文
長部 茂幸
小野 敏忠
小野 博生

小原 嘉明
恩田 隆志
甲斐 志郎
景山 登喜雄
加地 昇
柏崎 清作
柏保 和夫
柏川 一臣
成屋 伸郎
金本 正巳
釜江 徳充
鎌田 正三
神谷 好
加茂 長治
川窪 京子
川島 茂
菊地 凉子
菊地 正己
北野 誠雄
木下 孝宏
栗原 幸一
栗原 眞雄
栗原 美智子
黒田 榮多
小池 和明
小池 一正
小池 洋男
小泉 豊
小泉 憲治
越田 丞治
小島 喜三
小杉 正
小関 頼信
小林 征司
森田 肇
近藤 茂雄
斎藤 博
斎藤 一治
坂口 正三
坂田 毅
佐久間 浩望
佐藤 望
佐藤 暁子
佐藤 栄一
信太 秀紀
下 弘明
篠原 昇三
渋谷 成美
志村 博
下田 博明
白石 郁朗
白城 克己
菅澤 孝雄
菅生 義雄
鈴木 一郎
鈴木 純子
鈴木 慎二
鈴木 隆
鈴木 照康
鈴木 伸英
鈴木 秀人

鈴木 秀行
鈴木 雅人
須田 峻一郎
須田 廣勝
須田 生産学科
田15卒業生一同
代表青柳裕美
関塚 昭明
瀨口 信夫
芹澤 健一
善林 六朗
傍島 英雄
高橋 正士
高橋 啓暢
高橋 衛
高畑 滋
高岡 英俊
多川 四
田川 英久
瀧 千城
瀧川 佳秀
竹下 悦男
武富 功
田崎 崇代
田嶋 統樹
多治見 一行
田中 勝利
田中 進
谷 容全
谷 信輝
谷口 理潮
谷本 昌
田部 英一
田湖 寿一
玉井 浩
樽見 眞治
千年 英吾
地平 寛治
塚田 浩徳
津田 昌吾
土屋 正久
津野 宏
寺門 和也
寺西 雅弘
樋田 英一
戸井 豊
当津 隆
堂本 晶子
土志田 武彦
榎野 裕久
富田 改
中 徹
永井 正二
長岡 由生
中崎 長三郎
仲澤 泰
中島 哲郎
中城 忠男
中田 猛
中坪 弘一
中原 純一
中村 安岱
西尾 邑次
西崎 敏

西嶋 宏文
西田 和彦
西山 匡晴
西山 博
根本 一雄
根本 浩
根本 忠夫
野地 喜徳
野田 太
橋渡 良知
長谷川 祐一
畑中 孝晴
馬場 仁
原 英二
原 忠雄
原田 勉
原田 春紀
日高 睦朗
肥土 邦彦
平野 正史
廣川 太郎
深田 健一郎
福本 久雄
藤本 重喜
藤巻 宏
藤村 勲
藤村 忠彦
藤村 俊彦
布施 正久
二神 勝利
淵野 雄二
星野 清久
細野 久雄
堀越 英雄
牧 輝彦
増田 国八
増田 博幸
松岡 義浩
松坂 正次郎
松島 勝之助
松丸 勝二
松村 潔
松村 昭治
松村 仁栄
丸山 又滋
満重 勝信
水野 健一郎
道玄 哲康
箕田 豊尚
美濃 又哲男
宮下 顕智
宮田 紀夫
向山 万里子
大澤 慶幸
大澤 利一
大槻 昭
大槻 誠
丘野 亨
小沢 民治
小沢 智照
小野 秀記
加々美 憲雄
角和善三郎
柏川 孝
粕谷 俊平

山内 恒男
山崎 眞一
山本 誠
横林 茂永
横山 和徳
横山 嶽
横山 辰也
吉岡 親一
吉田 幸
吉田 富雄
吉野 正太郎
吉原 恵子
吉原 道裕
鷺尾 義人
和田 喜造
渡辺 昭弘
渡辺 善弘
渡辺 敏雅
渡辺 實
薬谷 宏
薬科 雅夫

蚕糸生物学部会 150名(4名)

藍 房和
青木 義篤
赤木 昭治
阿久津 浄巳
浅川 秀哉
阿部 将
鮎澤 光昭
新井 富明
新井 富男
有賀 勲
有賀 孝
飯島 忠彦
石井 了
石井 正市
石川 達郎
石田 久基
石塚 貞夫
市川 保
糸井 博則
井上 広治
井上 善治郎
猪口 正三
牛山 善介
宇都宮 昇
海野 保
遠藤 富夫
大河原 清一
大澤 慶幸
大澤 利一
大槻 昭
大槻 誠
丘野 亨
小沢 民治
小沢 智照
小野 秀記
加々美 憲雄
角和善三郎
粕川 孝
粕谷 俊平

金子 五郎
金田 惠喜
菊込 穰
河村 尚徳
川本 洋
木口 憲爾
草野 洋一
久保田 耕司
小池 映
小池 晃
小武山 弘之
小林 千秀
小林 達雄
小林 行塚
小松 善孝
後久 達雄
久條 仁矢
齋藤 慶喜
斎藤 貞治
三枝 是
坂口 進
佐田 雅稔
佐藤 守
佐野 光徳
塩崎 正臣
塩原 潤一
篠原 隆美
島田 俊弘
清水 昭男
下田 昭
下平 睦夫
新保 博
杉浦 秀徳
杉山 英夫
杉山 一成
杉山 満丸
鈴木 育良
須関 浩文
関口 政雄
曾根 正澄
高田 稔男
高野 稔
高橋 恒夫
田口 俊孝
武井 輝雄
竹内 典子
田嶋 定雄
立川 正明
田村 博
竹原 重尾
都賀 好道
月田 嘉辰
筒井 厚
勅使河原 司郎
所 明彦
内藤 ちよみ
中井 行雄
仲里 哲次
永田 正雄
永田 尚武
西村 浩
西村 克敬
二宮 星
二宮 康

橋本 竜寿
畑島 剛
花岡 明守
光根 敏郎
久松 清志
平松 實
藤井 久郎
藤代 和典
古性 和典
古谷 玄吾
逸見 満
細梅 正徳
前田 文男
真木 伸治
増井 伸一
松木 昇
松久 房義
真野 保久
丸山 善学
丸山 六男
三木 洋道
光恒 達也
都田 秋清
村松 廣次
茂木 修
森谷 久二
柳沼 泰衛
矢口 宣明
矢野 敏郎
矢作 兵藏
山崎 晴雄
山下 健市
山田 美
山本 方文
湯本 義仁
吉井 信夫
吉澤 新助
吉野 治男

植防・応用生物学部会 44名(7名)

秋山 侃
東 陽一
飯島 章彦
五十嵐 丕
高橋 元
上田 晃輔
大熊 曉美
大嶋 博
大須賀 重喜
川本 章
岸本 道明
木下 正次
木直子 武夫
重野 裕一
瀧戸 賢二
田中 良典
塚口 英二

土屋 直之
中澤 健雄
西村 美彦
野村 和義
野村 良邦
長谷川 恵介
濱川 陽子
林 登志
福澤 徳徳
古屋敷 桂資
松井 正信
三宅 博
毛利 岳人
山口 国夫
山口 由木
鷺見 義則
和田 早苗
渡辺 司

農芸化学・応用生命化学部会 189名(7名)

47期会
(久米賢次他16名)
赤羽 競
東 雅幸
天野 洋司
荒木 惠美子
池田 博一
池ノ上 功
石井 泰博
石阪 英男
石田 精一
石山 なおり
一蝶 彬
伊藤 猛
伊藤 功
伊藤 和子
伊藤 泰夫
稲葉 収造
猪貝 豊一
上野 久美子
牛山 浩一
薄田 亘
内田 欣哉
尾井 良男
大賀 溪生
大久保 榮太郎
太田 徳也
太田 雅文
大谷 忠夫
大谷 東洋
大野 邦彦
岡崎 龍介
小笠原 敏行
岡村 弘之
小川 浩之
萩野 雅人・知美
小高 要
小山田 守
折井 英雅
風見 大司
片山 晴子

加藤 孝
加藤 元也
金井 直子
亀川 宏成
亀井 義示
川岸 利征
河内 弘宜
河野 浩之
川端 昇
川村 貞夫
北村 英三
衣山 陽三
山下 陽三
君塚 功三
功刀 欣三
久保 宏平
久保 肇
久米 賢次
日鼻 宏一
倉石 知亜
黒田 勝士
黒田 昌彦
後藤 宗玄
齊藤 晋
坂内 敬
坂田 秀俊
坂野 雅敏
坂野 好幸
櫻井 邦雄
佐藤 巖
佐藤 匡
佐藤 敬子
佐野 佳之
篠原 力
渋谷 郁雄
清水 克己
荘司 隆一
伊藤 邦郎
白井 幸吉
白城 聡
城間 恒紀
城山 敦男
鈴木 清
鈴木 重之
鈴木 敏明
須藤 政彦
関 登世彦
関場 裕
泉 健先生
高橋 米寿祝賀会
高橋 幸資
武内 純子
竹内 鐸也
竹野 恒之
多田 全宏
立花 忠治
立場 秀樹
田中 治夫
田中 宏治
田中 宏征
谷口 準
園野 眞紀

千葉 郷子
塚田 晃
辻村 淳之助
手嶋 久
手島 正行
寺本 賢一郎
東福 博
富山 浩明
友岡 元
豊田 仁
永井 昌史
長尾 英二
水野 量彦
中村 典郎
中村 秀子
仲谷 虎之助
鍋島 由可子
野田 啓吾
西久保 美彰
西田 博嗣
西村 弘行
新田 恒雄
農芸化学・応用
生命化学部会
能勢 昭英
野田 功
廿日岩 朔朗
服部 次男
羽石 達生
林 勇男
林 久純
原田 和夫
肥後 健一
平野 正
藤本 俊子
藤本 修身
船引 龍平
北條 善一
堀井 敬一
堀川 弘海
前田 明利
増田 光輝
松島 康之
松本 佳代子
松本 光人
丸重 靖三
丸山 曠
三上 泰夫
水谷 宣史
水野 正浩
三井 文人
皆川 昭稔
宮内 裕
宮城 隆
宮村 定男
茂田 宏
本松 成和
安井 拓次
安井 知子
矢藤 梅夫
山岸 裕司
山口 宗人
大和 公人

山分 信
弓削田悦司
吉木 健
吉澤 康弘
吉田 文男
吉野谷 健
吉村 圭司
若月 靖俊
脇 範人
和田 敬三
和田 義明
渡辺 敦夫
渡辺 映水
渡辺 孝弘

渡辺しのぶ
渡辺 昭三

環境科学部会
39名(5名)

7期生中心クラス会
代表 大谷 勝己
青木 裕美
石井 梨香
井上 仁
井上 峰樹
上本 道久
梅森 正信
大場 怜司
岡本 竜太
小野崎研郎
勝俣 宏行
菅野 昭春
小林 信春
米谷 和晃
三枝 俊哉
斎藤 香織
佐藤 健二
佐藤 尚衛
塩見 裕亮
菅原 淳
鈴木 寛之
瀬川 宗也
竹山 春子
多羅尾 光徳
角田 伸之
中野 伸一
深見 理子
緑川 弥寿彦
三宅 信行
三宅 博子
山崎 規史
山田 礼二
山中 芳樹

林学部会
201名(6名)

相澤 清弘
相澤 孝夫
相場 芳憲
青木 邦政
赤坂 猛
阿部 哲朗
天野 典英
荒井 宏
飯田 千徳
飯村 武
家寿多 正衛
池田 和弘
池田 隆一
石井 正一
石井 晴雄
石川 純治
伊関 治郎
磯貝 平八
市川 平治
伊藤 勝規
伊藤 俊輔
伊藤 道男
稲岡 豊
井上 富雄
岩崎 克己
牛山 元雄
内田 稔
内田 東作
宇野 浩一
遠藤 裕
近江 克幸

大越 春司
大崎 智文
大島 和久
大貫 恒夫
大平 克彦
岡田 正
岡田 幸助
岡部 廣二
岡部 聡
小沢 修
小澤 幸四郎
小野 泰治
小野塚利雄
小野寺秋男
小原 重雄
小原 繁男
小原 辰夫
片岡 辰幸
桂田 ひとし
加藤 公明
金箱 利夫
神志那 武成
川口 輝夫
神田 一宏
木川 明
木崎 秀一
北村 一衛
北村 禎造
木村 英佳
工藤 高裕
久藤 駿次
栗田 貞治
栗林 正朗
栗原 勝彦
栗山 俊雄
櫻並木 裕
代表 家寿多 正衛
河野 幸彦
河野 和彦
小嶋 眞佐夫
小林 彰
小林 健吾
小林 茂範
小林 政広
小松 恭雄
小柳 信宏
小柳 好弘
酒井 淳行
坂内 富男
笹邊 巖
佐藤 重孝
塩崎 實
四方 徹
篠原 元司
篠原 斉四郎
篠原 康之
柴田 秀二
島田 昭男
白石 進
新藤 謙一
菅野 二郎
杉山 俊宏
鈴木 博
鈴木 清
鈴木 輝征
鈴木 宏
高崎 康隆
高田 秀穂
高田 宏臣
高田 和行
高梨 是清
高橋 隆夫
宝方 亨
竹腰 正保
他 7名
浦田 恒彦

小池 泰正
志村 聖一
高西 次男
西原 明亮
野中 亮
藤本 吉幸
立川 史郎
田中 元明
田中 明
田中 雄
田中 信哉
田中 征人
田中 尚夫
田畑 正紀
田原 義之
玉川 久良
田村 毅
田村 毅博
千野 博
千原 賢次
塚原 道夫
土屋 公作
寺嶋 嘉春
土井 功
戸田 浩人
中川 健三郎
永沢 晴雄
中西 賢
安佳 音博
中洞 好博
中村 一夫
中村 圭一
中村 精吾
中村 浩之
中矢 弘明
中山 昌治
西澤 敦彦
西村 興司
二宮 隆史
野上 寛五郎
野崎 幸治
野能 秀樹
生原 喜久雄
橋本 章
山田 晃
山田 武雄
馬場 信行
馬場 国雄
林 和則
林 健二
原 興吉
半田 孝俊
平山 仁
深澤 光
深山 英成
藤崎 謙次
藤元 良一
古畑 巧
堀内 周二
真柴 孝司
松井 英輔
松井 琢郎
三木 伸夫
峰松 浩彦
宮岡 文雄
宮川 昭七
宮田 博
宮田 守久
宮田 章
本宮 大江
本山 芳裕
森部 紀晴
矢崎 潤一
安井 貞良

安井 文規
安田 祥
柳澤 義孝
矢作 一雄
山内 健史
山口 一郎
山口 正三
山 梧会
幹事 岡部廣二
山崎 浩
山本 敏夫
山本 湧藏
山野 敬
湯本 敏夫
吉田 三郎
米山 俊博
若木 健輔
渡邊 直人

生産環境工学部会
125名(5名)

青木 健
浅野 正光
阿部 靖則
天野 常雄
荒木 徳治
安養寺 久男
飯島 好文
伊藤 信二
稲木 道代
岩佐 正孝
上野 徳也
内野 隆康
宇野 弘正
梅田 武
梅原 隆夫
大亀 哲郎
仰木 文男
大久保 允文
大里 耕司
太田 昭夫
大槻 繁
大坪 義昭
岡崎 義雄
岡田 章
小野 浩
小野 沢一夫
貝通 丸明
風間 政美
柏倉 義幸
勝俣 昇
加藤 亨
川合 誠
河野 義雄
川原 尚志
冠 秀昭
北川 康一
北澤 邦夫
北爪 弥平
北原 敬悟
衣山 元彦
日下 康彦
久保 七郎
久保田 昭彦
黒川 貴
齋藤 道雄
坂上 成永
佐久間 利夫
佐田 増藏
佐藤 久藏
佐保 賢二
柴原 壽一
菅原 直一
鈴木 貞良
鈴木 貞良

田内 堯
高橋 貞三
山口 正文
武井 厚治
竹本 政弘
田島 淳敦
多田 精二
田荷 輝芳
西 矩雄
所 弘志
中里 三男
中里 徹哉
中村 滋
中村 弘
成田 一郎
難波 元彦
西尾 玲
西村 寿
西山 伸茂
野坂 雄二
野村 昌志
萩原 泰朗
長谷川 五郎
長谷川 正勝
畑井 良典
服部 武弘
馬場 真嗣
濱田 清人
早坂 和夫
速水 洋志
原田 静男
日浦 克彦
日置 治郎
平野 孝志
平林 孝保
福岡 大作
藤井 裕三
藤枝 洋
藤木 信秀
藤田 憲
本田 恭二
間瀬 嘉光
松井 崇
松浦 三喜
松尾 浩司
松村 誠祐
松村 康二
松本 訓正
松本 盛雄
松野 数雄
宮原 正利
宮原 雄二
向後 源藏
森井 康司
森田 義郎
盛山 桂一
柳下 三雄
矢治 幸夫
柳澤 秀夫
山木 益
山田 泰弘
行本 修
渡辺 彰
渡辺 正文

獣医学部会
216名(6名)

赤木 道博
稲田 真澄
西郷 香織
鮎川 英司
荒川 研二
荒木 宣子
飯田 辰夫
五十嵐 忠良
池田 勝彦
池田 澄雄
池田 裕一
石井 美樹子
石坂 英夫
泉川 大海
板底 茂雄
市原 晴徳
伊藤 純吉
伊東 良郎
伊奈 達雄
稲葉 和気
井上 勝博
伊原 三重子
今井 正夫
今泉 吉晴
今岡 尚子
井料 堅治
岩崎 利郎
白井 玲子
内田 節也
内山 健太郎
益満 宏行
榎本 貞二
高岡 寛
高橋 喜久男
高松 勝憲
田川 雅代
瀧上 周
大橋 泰弘
岡庭 梓
岡本 道生
小川 諄
小澤 浩
小野 眞人
小原 豊彦
貝塚 達造
春日 井
片岡 弘毅
勝山 弘之
金窪 悠
金谷 和夫
兼松 伸枝
萱嶋 憲保
菊田 愉美
川合 延夫
河村 隆
神田 尚俊
菊池 正夫
木村 一郎
吉良 幹

高多 康弘
谷川 敦子
長 さやか
平山 加奈子
目谷 賢

生命科学部会
13名(1名)

石井 静
石井 大樹
石井 崇
石坂 晃美
市川 大悟
市川 史子
佐々木 智恵

久野 幸三
慶留 厚
幸嶋 祥
甲野 雄次
小杉 光雄
小寺 主司
小西 克利
小林 茂雄
小林 則勝
小峯 毅
五明 峻
近藤 昌弘
西郷 宏治
斎藤 利雄
佐伯 百合夫
酒井 道子
酒井 譲
佐々木 毅夫
笹崎 龍雄
笹本 修司
佐藤 喜隆
佐藤 多津雄
佐藤 昌子
澤野 昭之助
鹿熊 俊明
穴戸 洋一
志水 功
清水 敬一
清水 実嗣
清水 多佳子
清水 徹三
下山 勇
小久江 栄一
末永 朗
菅原 博治
鈴木 一哉
鈴木 由貴子
鈴木 嘉尚
関 哲生
関 令二
関 正太郎
関 稔
曾我 昭新
大門 重信
高岡 寛
高橋 喜久男
高松 勝憲
田川 雅代
瀧上 周
大橋 泰弘
岡庭 梓
岡本 道生
小川 諄
小澤 浩
小野 眞人
小原 豊彦
貝塚 達造
春日 井
片岡 弘毅
勝山 弘之
金窪 悠
金谷 和夫
兼松 伸枝
萱嶋 憲保
菊田 愉美
川合 延夫
河村 隆
神田 尚俊
菊池 正夫
木村 一郎
吉良 幹

野口 純子
芳賀 弘樹
橋田 勝明
早川 研一
原 重知
原子 重男
日下 百彦
平井 秀敏
廣井 みどり
廣田 里香
藤田 健之助
古市 玲子
古橋 圭介
星 欽彌
細野 誠之
堀井 忠夫
前田 稔
増田 隆
真瀬 昌司
松井 光蘭
松浦 健二
松永 武彦
松永 佳昭
松本 幸雄
真山 真由美
水口 衛
水谷 武夫
水谷 修三郎
三森 都子
三森 信行
村松 梅太郎
室作 昭厚
名須川 厚
森田 晴夫
森谷 哲夫
八重 恒文
柳澤 池恵
柳田 晴美
山家 又祐
山岸 建太郎
山口 聡子
山口 成夫
山口 夏子
山口 輝清
山下 千恵
山田 實
山中 良
山本 格也
横山 卓三
吉川 邦衛
吉田 和雄
吉田 誠二
吉田 明
米平 勉
若狭 芳男
和田 聡志
渡辺 昭一郎
渡辺 俊夫
米倉 久雄

高分子生命科学部会
125名(8名)

青木 利吉
足立 憲一
阿部 和弘
新井 一太
新垣 篤史
有川 廣
石井 正智
石野 卓由
石原 啓四郎

市村 周二
伊藤 澄夫
今井 暢
今井 史郎
岩佐 仁
岩波 秀明
若間 勝
若間 文男
植村 公夫
内田 勝彦
瓜田 章二
瓜生 虔二
大塚 朝日
奥山 善英
小澤 政彦
小野 善太郎
小笠原 八郎
笠川 昇
勝野 盛夫
加藤 美智子
金木 久喜
神山 靖久
河原 雄輔
北村 愛夫
北村 正隆
草間 健一
江東 新
嶋 桂吾
嶋 満男
尾玉 茂男
後藤 文枝
小林 茂男
近藤 玉枝
近藤 太郎
斉藤 遼
佐々木 隆之
佐藤 良平
澤崎 喜代子
重松 正矩
志波 操
庄子 奈緒
菅原 隆行
杉村 治男
杉山 辰夫
鈴木 重雄
鈴木 浩
鈴木 眞雄
瀬木 秀保
当麻 春海
鹿野 貴彦
高林 幸三
竹村 一衛
田中 浩明
田中 基三
田中 雄二
田村 香
山田 眞夫
富田 研二郎
土門 正信
永井 忠
中島 健一
中島 良平
中西 義治
西出 陽雄
長谷川 茂
花田 正明
羽田 有輝
浜 喜平
林 隆宏
林 益史
早田 隆
廣末 喜八郎
富士 忠生
藤原 富貴男
藤原 洋美

大学に寄附(平成22年6月末現在)した教職員(会員)氏名 39名

- 赤木 康宏
伊豆田 猛
宇野 亨
近江 正陽
大島 浩太
岡崎 正規
岡山 隆之
亀山 秀雄
鎌田 壽彦
神田 尚俊
北野 克和
國見 裕久
額 明伯
小柴満美子
齋藤憲一郎
齋藤美佳子
櫻田 武嗣
渋谷 淳
瀬戸 昌之
瀧田 守親
田中 治夫
千葉 一裕
寺岡 徹
塚城 隆史
濱田龍之介
平澤 義延
星野 本多
英一 登
町田 智信
水雲 健次
矢口 芳生
山田 哲也
楊 宗興
横山 岳
吉川 正人
吉田 誠
渡辺 直明

支部からの寄附(平成22年6月末現在)

- 北海道支部
秋田県支部
岩手県支部
福島県支部
栃木県支部
埼玉県支部
千葉県支部
東京都支部
神奈川県支部
新潟県支部
富山県支部
福井県支部
山梨県支部
長野県支部
岐阜県支部
静岡県支部
愛知県支部
京都支部
奈良県支部
和歌山県支部
岡山県支部
広島県支部
山口県支部
鳥取県支部
島根県支部
香川県支部
徳島県支部
高知県支部
愛媛県支部
佐賀県支部
熊本県支部
大分県支部
宮崎県支部
沖縄県支部

松尾 義之
水城 俊幸
向井 雪音

情報工学会 23名(2名)

- 安達 政彦
五十嵐道弘
伊藤 丈朗
香川 新隆
金子 隆宏
小平 和正
小林 貞夫
鈴木 岳大
高木 久
高橋 正博
武内 茂雄
外川良太郎
根本 秀政
藤森 英明
本堂 敦
水田 祥泰
最上 隆夫
山口 陽三
山田 剛史
和田 裕一

MOT 部会 4名

- 新井 信昭
井口 一世
都田 利夫
渡邊 俊夫

BASE 部会 4名

- 浅井 恒雄
小宮 直城
佐藤 隆太
松田亜希子

その他 24名(6名)

- 安部 浩
木村 園子
桑田 大
けやきクラブ
一同会長 渡辺 彰
小島 寛明
小林 節子
清水 本裕
鈴木 健之
千賀裕太郎
竹本 菊郎
塚本 良則
福永 保介
村山 房子
村山 登
山崎美代造
山田 昭一
好田 正

澤田 誠一
篠原信一郎
鳥影久太郎

電気電子工学会 83名(6名)

- 秋田 正憲
浅海 博圭
安藤 雅生
安間 恭之
井川 健二
石ヶ森久悦
稲田 久
浮邊 英彦
大井喜久夫
大川 儀郎
大窪 肇
大塚 淳
大西 登
小木曾 亨
加賀屋信二
笠井 実
加藤 良夫
金澤 進
木村 宗弘
栗原 大輔
黒木 裕昭
黄 清 均
小林 喜一
五味 勝二
櫻井 友尚
佐々木 智憲
笹谷 洋一
真藤 靖博

応用物理学部会 30名

- 荒井 芳文
伊東 浩
内山 岳彦
大野 直次
笠井 俊和
柏村 圭治
勝城 啓之
桂川 則之
河村 穰
桑田 昌之
小泉 幸久
佐伯 尚文
作間 考雄
佐々木 隆幸
佐藤 哲也
佐藤 豊
庄司 幸樹
庄子 幸樹
鈴木 勲
関根 朝次
高橋 孝文
田代 亨治
中村 信一
橋本 光宏
松浦 宣行

塚原 輝雄
辻 平吾
釣屋 政弘

機械システム工学会 105名(3名)

- 中川 純也
中島規久雄
中田 幹夫
名川 泰正
鳴海 順夫
南原 慶孝
野間口 美雄
乃村 善正
八藤 四郎
早部 哲夫
原 幸一
平井 正彰
伏見 恵一
藤原 要
堀 三計
堀江 福男
堀之内 将耶
本多 円成
本間 憲一
正木 仁
松永 宏
丸岡 哲雄
宮本 知三
村上 修人
村田美保子
森 亮洋
森田 勇
諸永 清文
柳下 英明
山崎 和也
山澤 道夫
依田 義人
和田 光章
渡辺 晋也
渡部 健一

電気電子工学会 83名(6名)

- 秋田 正憲
浅海 博圭
安藤 雅生
安間 恭之
井川 健二
石ヶ森久悦
稲田 久
浮邊 英彦
大井喜久夫
大川 儀郎
大窪 肇
大塚 淳
大西 登
小木曾 亨
加賀屋信二
笠井 実
加藤 良夫
金澤 進
木村 宗弘
栗原 大輔
黒木 裕昭
黄 清 均
小林 喜一
五味 勝二
櫻井 友尚
佐々木 智憲
笹谷 洋一
真藤 靖博

白川 栄浩
新館 浩靖
菅原 猛雄

応用分子化学部会 154名(9名)

- 饗場 聡
阿部 哲
新井 彦一
有澤 清時
安澤 晴嘉
安藤 衛一
飯田 次郎
伊王野耕二
池田由利子
石井 泰司
石毛 和夫
石田 文治
石原 友子
伊藤 勝浩
伊藤 汎之
稲葉 尚弘
井上 修一
井上 伸一
岩本 秀雄
内本 岩宏
江藤 建市
江里口 健一
近江 恭夫
大須賀 弘
太田 克朗
大高 直輝
大竹 陽介
大村 裕英
大山 拓正
岡崎 隆
萩原 茲夫
小野 紀一
柏崎 雄治
片岡 操
勝田 謙次
金山 裕弥
金田 修一
龜谷 雅哉
神野 砂男
北村 一郎
北村 益男
杵村 義昭
木村 富昭
櫛田 靖彦
工藤 晃
熊切 慎二
倉林 肇
小堺 裕一郎
小林 邦彦
小林 瑞葉
小松 賢作
小室 一允
小屋原 壯三
坂本 光江
櫻井 郁男
佐々木 道郎
佐々木 道郎
貞森 哲郎
重田 征三郎
島田 昭義
島村 勲
清水 康次

若月 満
和田 文夫
渡邊 英二
渡辺 正敏

石井 茂雄
石渡 莊介
板垣 和雄

窪田 一郎
小池 一三
五島 正喜

古澤 實
星野 邦夫
細田 英夫

古澤 實
星野 邦夫
細田 英夫

製糸部会女子部 10名

- 井川 房代
小此エツ子
織田サヨ子
坂根 政子
那須 静江
野村真佐子
引地たけよ
福永むつい
藤野 トシ
村尾 綾子

繊維・有機材料部会 98名(7名)

- 相坂 登
浅沼 寛
浅原 義久
入枝 利夫
石川 顕次
石沢 弘
井岸 純
市村 光由
稲橋 葆
岩島 寛
岩波 弘介
薄井 洋介
薄田 幸夫
宇野 津美
遠藤 佑治
大越 健介
大嶋 茂光
大沼 紀幸
岡田 邦男
小俣 文彦
柿内 卓
垣崎 憲道
加瀬 俊男
金子 由実
川崎 巖
河村 吾郎
木村 太郎
桐谷 久志

化学工学会 94名(4名)

- 青谷 真美
秋山 正巳
足立 英明
新谷 憲
安藤 衛
他(工化S42、工化S67卒有志)

叙勲受章者からの寄稿

受章の栄に浴して

山下 実 (農S24)

此の度、はからずも旭日小綬章受章に浴したことは山梨県議会議員として、5期20年間勤め、この間議長始め幾つかの役職をさせて頂いたことに対するものであり、本誌に載せて頂く程の功績はありません。

私は昭和24年に東京農林専門学校農科を卒業し、その年の9月に山梨県庁農業改良課に入り、農業改良普及員として農家の現場で15年間指導に当たりましたが、家の都合で38歳で県庁を退職し、自動車修理業をはじめ幾つかの仕事をしましたが、昭和62年に山梨県議会議員となりました。

議員となってからは、私が農家出身者であり、又農家の相談相手としての農業改良普及員であった者として常に農政の応援団として農業に力を入れたつもりです。特に農業改良普及事業の生命は現場にあることを踏まえ、行政当局にアドバイスも致しました。又、時々母校の校歌を口ずさみ乍ら、大久保郷創設の学校の出身者であることを生涯の誇りとしています。

深く咲く花に行跡なしと云う

人の言葉に我恥ずかしも



私の人生は旅の連続

坂口 正三 (農S35)

私は、2・26事件のあった昭和11年に満州で生まれた。軍人の父に連れられて宇都宮、熊本と転々し、終戦は祖父母のいた福岡で迎え、三池高校を卒業するまで九州で過ごした。大学に入ってから思い出としては、駒場寮(当時、東大と教育大と3大学に駒場寮があった)での寮生活と競馬場でのアルバイト、それに同期の故阿部君と岩波君とで硬式庭球部を始めたことである。昭和35年に、後で4代目の学長になられた近藤頼己教授のゼミを卒業して、農林省に入省した。戦後の開拓時代からユニークな存在であった農地局の資源課というところで、そこには前同窓会長の畑中さんほか数名の先輩がおられた。国家公務員は「転勤は覚悟せよ」と言われたが、特に上級職の場合、ほとんどが3年毎に職場が変わり、それが地方であれば転居を伴うもので、地方農政局は東海、関東、北陸、九州と家族を連れて回ったので、長女は小学校を4回も転校した。丁度その頃農業基本法が制定され、新たに農業構造改善事業なるものが始まっており、土地基盤整備を土台として機械化や集出荷所の設置等一挙に近代化を図ろうとする事業にも携わることとなった。その間本省の官房調査課という職場では、年次報告班に所属し、毎晩終電で帰るような厳しい宮仕えを経験したが、昭和48年版の農業白書にかかわることができた。農林水産省には、明治以来の歴史をふまえた試験研究機関が全国に多数あり、それを総括するものとして本省に技術会議事務局があり、そこに昭和54年から7年も在籍することとなった。

筑波研究学園都市に教育大を移転して筑波大学を創るなど、各省庁合わせて43の試験研究・教育機関の移転計画の中に、この技術会議の機関が12もあり、その移転をスムーズに行うため施設計画室なるものが設けられており、私はその最後の室長補佐となった。55年に施設の概成がなったが、今度は移転に反対した農事

試験場（鴻巣）や農技研・植物ウイルス研究所などを改組して農業研究センター、農業環境技術研究所、農業生物資源研究所を新設するという、画期的な仕事が始まった。農林水産省設置法の改正という大変な作業を伴うので、施設計画室は廃止されたがその為の準備室に看板がかけ変えられ、私は研究調査官という身分になった。当時は、環境庁が省に昇格する前で、研究機関の名前に環境の文字が入るのは珍しく、国会議員の先生方への説明に議員会館に何度も通わされた。法律は無事成立したが、移転先の施設と内容が異なるため、その調整を図るための場所長会議は何十回と行われ、今まであまりなかった人事交流や開かれた試験研究といった点では成果がみられた。今は全て独立行政法人ということで世界に先駆けた業績を上げているのを見て感慨無量である。最後の職場となったのは、馬鈴薯の原種農場で、戦後欧米の真似をして各県にできた原種農場にウイルスフリーの原種を配るために、全国で8ヶ所設置されたものである。青森県上北郡の人里離れた山中にあり、さすがに単身赴任することとなった。着任して1年もたたぬ61年12月に政令の改正により、馬鈴薯のほか、茶、さとうきびの原種農場を統合して、筑波にある種苗課の分室を本部とする種苗管理センターが発足した。農場は全国で14所となったが、その中で歴史も古く面積は最大の300haの孀恋農場に平成2年に転勤し、そこで32年間の公務員生活を終えた。浅間山麓に広がる農場は標高1100mに位置する隔離圃場で真冬の最低気温はマイナス15℃に達した。

それまで経験したことのない自然環境の中で仙人の



ような生活をしながら、足かけ6年間無事に勤めることができたのは、共に官舎で過ごした職員の皆様方のお陰だと深く感謝している。生涯では10回転居したが、青森、群馬、千葉、横浜、名古屋、金沢、熊本等を拠点に全県を旅行することができ、国立公園も28ヶ所全て足を踏み入れた。退職後は百聞は一見にしかずと外国旅行に目覚め、世界遺産を追い求めて25ヶ国を回った。中国は生まれ故郷の満州を含め3回行ったがまだまだ広い。古希を過ぎた頃から、長時間の飛行機がづらくなり旅行する時間が減ってきたが、健康に留意してお世話になった皆様方への御恩返しを何とかしなければと念じながら人生の旅を続けている。

叙勲受章の栄に浴して

青木 誠（農S37）

平成21年秋の叙勲において、瑞宝小授章を受章いたしました。誠に過分な栄誉を賜り、身の引き締まる思いをいたしております。

昭和37年に農工大学農学部を卒業と同時に富山県庁に奉職し、若いときは主に農政事務に、晩年は試験研究機関に席を置き、足掛け37年間郷里富山県の農業振興に勤めたことを認められたものと勝手に判断しております。ただ、お褒め頂くような功績は、以下記述のとおり思い当たらず、どうやら同じ職場で苦勞した先輩同僚の後押しが今回の受章にまで私を送り出してくれたのだろうと解釈しています。

最初に配属されたのは、農林水産部畜産課の飼料係。主に里山の雑木林開発による「牧場づくり」に従事しました。富山県内の放牧場は、殆どこの時期に作られたものですが、その後、畜産の衰退で、多くはスキー場に転向いたしました。しかし依然として水田酪農の子牛育成業務を担い、高原の牧歌的風景を提供している牧場が健在です。

昭和46年から「卸売市場の整備業務」を担当しました。当時、公設、私設の青果物市場が大小合わせて13市場、また水産物市場は12の漁業組合が水揚げした魚をすぐせりに掛ける産地市場を持ち、更に富山市など中核都市には産地から搬送された魚を捌く消費地市場が開設される等々といろいろな市場が混在していました。これを新設の卸売市場整備法に従って市場開設者、卸売り業者、仲卸業者、買参人、等に仕分けの上、認

定許可し整備していく仕事でした。昨今の流通形態は益々多様化していますが、基本はやはり市場流通です。その基本体系を作るお手伝いをしたのかもしれませんが。

自治大学校での勉強6ヶ月間のあと、農政企画業務を担当し、県農業の将来の計画づくりに勤めました。

このとき農業振興地域の線引きも担当し都市計画地域との調整や流通業務団地、中核工業団地構想等との調整を手がけ優良農地の保全と、調和ある地域振興に苦心しました。

この頃までは、一つの業務に4～5年勤務し異動していましたが、管理職になると平均2年程で転属するようになり、より多くの職場と仲間を得ました。

園芸特産課長時代には米単作の富山県農業を複合作物産地に変身させるため、「特産の里」「特産王国」の指定事業を起こし、それまで村々で細々と生産されていたマイナーかつ特色ある作物に光を当て生産振興、販路開拓に取り組みました。例えば花卉球根、干し柿、なし、はと麦、山菜加工、銀杏等々です。折りしも他県では同様な狙いで「一村一品運動」等が起こり、あたかも地方の農村文化PR合戦の様を呈していました。

毎年4月29日、東京銀座の「みゆき通り」を、富山県特産のチューリップの花びらで飾る「花のジュウタン」もこの時から始まり、いまに引き継がれている楽しい行事です。現在の「地産地消」の考えも、このような地域特産振興策の延長上にあるように思います。

しかし順調な日々ばかりでなく苦しい場面にも沢山遭遇しました。

農産普及課長時代にはカドミ汚染地で生産された種籾が一部食用に転用される不祥事が発生し、全国からの非難を聞きながら、食の安全の重さを痛感しました。



正に富山県農業のアキレス腱を露呈した事件でした。

また、畜産課長時代には長年の懸案であった「と畜場」の統合と近代的施設建設に取り組みましたが、迷惑施設として反対する地域住民の、「殺生反対、と殺反対」の幟旗を向こうに回し環境保全策は勿論、宗教論争、教育論争も含めて誠意ある対応をもって決着させるまでに2年間で費やしました。竣工式にたどり着いたときは、ドッと疲れが出たのを思い出します。

畜産試験場長時代には、老朽化していた畜産試験場の移転、開設に取り組みました。これは丘陵地110ヘクタール余を開墾し、畜産、牧場、農機具舎、試験棟等を建設する一大プロジェクトです。資金の調達、用地交渉等苦勞もありましたが、これは楽しい仕事でした。建設途中に視察に来られた県知事が、眼下の富山平野を眺めながら、遠くに立山連峰を一望する景観のすばらしさに「家畜の住家にはもったいない所だなー」と感嘆されたものです。

県職最後の農業技術センター所長時代は、試験研究の進行管理が主要業務でしたが、退職後10年余経過した今日、県から完成技術とか新品種とかで発表される中に、私共の現役時代に取り組んだ技術が完成したのがあることを知るとき、スケールの大きい達成感を味わうとともに研究を完成させてくれた後輩に感謝の念を抱く今日この頃です。

県庁退職後、農業信用基金協会専務、農協理事等を9年間務め、今は家業の水田農業に精を出す日々です。

農業との繋がりを我が人生の太い柱に据えてくれた、東京農工大学に感謝し、残された人生を更に精一杯謳歌したいものと考えています。

50年間の思い出

稲葉 次郎 (農S38)

過日、府中の農工大50周年記念ホールで開かれた「日高敏隆先生を偲ぶ会」に参加し、会の終了後同期生3人で久しぶりにキャンパスを散策しました。駒場寮がなくなり新しい研究棟がいくつかできていましたが、素晴らしい緑に囲まれた母校の雰囲気は昔と変わらず、当時を思い出して懐かしい気持ちでいっぱいになりました。

1959年の春に、若者らしい若干の屈折した思いを持ちながら、美しいキャンパスに魅せられて農工大学に

入学しました。教室では特別勤勉な学生ではありませんでしたが、またサークル活動にせよ学生運動にせよすべて中途半端に終わってしまいましたが、専攻した植物病理学研究室での生活、寮生活、下宿生活等も通していろいろなことを学習し、今になって思えば有意義な大学生活を送ることができました。

生来のおくてで、卒業後の生活を意識するようになったのは大学も最終学年になってからでした。最初はぼんやりとでしたが研究を仕事としたいと思い、次第に国立の研究所で働きたいと考えるようになり、さらには無謀にもどうせ研究者になるのであれば新しい領域でやってみたいと決めて、結果的に当時科学技術庁に発足して間もない放射線医学総合研究所(放医研)に入所しました。放医研は、人の健康に関連して放射線の医学利用の推進を図り、と同時に放射線の防護と安全の研究を進めるために設立された国立の研究機関であり、その裏には原子力利用への大きな期待がありました。

放射線防護関連の研究部に所属しましたが、自分で選んだ道とは言え、入所当初はさすがに苦労の連続でした。放医研全体に一人も大学の先輩はなく、研究室で飛び交う用語は聞いたことのないものが多く、一時的には道を誤ったかと思った時さえありました。ただ、幸いなことに、放医研は新しい研究所ということで活気に満ちながら余裕があり、組織としてもまた上司も新人の研究者に期待してくれ、成長を待ってくれました。もちろん、当時は放射線やアイソトープに関する知識そのものが新しいものであり、放医研がその新しい研究の我が国におけるセンターであったことも幸いでした。

先輩研究者の手伝いから始まり、東大農学部への1年間の内地留学により研究者としての淡い自信を持つことができるようになりました。その後次第に研究室の中で自分のテーマを確立することができました。1969年には米国コーネル大学への1年間の留学によって自身の研究の国際的な位置づけを感じることができました。原子力利用に伴って生じる放射性核種による

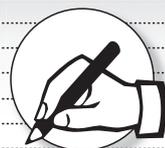
内部被ばくとその防護に関する研究がテーマでした。

研究室さらに研究部を任されるようになって所外での活動が増えました。放射線に関連した国際学会や国連の会議に出席し、1984年から2年間ウイーンにある国際原子力機関(IAEA)での勤務も経験しました。帰国後は学会活動や政府の審議会等への参加も多くなりました。1987年からは国際放射線防護委員会(ICRP)の活動に参画して、国際的な放射線防護基準の策定に関わりました。1999年に留学や出向を含めて36年間という長い期間在籍した放医研を退職しました。最後のほぼ3年間は科学研究官・研究総務官を務め、研究サイドから放医研全体の発展に微力を尽くしたつもりです。放医研退職後は青森県六ヶ所村にある環境科学技術研究所において有意義な経験をすることができました。

平成21年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章しました。それを機に事務局より依頼を受け、少し変わった研究公務員の50年史を紹介させていただきました。受章はこれまでの放医研での研究に対するものであろうと考えています。うれしいことではありましたが、すでに妻を亡くしていて、受章式に二人で出席できなかったことが心残りでした。50年を振り返って、農工大で経験したことが私の原点であるとの思いを新たにし、また、これまでご厚誼いただいた方々に心からの感謝を申し上げる次第です。



同窓生からの寄稿



総会所感（50周年記念事業）

児玉 満男（製糸S34）

今年の5月29日に開かれた農工大同窓会総会に出席するため府中を訪れた。総会通知に添えられていた交通案内通り国分寺南口から京王府中行き私鉄バスに乗った。

府中に行ったのは昭和34年の卒業式以来の50年ぶり。当時は農学部構内に一般教養学部があり、小金井の西ヶ原寮生は、往復はスクールバスを利用していた。バスに遅れた時は国分寺駅経由で農学部まで歩いたものだ。南口はまだ無く北口からガード下をぐるっと迂回してやや下り坂の松林の中を歩いたが、そんなに遠いとは思わなかった。

今度は大学前の晴見町まで両側はびっしり商・住宅、松林はほとんど無く、道路は広がっているが、車も多くバスは意外に時間がかかった。

卒業以来、小金井には10年ほど前に1回、府中は今度が初めてと疎遠を申し訳なく思いつつ、反面定年生活に入ると不思議に母校が懐かしくなり、このたびの総会出席を期待もしていた。バスを降りて農学部正門から、こんもりとした櫛並木の向こうに時計台とアーチ風の正面玄関を見たとき50年前の印象に戻った。

総会は亀山理事長さんの進行で始められた。その模様はこの81号の主要記事として第47回通常総会のあらましが掲載されているので省きます。この総会には14件の議題が提案されましたが、最も時間が割かれたのは『50周年記念事業』でした。中味は募金の進捗状況と50年史の原稿の集まり状況。時間を割いたといっても事務局側からのお願いの時間で、もともと本事業は平成20年の通常総会で、『同窓会創立50周年（平成24年）』を迎えるにあたり、大学と合同で記念事業を行うことが承認され、募金活動2ヵ年計画でスタートしたもの。本誌の78号から80号まで事業の内容は詳しく説明され、総会出席者の各部会、支部代表者、代議員は活動の当事者でもあり、承知しているためか静かに聴くだけで盛り上がりがいちでした。

総会資料によると、募金は平成22年4月末現在3465万

円で目標額8000万円の43.3%、参考までに50%を上回っているものは、獣医学部会98%とほとんど達成、農学・生物生産学部70、農芸化学・応用生命化学部会、林学部会、生産環境工学部会が目立つところ。

総会で印象に残ったのは、学長が冒頭挨拶で低調な達成率にふれ、更なる同窓会員の理解と協力を要望したことだ。大学との合同記念事業でもあり達成率の低さが大学側の計画に影響しないようにしたいものだ。

同窓会事務局としては、募集活動の期間を平成23年3月まで更に1年延長する、81号（本号）に振込み用紙を入れ会員の関心を高める。締め切りまでの中間時点である11月に副会長懇談会を開催し進捗状況を点検し各部に最終的な協力依頼を行う。またこの総会で2年間理事長を務めた亀山さんは、理事としてスタッフに残り、50周年事業に専念することになり体制が強化された。

この事業が始まった平成20年の79号で、当時の同窓会長畑中さんは【記念事業の発足にあたって】のなかで『卒業生が4万人もいるので億単位のお金もすぐにも集まりそうですが、過去の例からみてもなかなかそうは参りません。——ついつい出しそびれてしまうというのが実態です。——今回は部会、支部、年次会、クラス会、学科や研究室など出来るだけきめ細かく対応していきたいと思っている。』

まさにそのとおりで、昨年4月末の達成率24%、今年34%と金目で約1500万円強増加した。これをどう評価したらよいか、部会、支部、事務局、農工通信の振込み用紙等々、畑中会長の云うきめ細かい対応の成果には違いない。

あと1年来年3月まで、延長して此れ位の成果があったとしても、募金額5000万、目標額の63%に過ぎない。しかし、ここまでくると、畑中前会長さんの〈出しそびれている人〉は出し、母校の事業に思いを持つ会員は大分募金しているのではないかと。

募金額のことに拘りすぎて申し訳ないが、学長さんの心配を少しでも減らすには、目標額の7割、この1年であと2100万円は欲しい（学長さんはまだ少ないと言うでしょうが）。いずれにしても、残された4ヶ月事務局の要請に応じて、副会長、支部長、代議員はまだ募金していない会員に働きかけることだ。

この7月文科省発表にこんな記事があった。国立大学が法人化され剰金は翌年度以降積み立てることができ、経費削減や企業との共同研究による収入で国立大86法人、期間6年間で約2500億円を積み立てたという。農工大がどれだけ寄与しているかは分からないが、いずれにしても国からの運営費交付金が減少するなかで、求められた企業努力の成果で国民としては拍手を送りたい。

そこで、募金額の話に戻るが、来年3月目標額の7割に達しない時は、会則第17条（部会及び支部の運営に必要な経費の補助）を弾力的に運用し募金に回すことも考えられる。試算では3年間で1000万円は生み出せる。国立大86法人同様の企業努力を副会長、支部長達が行えばやって出来ないことはない。しかしそこまでなくても済むように11月の副会長の懇談会に期待したい。

81号の寄稿を事務局から求められ、総会における学長さんや理事長さん以下事務局の皆さんの取り組み姿勢や熱意にどう応えれば良いか、出席した会員として黙って過ごせない気持ちで、また私が予想した7割が危惧であったことを願いつつ拙文になりましたが投稿に代えさせて下さい。

キャリア・アドバイザー（進路・就職相談員）の仕事に携わって

櫻井 邦雄（農化S37）

8年前、02年の夏、出身研究室OBの暑気払の会で高橋幸資先生から進路・就職相談員制度が秋から発足するので学生相談の相手をやってくれないかと頼まれ、軽い気持ちで引き受けたのが今に続いているキャリア・アドバイザーの仕事です。民間企業には40年近く勤めましたが、人事や採用関連の業務とはほとんど無縁でしたので、あわてて本屋へ行き、処狭しとならぶ就活本の幾冊かを買って求め、昨今の大学生就職活動の実態を頭に入れました。

10月初旬、松岡教育担当副学長より辞令を頂き、毎週水曜日の午後農学部本館1階の正面一等地にある学生相談室で学生を待つ身となりました。ところが肝心の学生がなかなか現われません。空振り（学生が来なかった日）は40%にも達し、02年後期の相談学生はたった16人でした。だが相談の潜在需要はある筈、PR不足と考え、相談室に大きな看板を掲げたり学生掲示板に手作りのポスターを貼ったり大学のHPに紹介文を載せたり、相談に来た学生に友人を勧誘して貰ったり、本部学生支援チームの事務の方々と相談しながらいろいろと手を打ちました。そのせいか来室の学生は次第に増え1年後には年に100人の規模になりました。08年秋のいわゆるリーマン

ショック後から相談学生は急増し09年は年間230人に達しました。本年7月中旬、開室以来の学生総数は延べ1000人に達し、その学生にはポケットマネーで購入の図書カードをささやかな記念品として進呈しました。

03年4月、半年遅れで教授OBの相談員が決まりました。上原先生（硬蛋白質化学）です。2年勤められそのあとは坂上先生（土壌学）、加藤（誠）先生（農業工学）に引き継がれています。09年より民間企業出身の茂田井さんが加わり、農学部は相談員3人体制となり、折りから急増した相談学生にきめ細かい対応ができました。

相談室の仕組みづくりも手探りで進めました。先ず工学部と共通の書式で面接記録簿の設計を行い、期末には内容をエクセルに入力してデータ解析を行いました。結果を表やグラフにまとめ、当期実績として教育担当副学長、本部事務学生支援チーム部長に報告、議論する場を作りました。同時に農学部各学科各専攻就職支援担当の先生方の集りでも報告、討議をしています。またこの実績まとめは大学のHPに載せ、一般からのアクセスが出来るようにしました。04年秋、神田教育担当副学長と相談し、就職活動の全貌を判りやすく説明し、実行につなげることに役立つA4版80頁の小冊子、「就職ガイドブック」を作りました。以後改訂を重ねて毎年7月中旬、両学部の学部3年生と修士1年生全員に配布しています。これについては4年前から（財）農工大教育研究振興財団から印刷費用のご援助をいただいています。学生が望むOB・OG訪問の先輩紹介には同窓会事務局の検索システムを使わせていただいています。またとくに地方公務員志望の学生には各県の支部連絡員を紹介していただき、県農政の方向性などの事前勉強に役立たせています。また大学本部が毎年10回程度開催する「就職ガイダンス」のどこかにはキャリア・アドバイザーも必ず講演者として参加しています。

では進路・就職相談の具体的中身をご紹介します。毎年4月、前期の初めは人生論や将来の進路、就職活動全般の留意点など一般的な話題が多く、5月前後から国家や地方公務員の小論文、面接カードのチェック、面接対応などが増えてきます。この頃は前年秋から就活を始めた学生の内定や合格などの嬉しい報告も加わります。民間企業の就活が始まる後期は先ずエントリーシートの書き方と添削から始まり面接の受け方と心構え、模擬面接の実施などで具体的実戦的な相談で続々と相談学生が詰めかけます。年が変わると内定が出始め、重複内定でどちらを取るか、内定辞退の相談など切実な問題も増えてきます。

農学部学生の男女比は概ね男子/女子=55/45ですが、

相談学生の比率は逆で女子学生が6割を超える年がながらく続きました。リーマンショック後の就職氷河期以降この関係が逆転し男子が6割となりました。最近では男女半々程度に戻りつつあります。学生の専攻学科を見ると、各期で多少の変動はありますが生物生産学科、応用生物科学科、環境資源科学科、地域生態システム学科がそれぞれ20数%ずつを占め、就職の心配が少ない獣医は2%程度となっています。学年別では就職適齢期の学部3年生と修士1年生が主体でしたが、就活期間が長引いている最近では学部4年生、修士2年生の比率が増えています。

手探りで始めたキャリア・アドバイザーの仕事ですが、若さ溢れる学生諸君に活気を貰い、3人の相談員がそれぞれのキャリアや特色を生かして今日もアドバイスに取り組んでいます。

キャリア・アドバイザーの任を終えて

麿 秀磨 (工化S39)

平成17年度より21年度まで本学より委嘱され進路・就職相談室のアドバイザーの役を務め、今年後任にバトンタッチしたところです。

就職氷河期を脱し、売り手市場へそしてまたリーマンショックによる超就職氷河期へ逆もどりと経済の激変した時期ではありました。

この間、同窓会よりご支援、便宜をはかって頂きましたことに先ずお礼申し上げます。

当室は、進路・就職にかかわる学生さんの、質問に応え先生方の多忙を少しでも緩和したいとの大学の目的に沿って開設されたものでした。

工学府では月曜日(私の担当)、木曜日の午後開室で、例えば、OB訪問、エントリーシートの書き方、面接への対応、院への進学問題など学生さんの個々の相談にのってあげることが主務でした。

隔世の感あるキャンパスに、これまた我が子よりはるかに若くスマートな学生たちと接し若者の考え方にも触れ大いに刺激を受けたものでした。就職活動も私達の時代より半年は早くなっていますし、情報はすべてインターネットで得られるしエントリーすれば皆にチャンスありという様変わり。旧帝大卒しか入社試験を受けられなかった時代があったなど学生さんに冗談交じりに話したものでした。

さてその間の開室日数は約60日/年であり来室者人数は1件弱/日(3~4人来室する日もあり0の日もあり)

でした。もう少し多いことを予想していたのですが…逆に学生さんの自己解決能力やら工学部の就職力が高いものと安心したことでした。

相談を受けた内容は、当然ながら学部と院生ではちがったものですし、売り手市場、買い手市場の年などでずいぶん変わっておりました。それなりに学生さんも経済情勢は読んでいるようで感心しましたが「働く意義」をどう理解しているかというところが今一不安がありました。この点は学内セミナーで就活テクニックだけでなく触れておいて欲しい課題かと感じました。

学生さんがもっている関心の一つは、かなり直截的に「院に進学した方が得かどうか」ということで就職試験と進学判断の時期が重なるせいでしょうか毎年受ける質問でした。損得の基準をどこにおいた質問なのか戸惑うなかで、院卒が増加している傾向、企業の成果主義(昨今は見直されているが)、企業内の処遇、学歴社会の名残、本人の勉学意欲、家庭の経済状況など聞いたり説明しつつ判断材料を提供してきた。変わった相談には専攻学科の内容と結びつかない「銀行に就職したいが卒業生がいますか」というものがありました。本人の考えを聞くと「とにかく理系の会社はいやなので調べてください」と。ここでは同窓生の勤務先を把握している同窓会事務局にお骨折り頂いた。後日一人見つかりましたと報告にきましたがその後どうされたかは不明である。女子学生の中にアルバイト中、ブライダル産業に惹かれ就職したいがどうだろうという相談があった。返答に窮したが現代学生の柔軟な(?)考えに妙に感心したことであった。

志望企業の選択は就活の早期の段階にあっては(特に女子学生は)悩ましい問題のようでした。そんな時は「働きやすい会社」ランキング(日経新聞社)を紹介した。ビジネスマンが重視する働きやすい環境とはどんなものかに対しそれらの環境、仕組みが整っているか、利用状況は高いかなどを点数化したものであるがOB訪問にも役立つ資料であるし「働きやすさ」(産休、育休、介護セクハラの問題)は入社後自分の実力を発揮するため大事だからだ。生涯賃金など大した問題ではないだろうと説いて来た。

アドバイスするに一番悩ましいことは経済情勢の変化。この1年の採用人数減、内定取り消し問題は志望企業への入社を目指す留年を生み大学の負担を大きくしている。通年採用、春・秋採用企業も徐々に現れつつあるが4月採用が大半であろう。企業側の都合はよくわかるが一発勝負はなんとか是正できないものか。大変難しい課題ではありますが経済環境に左右されぬ採用計画とともに経

営の立場にある方々には是非一考をお願いしておきたい。学生さんには余裕をもって勉学に励んでもらいたいし、若いうちにしかできないことにも挑戦できる時間を与えてあげたい。

またポストクの採用に慎重姿勢の企業が多いようですが企業が積極的に博士をめざした若者を大事に育成する仕組みを構築して欲しいものです。国の予算を使つた人材が国外へ逃げ出すようなことがあってはならない。これでは知財立国は成立しないであろう。

**「第47回関東学生馬術女子競技大会・馬場馬術競技」
で東京農工大学馬術部が団体優勝！
石坂さおりさんと悠風号が個人二連覇を達成！**

田谷 一善（獣医S46）

平成21年11月14日（土）に開催された「第47回関東学生馬術女子競技大会・馬場馬術競技」において、獣医学科4年生の石坂さおりさんと悠風（ひろかぜ）号が昨年に続いて優勝し、二連覇を達成しました。また、獣医学科4年生の五味奈穂子さん（ハーディー号）が第7位、獣医学科4年生の登石裕子さん（蒼風号）が第9位に入賞し、団体でも見事に初優勝しました。

本競技会は、日本の馬術界の中でも最も層が厚く強豪大学の多い関東地区で行われる全日本大会に次ぐレベルの高い試合で、今年度も関東地区の20大学からの選手が参加して開催されました。

石坂さんと悠風号は昨年に続いての優勝でしたが、昨年から1年間は、本学馬術部にとって決して順調に過ぎた1年ではありませんでした。石坂さんと悠風号は、6月に開催された関東学生馬術競技大会・馬場馬術競技で第11位に入賞し、全日本学生馬術競技大会へ2年連続で出場権を獲得し、7月に行なわれたヤングライダー選手権大会（22歳以下の選手が出場する全日本レベルの試合でオリンピック選手の登竜門になっています）では6位に入賞するなど順調に成績を上げましたが、9月に入り悠風号が突然蹄葉炎に罹り歩くことも人が騎乗するこ

とも難しい状態に陥りました。蹄葉炎は、馬にとって致命的となる恐ろしい蹄の病気で、有名な種牡馬サンデーサイレンス（ディーブインパクトの父馬）もこの病気で死亡しました。悠風号は1ヶ月後に控えた全日本学生馬術大会への出場はおろか廃馬も余儀なくされる病状でしたが、懸命の治療により奇跡的に全日本学生馬術大会の僅か1週間前にやっと騎乗できるまでに回復しました。全日本学生馬術大会では、病み上がりにも拘わらず第13位に入賞しました。全日本学生馬術大会から2週間後に行なわれた第47回関東学生馬術女子競技大会でも悠風号の体調は全快ではありませんでしたが、石坂さんとの黄金コンビで無理せず最高の演技を披露し、見事二連覇達成を成し遂げました。一方、五味さんは、これまで2年間コンビを組んでいる看板馬の星風号が8月に急死し、急遽ハーディー号に乗り換えての出場と多くの困難を乗り越えての初優勝であっただけに喜びもひとしおです。

馬術部員の素晴らしいチームワークを称賛したいと思います。



優勝した石坂さおりさんと悠風号



五味奈穂子さんとハーディー号



団体優勝メンバー 左から登石裕子さん、石坂さおりさん、五味奈穂子さん



登石裕さんと蒼風号

最近のFSセンター事情

島田 順 (養蚕院S48)

先日、濱野國勝先生の定年退職を記念するパーティーが開かれ、津久井農場（現、FM津久井）で展開されていた16泊17日に及ぶ養蚕実習を体験した多くの卒業生にお会いすることができました。このような機会をお与えくださいました濱野先生に感謝いたしております。

表題のFSセンターは、同窓会員の皆様は既にご存じかも知れませんが、正式には農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センターといい、平成12年に農学部附属農場、同演習林、同波丘地利用実験実習施設を統合し、さらに獣医学科所属教員1名の移譲を受けて設立されました。FSセンターには、資源・物質循環、自然環境、野生動物保護管理、中山間地域農林業、都市型農業という5つの教育研究分野が設置され、府中、本町、津久井、多摩丘陵、大谷山、草木、唐沢、秩父に教育・研究フィールドを有しています。FSセンターでは、フィールドそのものを生きた展示空間と考え、各フィールドをフィールドミュージアム(FM)としております。FSセンターは、多様なフィールドを有機的に結びつけ、環境科学、生物生産学、森林科学、獣医学、人文社会学など専門分野を異にする多くの研究者によって地球環境の保全と再生、食料・資源問題の解決と資源循環型社会の構築を図るための総合的、学際的、実践的な研究領域であるフィールドサイエンスを推進することを命題として設立されました。しかし、FSセンターの全専任教員が一つの組織として教育体制を構築するには至らず、自然環境（旧演習林）と野生動物保護管理教育研究分野は地域生態システム学科の、資源・物質循環教育研究分野（旧波丘地利用実験実習施設）は環境資源科学科の、中山間地域農林業と都市型農業教育研究分野（旧農場）は生物生産学科のそれぞれ協力講座となっております。

FSセンターに関わる昨今の情勢として2点について報告したいと存じます。第1点目は、文部科学省から農場、演習林の共同利用を求められていることです。大学が有する人的・物的資源の共同利用・有効活用を促進するという観点から、中教審大学分科会に全国共同利用検討WGを設置し、その検討結果を踏まえ学校教育法施行規則の一部を改正し、教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程が昨年9月1日より施行されました。留学生関連施設、大学教職員の研修等の実施機関、練習船を皮切りに農場、演習林につきましても共同利用拠点を認

定するというところで、全国大学附属農場協議会、同演習林協議会にそれぞれの拠点認定基準に関する意見の取りまとめが依頼されました。共同利用拠点認定の前提として、農場又は演習林の利用対象は他大学の非農学部学生であること、認定にはそのような形態での共同利用実績を有すること、他大学の学生教育に農場、演習林を提供、活用できることが学則に規定されていることが挙げられております。農業体験を教育に取り入れることにより、感じる力、考える力、伝える力、さらには生きる力が育まれ、自然－農業－食料－身体－心－社会、文化という繋がりの中で、今日的課題である環境問題、食料問題を把握することも可能になり、目標に向けた知見の統合能力も培われると確信しておりますし、高等教育の中で消費者教育を実施することも必要だと考えております。農学部学生を対象とした専門科目としての農場実習と非農学部学生を対象とした農場実習では、おのずと内容を変えざるを得ませんが、農場実習の効果は情緒や感性といった面以外にも少なからぬものがあると考えております。農場協議会、演習林協議会と文科省の多くの意見交換を経て昨年度末に農場、演習林の共同利用拠点の公募がなされましたが、本学FSセンターでは教育スタッフと共同利用実績の不足から申請を断念いたしました。従って、今後はFSセンターが有するフィールドの有効活用に関する一層の努力と説明が求められることが予想されます。FSセンターでは、地域貢献にも一層の力を



竣工なった新店舗



販売実習風景

入れるべくFM唐沢山、FM津久井のそれぞれが位置する栃木県佐野市、神奈川県相模原市と今年度に相次いで連携協定を締結いたしました。

第2点目は、FSセンター生産物の売店（農工夢市場）を新装、移転したことです。農工夢市場は、農業生産技術のみならず生産物を換金するまでのさまざまなノウハウと戦略を持たないと農村社会の指導者に成り得ないと認識から、販売実習や消費者ニーズを把握する現場として、現学長の支援をうけて平成18年1月に正門脇の守衛所を改修して開店いたしました。以来、売り上げは増加の一途を辿り、来店者も増加したことにより店内が手狭となりました。そこで、店舗を拡張、移転することとなり、南門脇に新店舗を建設し、本年4月22日にオープンいたしました。建設費の原資にはかつて農場に永年勤務されていた山口幸子さんのご遺族の方からのご寄付を充てさせていただき、大学本部および農学部からの支援を上乗せして竣工にいたしました。ここに山口さんのご遺族並びに学長をはじめとする本学関係者に厚く御礼申し上げます。教育や地域に向けた情報発信に一層の活用を図りたいとFSセンター全教職員が一丸となって努力いたしております。

昭和32年卒業獣医学科クラス会記

加藤 正彦（獣医S32）

昭和32年獣医学科卒業のわがクラスは平成21年11月18日、東京農工大学本部の武蔵野荘で10回目のクラス会を行いました。卒業後52年、私たちのクラス会は大まかに5年ごとにクラス会を開いてきました。

しかし「喜寿」近くなると、景勝地の温泉に浸かり、夜を徹して痛飲、語り合うスタイルのクラス会は難儀です。クラス会準備段階でアンケートしたところ、「母校が懐かしい!」「級友に会いたいが、健康に自信がないから不参加」という回答が意外に多かったので、母校の武蔵野荘を会場に選び、午餐会としました。

開催地東京、会場は母校、泊りがけでなく午後の半日、という軽量クラス会だったせいも、遠くは岡山県津山市、香川県高松市からも参加いただき、21名参加という盛況でした。

卒業時の人数は32名、物故者3名、音信不通者3名ですから、26名中21名の参加者、参加率81%ですが、わがクラスの少し変わっているところは、2年生教養課程終了時に医学進学コースへ進み、医師になった級友二人が10回のクラス会を皆勤していることです。二人とも「府

中こそわがふるさと」と言っています。

さて、いよいよクラス会当日、開会1時間前に集合してもらい、獣医学科渡辺教授にキャンパスを案内、説明いただき、私たちは母校の発展ぶりに瞠目、感嘆しました。ちなみに、渡辺教授はわれわれの入学した昭和28年にはまだ生まれていなかったそうです。

クラス会開会に際して、惜しくも他界した3人の級友、高梨、温、大竹の3氏の冥福を祈り黙祷をささげました。高梨君はガン、温、大竹両氏は糖尿病でした。

開会劈頭のスピーチは板庇外茂雄獣医学博士「獣医学研究者としての半生」、奈良医大へ進み、世田谷区赤堤で相川小児科医院を開業している相川陸子医博は「ありのままに生きる…還暦後の栄養と食生活」を述べて下さり、感銘と生活のヒントをいただきました。

続いて参加者各人の近況報告、思い出など、それぞれの「人に歴史あり」が披露され、大いに盛り上がりました。

板庇氏は獣医学徒憧れの家畜衛生研究所で研究者の道を歩み、北大で獣医学博士号を取り、43歳から病態関係の管理職部長を務められた学究の人であります。相川氏は小児科医の権威で、各地の健康づくり講演会のスピーカーとしても活躍されています。

クラス仲間の半世紀の軌跡を回顧すると、国家公務員行政職2、同研究職2、地方公務員7、民間企業では乳業5、飼料・畜産4、薬品2、競馬会関係3、大学教授2、農協・共済3、臨床獣医師5、医師2、地方政界1。（途中転職もあるので合計は38になる）

獣医学科が4年制で大学院進学がゼロだった我らの時代、それでもわがクラスには博士号取得者が8名もいます。大手企業専務、研究者、国、県、市の衛生、畜産畑の幹部、大学教授、町長といろいろですが、共通して長寿、健康な人が多いようです。しかし、とりたてりリッチになった人もおりません。

今回のクラス会に際し、物故者も含め、級友の便りを



クラス会参加者

(撮影 鷗坂精吾氏)

まとめた文集「邂逅」(A4判45ページ)を発行し、全員に郵送しました。「邂逅」誌は級友名簿も兼ねています。

クラス会は元気も補給するようで、半世紀以上過ぎていても、母校に集まった級友の面々は一様に感激しており、それこそ時の経つのも忘れ、思い出を語り合いました。

参加者の一人、池田澄雄君、彼は獣医学博士号を持つ鶏病のスペシャリストですが、児童詩の分野では高名な詩人です。池田君の詩は小学校の副読本に採用されています。その池田君が母校を詩に詠みました。

その詩「東京農工大学 わが母校」を掲げます。

東京農工大学 わが母校

作詞 池田澄雄

(一) けやきのこずえが 風に鳴る

武蔵野の原の中央に
 白く輝く時計塔
 真理を求める わが母校
 野の草しげる 道の辺に
 心懸わせ わが友よ
 集い 学び 競い
 語れ 青雲の憧れも
 東京農工大学 わが母校

(二) 虫すだく野を 歩むとき

桑の葉は 月の光に照り映えて
 窓辺に 動く人の影
 伝統と 革新を 心に
 巧みの技を 極むらん
 若き日の 情熱を込めて
 更なる高みを 目指しゆく
 東京農工大学 わが母校

(三) 蹄鉄の音 土をけり

いななき響く 学び舎に
 農と工との 真髄を
 学べる我らが 幸せよ
 努め 鍛え 高める 学識を
 業と真理を 二つの肩に
 開く国土の行く末を
 東京農工大学 わが母校

武蔵野山梧会 卒業50周年記念総会を開催して

岡部 廣二 (林S35)

我々が昭和35年に東京農工大学農学部林学科を卒業してから、50年が経過した。我々のクラスは、卒業したとき3つの約束をしたが、そのひとつが、毎年お互いに連絡を取るために会誌を発行すること、毎年東京の近くの者で新年会を行うこと及び5年に1度全国の会員が集まる全国総会を行うことである。既に本会報で井上君(宮崎市在住)が山梧会会誌について紹介しているが、現在51号の発行を準備中である。毎年の新年会を行い、5年に一度の全国総会も毎回行い、ついに今年5月15・16日に、会員15名の参加を得て、府中市において50周年記念総会を行った。このように山梧会が、長期にわたり活動できたのは、初代の幹事の馬場君(同窓会東京支部長)、第二代幹事の荒井君(同窓会元理事)の努力と会員各位の協力の賜物であると感謝している。

さて、5月15日午後3時、農学部本館前集合としておいたところ、驚いたことに1時間近くも前に来て構内を廻って見てきたという者が複数いたが、遅刻した者は誰も居なかった。全員が集集合した後、農学部構内の見学を行ったが、この見学には大学院農学府の戸田先生にご迷惑をおかけし、種々ご配慮のもとに、塚田、林両院生にご案内を、さらに大学の資料と記念品をも頂戴した。ここに深く御礼申し上げる次第です。

構内の見学では、かつての本館前の大きく成長したケヤキ並木、無くなってしまった見本林跡、実習を行った苗圃、広い農場、駒場寮跡の碑など懐かしく、往時を思い出しつつ見て廻った。その後、府中駅近くのホテルに移り、総会、懇親会を行い、旧交を温めた。この席で、丁度、同窓会が募金を行っているのので、卒業50周年記念に些少でも応募したらどうかということになり、後日、戸田先生にご迷惑をお掛けしましたが、振込み用紙をお



山梧会50周年記念 (農工大・農学部本館前にて)

送りいただき、幹事の責任で送金した次第である。

武蔵野山梧会は今後も、今までとほぼ同様に、末永く会員相互の連絡を行ってゆき、元気で次の55周年総会に再会することを誓って解散した。なお、当初、2・3年続けられればよいがと、冷やかされた山梧会誌ではありますが、今後も事情の許す限り、続けてゆきたいと思っている。

吉村 聡君への別れの言葉

岡野 幸治 (林S62)

平成22年7月27日(火)西日本に記録的な豪雨をもたらした梅雨も明けて間もない、連日の記録的な猛暑に見舞われた群馬県で彼は倒れた。熱中症を伴う過労だったのか担ぎ込まれた伊勢崎市民病院で治療を受けるも、彼の「くも膜下出血」は手の施しようもなく、8月1日(日)家族に見守られながら永遠の眠りについた。

吉村 聡、享年48歳。

葬儀での別れの言葉をもって、彼の短い生涯への追悼と同級生への告知としたい。

昭和62年の春、我々林学科4年生32名を含めた卒業生の中に君もいた。

講堂へと伸びる櫟並木を母校のベンチマークとして共有したが、彼のいつもの「くだらないだじゃれ」と少し達観したような、そして何ものにも囚われない柔軟で、時に突拍子もない思考の持ち主であったこと。そしてこれまでの私の世界観を、幾ばくか広げてくれたことをまづ記したい。

……櫟寮生だった彼。朝、自転車で府中キャンパスを目指すクラスの高尾勇一郎を掴まえて「君の後ろに一週間乗せてくれ。次の一週間はオレが君を乗せて通う。そうすれば二人とも楽ができる」……とにかく、おもしろいやつだった。

……砂防工学を選んだ彼は、いつも真剣な眼差しの塚本教授。穏やかな言葉遣いの太田先生の居られる研究室でも、色白で背が高く、肩幅が広い容姿と、比較的上品な関西弁で(生涯)誰にも臆することもなく(それで良いのだ)過ごした。

……彼の趣味は強いて言えば「コレクター(蒐集家)」ジャズや軽音楽を好んだ時は、1千枚以上のレコードを集めた。次にモデルの写真集。最近ではフィギュア(小さな人形)だったという。

いまは無き、あの「雲と自由の住むところ」櫟寮での

悩みの中から自立と自治意識を身につけたという彼。野良犬「太郎と次郎」を飼い、或いは「青い絆纏(はんでん)」から彼を思い出す同窓生もいると思う。

卒業後、就職して彼も群馬県前橋市に赴任してきた。ごちんまりとした農工大から同級生4人も群馬での生活が始まった。子供が好きだった彼はものの見事3年で測量設計会社を辞め、学童保育を始めた。自由で囚われない彼の才能はここで開花したと思う。当初、行政の補助があったとはいえ、私設の学童保育所は決して楽な運営では無かったと思っている。

子供と一緒に体を動かし、自然の中で五感を育み、何事も疎外しない共通体験の中から子供の成長を促した彼に、多くの自閉症の子も心を開いたという。彼に子供をみて貰いたいという何人もの親子が、転居してまでも彼の元に通ってきたという話を幾度と無く聞いた。とにかく、「吉村さんだから……」という絶大な支持があった。

行政事情で彼の保育所が継続できなくなり、やむなく転職したが、現実社会の荒波は、こと彼の気持ちと現実の生活にはとても辛く当たったとしか思えてならない。その頃から時代は自助努力と自己責任ですべてを解決せよと強要した。

つかの間、若くて気だての良い伴侶を得た吉村君。その幸せな生活ぶりは、この地で知り合った紙芝居屋とギター演奏を趣味にしている岩渕健二君からの別れの言葉から推し量ることができた。同じ関西出身の彼とは19年の付き合いであったという。

卒業して23年。かつて僕らは毎週のように顔を合わせたときもあったが、日々の雑事に追われ近くにいなながらも、年賀状だけの挨拶で済ます時間が続いた。それが、この1月24日の県民会館、岩渕健二君の「ヨロコンドンコンサート」での再会。来てくれたみんなに喜んでもらいたいから「ヨロコンデ」。そんなメッセージを掲げた実行委員に学生時代となんら変わらない姿の「よっしー」がいた。

そして、2月15日(月)この地の同級生4人で酒を囲んだ。意外にもこのメンバーが顔を揃えたのは初めてだったかもしれない。おおらかな君のことだ、他にももっと親しい友がいただろう。もちろん寮生の繋がりには生涯揺るぎないものと分かっている。酒が進み、ようやく前橋の地に根を下ろした笑顔の君、その姿をみて気持ちが安らいだのを覚えている。

でもそのとき、こんなにも早く唐突に、しかも完全な形でもって彼の地へ旅立つとは考えてもみなかった。

人生における示唆は、最後まで君から賜ってしまったことになる。

君と過ごした学生時代を礎にこれからも生きていく。苦難の時、不明の時、君ならばどうしただろうか？これからも問いかける。

願わくば君、遺された家族、そして僕らを見守ってくれ。さようなら、吉村聡君。

平成22年8月4日 群馬県前橋市にて

たぶんうちのクラスで初めての物故者となった吉村聡君への追悼文です。



右から故吉村聡君（林学科62年卒）、深澤裕司君（同）、黒澤勉君（環境保護学科62年卒）、筆者（林学科62年卒）
平成22年2月15日撮影のもの

大人になって再び始めた剣道

稲葉 健司（農工H2）



平成2年度農学部農業工学科卒の稲葉健司です。皆さん、お元気ですか？懐かしい方々がこの文章を読んでもくれたら、とてもうれしいです。私は札幌に妻子を置き、オホーツク海に面した町、北海道紋別市に単身赴任しています。紋別は北海道の中でも剣道が盛んな町で強豪剣士を何人も生み出しています。私はここで北海道職員として道営草地整備事業を担当する仕事の傍ら剣道の修行をしています。

私は新潟県村上市の出身で小学校1年生から剣道をしていました。高校二年生の春、前年に父が亡くなったこともあり受験勉強に集中するために大好きだった剣道をやめました。私の高校は猛稽古で知られ、毎日、地獄のような稽古をしていました。事情はありましたが、剣道部をやめたことにより、稽古から脱落し仲間を裏切ったことになったと思ひ込み、もう二度と竹刀は握らないと心に決めていました。それで農工大では少林寺拳法部に入りました。当時、剣道の体育授業に来ておられた百鬼

先生に何度誘われても剣道の稽古に行く事はありませんでした。

そのような私でしたが上の子供が小学校に上るころ、ちょっとショックな事がありました。内容は書きませんが、原因は私が「誰とでも仲良くしなさい」と教えてきた事から起こったことでした。この時、子供に「善悪について自分で考えること」「時にははっきり断わる強さ」を学ばせたいと思い、これを身につけさせるために、若いころ親しんだ武道をやらせたいと考えました。

それで最初は少林寺拳法の道院に連れて行きました。よせばいいのに私も十年ぶりに拳法着を持ち出し、稽古に参加したところ、茶髪のお兄ちゃんに、いいようにボコボコにされてしまいました。これではたまりませんので、別の日に、今度は剣道の道場に連れて行きました。家庭では体験することのなかった厳しさに最初は（いや、ずーっとかなあ）嫌がりましたが、子供は2人とも中学校3年生まで剣道を続け、有段者となることができました。一方、私も子供を送り迎えているうちに、自分の内部から、うずくものがあり、再び剣道を始めることにしました。小学校低学年から中学校3年生までの多感な時期に一緒に剣道が出来たことは、子供たちと私にとって、大きな心の財産になりました。

私の剣道の師匠は「仕事や生活に活かさなければ剣道をしている意味がない」と言われます。仕事をしていて逃げ出したくなることもあります。剣道で学んだことから、何とか前に進めることもありました。今後、剣道の修行を続けることにより他者の人格を尊重できる人間になりたいと願っております。今、私の夢は高校時代の剣道仲間と再び出会い、稽古することです。いつの日か実現したいと思っています。

農工大の思い出&近況報告

立川 道雄（電気S41）

私は電気工学科の一期生です。入学した年に繊維学部から工学部に改変されました。1年目は教養課程で府中へ小金井から通い、未だ電気工学科の建物はありませんでした。専門課程になった2年目にやっと4年間過ごした「西ヶ原寮」の真前に1/3程完成しました。寮に建設会社から作業員のアルバイトの募集があり寮生が建設現場で稼いでいました。

当時の西ヶ原寮は木造の文字とおり「おんぼろ」で週刊朝日のグラビア写真で紹介されたこともありましたが、私にとっては快適、安価でなにしろ1日の食事代が100

円で大変過ごしやすい所でした。その寮に高校3年B組の同級生が3人、生活していました。現役で入ったF君(機械工学科)、1浪のK君(繊維工学科)、2浪の私です。同じ学科でなかったのが幸い?でしたが……一応、皆「先輩」です。大学では自動車部に入りました。ただで運転免許が取れるという単純な動機です。これまたおんぼろ車で大学の構内を助手席の先輩の指導で練習し、最後、近くの自動車学校で何時間か乗り府中の試験場へ行きました。部活には余り真面目に参加しませんでした。それでもエンジンをおろしたり、ラリーに出るため3分でパンクしたタイヤをチームで交換する練習等、一通りしました。夏休み・春休みの長期休暇中は遠征ということで九州一周、四国一周、能登半島一周などいろいろなところへ行きました。今でも車で出かけるのが好きで別府から金沢まで行って日本海側を高速を使わないで走って帰ったりしています。家庭教師のバイトもしていました。

バイト先は中野で中学生を見ていました。週一回、電車で都心に出るのが楽しみでした。その子のお父さんが税務署長さんでよく新宿武蔵野館など映画の招待券をもらったりしました。歌舞伎座(現在は立替中)の昼食付の招待券もいただいたことがあり見に行きました。

バイト代プラスαで大変良い経験をさせてもらいました。その教え子小金井に出来た中央大学付属高校に入学しました。今でも年賀状のやりとりをしています。

父が教員だったので教師になるのが嫌で工学部に進んだのですが故あって大分へ戻り高校の教師になりました。専門高校で「電気」「電子」「情報」などの科目を教えています。

定年後も非常勤で未だ出ています。昨年までは高校2校、短大1校の3校掛け持ちで現役のときよりも多忙でした。短大(別府大学)で教えるのは初めてで勤まるかどうか心配でしたが高校とはまた違った環境で、楽しくやらせてもらいました。留学生(殆どが中国から)に情報(ワード、エクセル、パワーポイント、HTMLなど)を教えていました。中国からの留学生は日本の学生より熱心で頑張ります。ワードで「自己紹介と将来の夢」のテーマで毎年、書いてもらいます。その中で「国へ戻り起業して社長になる」、「自分が留学してお金がかかるので弟、妹は進学できない。そのため頑張って兄弟達を進学させたい」など、まだまだ「ハングリー」精神があります。過っての日本と同じです。もう少し短大で教えたかったのですが大学も経営が厳しいようで選択科目を減らしたようです。下記のURLは簡単に出来るHPということで教材用に開設しました。今は私用に使っていますが、毎年11月頃の記事には留学生のHPにリンク出来る

様にしてあります。良かったら読んで見て下さい。

中国には「縁」があって、今回、海外赴任で娘一家が広州へ行くことになりました。主人は5月から単身で既に行っています。2学期から孫たちも合流します。今、中国でストが多発しています。娘の主人も苦勞しているようです。「世界の工場」かつ「世界の市場」ですので外国の企業も撤退は出来ないと思います。私も夏休み行ってみようと思っています。いろいろ不安や心配もありますが、子供たちには良い経験が出来るかと期待しています。

URL <http://blog.livedoor.jp/tachan2/>

農工大に入学した頃のことなど

西村 寿(農工S50)

私は、今からちょうど40年前、東京農工大学に入学いたしました。京都府の田舎出身で、不安だらけではありましたが、若かったのでしょう。東京で勉強するという夢と期待の方が大きく目にするもの全てが新鮮でありました。学生紛争も盛んでありましたが、集会やデモにも参加しました。勉学にもそこそこ取り組んでいたと思います。もちろん、夜を徹しての麻雀もしましたが「日本はどうあるべきか、若者はどうあるべきか、大学は……」などと夜遅くまで話したこともたびたびでした。そんな時代でした。

ところが、昨日の新聞では「70万人の若者が引きこもりで家から外に出られない。155万人はその予備軍」との記事がありました。原因は「人間関係を作っていくのが苦手な若者が増えている」と専門家は分析しているとのこと。私の子供達の世代(20代~30代)が職業にも就かず(就けず)家に引きこもっているという現実。「競争社会」、「頑張った者が報われる社会」、「勝ち組、負け組」どれも私にとってはいやな言葉です。私の学生時代と比べて、人々は果たして幸せになっているのだろうかと思わずにはられません。

さて、私が住む地域は農村で、全国どの地域でも同じなのですが後継者不足が進んで農業の継続はもちろんのこと、みんなで協力して維持してきたため池や井堰や水路などの管理が危機に瀕しています。祭りや伝統的な行事も心配な状況です。このため、私の地域では数年前から「地域の農業は地域全体でやっぺいこう」、「地域の農地は荒らさない」をモットーに「法人による集落営農」に取り組んでいます。ちょうど私も今年度いっぱい定年を迎えますので、来年度からは集落営農組合の役員として地域全体の農業の推進に寄与することが求められてい

ます。収入面では激減しますが親や先輩方が守ってこられた地域を何とか維持できればと思っています。特産の「丹波大納言小豆」、「減農薬且つ有機肥料だけで育てたコシヒカリ」など消費者に喜ばれ、ちょっとでも高く売れる農業経営を模索しているところです。

私は定年後も収入は少なくとも、幸せなことに農業というやるべきことがあります。しかし先ほどの新聞記事のように、職業にも就けず家からも出られない若者がたくさんいます。心が痛みます。明治の初め多くの武士階級を農業が吸収したように、戦後、多くの農村の若者が都会に働きに出て高度経済成長を支えたように、今度は職業に就けない都会の若者を農村が受け入れられる制度やシステムができればよい方向にいくのではと思います。

それにしても農工大はいい学校でした。今でもそう思います。

ありがたき母校を訪ねて

平山 誠 (農化院 S47)

久しぶりに母校を訪ねる機会を持った。私の同期の高橋教授にお願いごとがあったためである。新宿で京王線の特急に乗って、懐かしい車窓を眺めているうちに、運転免許を取った東府中の教習所が過ぎ、程なく府中に着いた。駅舎も新しくなり昔の面影はなく、昔のバス停はこの辺だったと思い出しながら歩いて行ったが、全く様変わりしていた。

乗り込んだ農工大経由のバスは、櫛並木道路を走りだした。これだけ長い間、車の排気ガスに曝されても立ち続ける大櫛に感心しながら、バスに揺られた。

キャンパスの端のバス停で降りて、すぐに構内に入ろうかと思ったが、講堂前に櫛並木があることを思い出して、正門まで歩いた。丁度若葉の季節で、新緑が櫛の細い枝振りに沿って陽光の中に輝いていた。櫛の梢の向こうに講堂が見えて、何故か44年前に入学した時のことをふと思い出した。入学式には母が付いてきてくれたことも思い出した。一般教養の一年間にあった様々なことが走馬灯のように巡ってくるのを感じながらふらふらと昔一般教養の教室があったところを歩いて見たが、記憶と一致する場所はほとんどなかった。旧川村研究室があった場所は公園のような瀟灑な広場が変わってしまっていた。研究室があった頃は、和田先生も加わってバトミントンをしている光景が名物となっていたことを思い出しながら、やっと目的の建物にたどり着いた。玄関をくぐり、2階の高橋研究室に行くために階段を上りはじめた

が、3年間お世話になった場所はさすがに迷うことなく歩けた。ケミカルな臭いの漂う廊下の突き当たりが、目的の場所であった。

川村先生をはじめ、和田先生、上原先生には大変お世話になり、本日、その場所を訪問できることをありがたく感じながら、皮革研のT教授に言われた言葉を何故か思い出した。小生が「専門知識を修得したいならわざわざ大学に来なくてもいいかもしれませんね。」と言ったら、T教授が「大学で学ぶことは有形、無形なことがある。その無形なものが大切なんだよ。」と言われた。自分で気が付かない無形なものは沢山あると思うが、人との繋がりもその一つであろう。人との繋がりと言え、卒論の時に、まだ卒業をしないままある障害者施設で働いているM氏に出会ったことは、平坦な道しか歩いて来なかった小生にとっては、貴重な出会いであった。M氏は父親からなんとか卒業してほしいと言われたことが、卒論挑戦の動機だったと語ってくれたが、今でも志を変えずに精進されており、寄付の連絡を頂く度にあの頃が甦ってくる。

さて、思い出話が長くなってしまったが、今回の農工大訪問の理由の説明と自己紹介をさせて頂きたい。小生はハウス食品(株)を定年退職後、縁あって、社団法人日本惣菜協会で惣菜管理士養成研修のテキスト編集とHACCPC認定事業に携わっている。高橋教授に養成研修のテキストの新しい著者の紹介をしてもらうことが訪問の目的であった。幸いにして高橋教授から、以前に学位取得の際に指導をした食品会社勤務の技術士のY先生を紹介してもらうことができ、目的をすんなり達成できた。その後もY先生にはお世話になっており、重ねて農工大学に感謝する次第である。

60年昔の思い出

渡邊 實 (農 S24)

私が東京農林専門学校農科に入学したのは、第二次世界大戦が日本の敗戦で終わった年の翌年の昭和21年4月であった。戦時中の大変な食糧難を経験した私は、平和になった日本が農業立国として食糧の確保を第一にしているであろうと考え、迷わずに本校を志願したのであった。

当時の学科編成は、以前からの農、林、獣医畜産の3科に、この年から新設された農芸化学、農業土木が加わった計5学科であった。われわれ農科の学生は約50名で、その約半数は軍隊と軍の学校(陸軍士官学校、海軍兵学校など)から復員した人達であった。

入学1ヶ月後の5月には1ヶ月間の全学「田植え休校」となった。これは田植えの農繁期に農村出身の子弟が帰省して農作業を助けるために設けられた臨時休校であった。都会育ちの私はリュックを背負って食糧（主にサツマイモ）の買出しに出かけ、超満員の列車の窓から無理やり乗り込んで帰って来たものだった。

私は自宅からの通学生だった。当時の国分寺駅は北口のみで、未舗装の国分寺街道を歩いて登校した。この道は現在の東元町交差点（当時は本村）に数軒の下宿屋があったのみで、学校までの沿道はクリ林と武蔵野の雑木林の連続であった。6月ごろにはクリの花の甘ったるい香りにむせながら歩いた。バスは最初しばらくの間は木炭バスであった。これは戦時中にガソリンが無くなったため、バスのうしろに大きな釜を背負って、薪を燃やしながら走ったのである。一日の運行台数もごく少なく、朝の登校時には学生がステップに鈴なりにぶら下がっていた。

農科学生は農場実習が必修で一週間のうち3～4日の午後に行われた。広い農場は戦時中の人手不足で荒廃していたので、我々の実習はまず雑草の除去と、長い柄の江戸ぐわを使っての畑土壌の耕起などの毎日であった。農家出身の者はこれらの作業は“朝飯前”であったが、都会育ちや軍の学校からの者には、炎天下での慣れない作業は重労働であった。寮生や下宿生はもちろん、自宅からの通学生も満足には食事がとれていないので、皆痩せており、直射日光に焼かれた真っ黒な顔に目だけがギョロギョロと光っていた。

二年次の6月のある日、分倍河原の水田で田植え実習が行われ、朝から夕方までの一日の重労働が終わったあと、白米のお握り2個とタクワン数切れが配られた。これが飢えた若者達には実においしく、生涯忘れられない感激であった。

“農場実習”の対語として“夜間実習”がある。主に駒場寮の寮生が夜間に農場のサツマイモ、ジャガイモ、トウモロコシその他を収穫し、自室に運んで飢えをしのいでいた。寮の食事は本当に乏しく、ほとんどの寮生が栄養失調と飢えに悩まされていて、“背に腹は代えられず”夜間実習に走っていた。ある時、同級生二人が運悪く農場の助手の見廻りに捕まってしまう、退寮処分となったのは気の毒であった。

私はすでに傘寿の齢となったが、後輩諸氏に昔の学生の学園生活の一端を紹介するのも意味があると思う、駄文を草した次第である。

波丘地農業研究所の羊

新井 紀子（農S45）

私はサラリーマンの娘として生まれ、関西の尼崎の工場地帯で育ちました。工場の騒音が絶え間なく、煙突からは真っ黒いすすが降りかかり、廃水池からは一日中いやな臭いが漂ってきます。

私が8歳のとき、生涯の1冊とも言うべき本に出会いました。『アルプスの少女ハイジ』です。さわやかな風が吹き、高山植物の香りがする大自然の中で暮らすハイジの生き方に強く憧れました。

「大きくなったら、スイスへ行ってハイジになるわ!!」

どうしたらハイジになれるのだろうか。私は考えた挙句、農工大学へ進学しました。

大学には広い農場がありましたし、牧場には牛や豚がいました。授業の中で、私の一番の楽しみは農場実習でした。ところが慣れない農作業は大変でした。気持ちは頑張るのですが、体力がなく剪定の枝1本を切るのに何十分もかかりました。逃げ出した牛を柵につなごうとするのですが、どうやっても動いてくれません。押しても引いてもだめでした。見かねたクラスメイトが、あっという間につないでくれました。施肥の穴掘りも一つ掘るだけで授業が終わりでした。こんなことでは、将来ハイジのように暮らせない。気分は落ち込むばかりでした。

ある日、先輩のOさんに誘われました。

「波丘地農業研究所へハイキングに行かないか。多摩動物園の裏手にあって、一般の人は入れないんだ。農工大生だけが入れるすばらしいところだよ。」

秋晴れのある日、私たち一行5人は、波丘地農業研究所へ出発しました。最寄の駅を降りると、冷えたビールとお弁当を買いました。波丘地農業研究所へ到着すると、静かな丘陵地が広がっていました。羊たちがのんびりと草を食べています。今まで見たことがない、静かでのどかな風景でした。波丘地農業研究所に常駐していた杉本（農S28）さんが説明してくれました。

「ここは、日本全土の7割を占める山間地の利用を研究する場所です。これまで、山間地は杉や松等々の造林が中心でした。牛などの大型家畜は、山間地では放牧することができません。しかし、羊の足は底面積あたりで考えると、家畜の中で一番重い体重を支えることができます。そのため、傾斜度がかなりある場所でも歩くことができます。糞は肥料として自然にまかれます。私たちは、日本の山間地の利用として、羊が一番良いのではと、研究しているところです。」



説明の後、日当たりの良い丘の上で昼食を取りながら、私は思いました。

「山の中で暮らすようになったら、ハイジのように山羊を飼ってみたいけれど、羊と暮らすのも素敵だなあ」

大学2年の冬、私は旅行中に一人の大学生に出会いました。私が、農業大学に在籍していることを話すと、話が弾みました。いつしか、一緒にいたいと思うようになりました。

私たちは、結婚し都会で暮らし始めました。彼が広告代理店のプロデューサーとして働き始めたからです。その後、彼は小説を書き始め、幸運にも芥川賞を受賞しました。三十年の歳月がながれました。三人の子供が独立し、両親も看取ったとき、私はすっかり忘れていた少女時代からの夢を思い出しました。「スイスへ行って、ハイジになりたい」

相談すると、夫も賛成してくれました。スイスへ二人で出かけました。そのときの体験が『ハイジ紀行～二人で行く「アルプスの少女ハイジ」の旅』(講談社文庫)という旅行記になりました。

今春、私たち夫婦は北海道大沼へ移住しました。駒ヶ岳の山麓に広がる森の中です。人間の姿は見えず、キタキツネやリスなどの動物を見かけるだけです。私は、念願だった羊を二頭飼って暮らしています。富士子とミミです。羊たちは、今日ものんびりと草を食べています。波丘地農業研究所で夢見た(羊を飼う生活)が40年ぶりにとうとう実現できたのでした。

静岡県への就職と支部同窓会

栗原 績 (農工S42)

昭和42年3月に農学部農業生産工学科を卒業し静岡県庁に奉職して以来、静岡県民として44年目を迎えています。

私は東京都北多摩郡保谷町に生まれ育ち、農工大学に

も自宅から通学しておりましたので、卒業と同時に初めて実家を離れました。

静岡県は東西に長く、歴史的な面からも東部・中部・西部に区分されており、出身地を尋ねられることも多いのですが、東京都下の出身ですと答えると、静岡に親戚でもあるのか、なんで静岡に来たのかという質問をこれまで度々いただきました。

この頃の静岡県は、全国有数の土地改良事業の実施県であり、特に大井川、三方原、天竜川等の大規模な農業用水事業が実施されており、農業土木技術者として魅力があり、さらに実家からの距離、暮らしやすさ等から、これまで特に縁もなかったが静岡に就職した旨お答えしてきました。

このように判断した理由の一つには、準硬式野球部と一緒に東都大学準硬式野球連盟の二部昇格を果たした一学年下の渡辺敏雅氏が富士宮市出身で、彼から静岡県の素晴らしさをいろいろ聞いていた事も大きかったと思われれます。

最初の勤務地は富士山麓の御殿場市でした。丹那トンネル開通以前は東海道本線であった御殿場線には二箇所スイッチバックも残されており東名高速道路は本格的な工事着手の直前でした。東富士演習場の補償としての開田工事や農業用水整備工事等に従事しましたが、夏の夜の富士山登山道の燈火、冬の月夜に映える富士山の美しさは格別でした。

その後、伊豆半島の下田市、西伊豆町で農地防災ダムの調査計画、工事用道路の施工等を行い、入庁11年目の昭和52年に県庁に異動し、土地改良事業の調査計画を担当しました。

昭和57年以降平成6年までの13年間は、島田・磐田・浜松の農林事務所と県庁で一貫して土地改良事業、農業農村整備事業に取組みました。

平成7年に初めて農業部門勤務を離れ、企画調整部資源エネルギー課で水資源調整を担当しました。

この前年から全国的な異常渇水で、県内でも大井川・天竜川からの取水制限を含む水利用調整に取り組みましたが、特に天竜川水系の佐久間ダムから県境を越えて愛知県豊川水系へ送水するため、利水者間の合意形成に努めたことが思い出されます。

その後、一年間農業部門に戻り課長を務めた後は、都市住宅企画課、志太榛原県行政センター、環境部、農業水産部を担当し、さらに平成16年から出納部門の責任者を務めました。

農業土木技術職員として入庁した私が、県庁勤務の後半約10年間で様々な部門で県政に取り組む幸運に恵まれま

したのは、事務・技術という専門分野に捉われず人材を活用した任命権者の方針の他、古くから東海道を多くの旅人が往来し交流が盛んだった事も関係しているでしょう。

今年で44年となる静岡生活ですが、入庁当時は大先輩の竹山祐太郎県知事の時代であり、初任の事務所では6年上で京都府出身の田端英丈先輩に公私にわたりお世話になるなど、多くの同窓生の皆様に支えられてまいりました。

また、現在私は東京農工大学静岡県同窓会の代表幹事を務めておりますが、毎年春の総会では本部理事を来賓に迎え約50名の会員が参加し、タイムリーなテーマについての会員の講演、参加者全員の1分間スピーチなども行っています。

毎年この準備、当日の進行などは若手の同窓生が順番で担当し、支部の運営を支えてくれており感謝しています。

農学部・工学部の卒業生、若手から大先輩まで多くの同窓生が参加する一層魅力ある支部同窓会になるよう、役員、事務局メンバーの皆さんと検討して行きたいと考えております。

支部同窓生の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

先日、農工大本部で渕野雄二郎同窓会事業部長はじめ農工大日中友好会の皆様にお世話になりましたが、私も本年5月から静岡県日中友好協議会の理事長を務めています。本県は温州みかんや龍井茶、そして観光やものづくりの面でも類似点の多い浙江省との友好交流を28年間続けております。今後、農工大日中友好会の皆様とも連携し、本学に留学された中国の同窓生とも交流できればと考えております。

息子が農民になりました

人見 達雄（農S45）



「コメの想いが粒さに伝わりますように」

これは、息子の太郎が自らコメ袋に手書きした言葉です。

一昨年暮れ（H20年）、「お父さん会社辞めてきたよ、農業やるんだ」と言いました。「何でお父さんに相談しなかったんだ」と言うと、「言われることは、わかっているから」と返ってきました。

それから一晩、太郎と農業のおかれている現状について語り合いました。でも、彼の場合は固くそして、先手必勝とばかり、辞表を提出してしまっていたのですから。

彼が約10年間勤めたのは、「ホンダの朝霞研究所」でした。定年になった私は一応子供たちを育て上げることが出来てやれやれ、これからは自分の余生を好きに生きたいと考えていたところでした。

私が東京農工大学農学科を卒業したのは40年前、大学紛争などで、留年した後の卒業でしたが、既に農業関係での就職は困難になっていました。折しも公害問題が深刻化し、昭和45年東京都に、美濃部都政の花形「光化学スモッグ対策プロジェクト」関連の職にありつくことができました。しかし、いつかは農業関係に戻ろうと考えていました。

子供が寝静まってから、妻の明美と、会津へいつ行こうかと話し続けていました。会津には親戚が放棄した、大きな屋敷と、田畑山林があったからです。しかし、子供が成長するにつけ、ずるずると時が過ぎました。そして、妻が教師をしていたことと、子供の教育の問題に直面するようになると東京から離れることが出来なくなっていました。

幼く意味などわかるはずはないと思っていた太郎は、こんな両親の寝物語を聞いて育っていたのだと、後からわかりました。当の私の関心は、「公害問題」から「環境問題」に移り、開発反対運動などに明け暮れるようになり、「農業は大切だが危険な選択」だと思えるようになっていました。

太郎の米づくりは今年2年目、住む家も、田んぼも、農機具も何もなく、保守的な千葉の小見川で一人始めました。膝から上までも潜るような条件の悪い谷津田を、多額の金を払っての始まりです。一年余りで蓄えた600万円の自己資金をも使い果たしてしまいました。今年5月始め、私は太郎と4日間、農業とりわけ、米づくりの置かれている絶望的状况について、お前が逆立ちしても展望が開けることは無いと話し合いました。しかし、彼は、どうしてもこの地で無農薬、減肥料の米づくりをやりたいのだと涙ながらに言いました。私は翌朝、逃げて帰りました。一週間後、「太郎の思うとおり、やればいいから」と葉書を送りました。ひとつだけ太郎にひっかかることがありました。それは、彼は人懐っこく、ひやかしても人が集まってきてくれるのです。「病は気から、憂気は現実へ」。

私は我が家への危機回避の「予防原則」を太郎に説いていたことに気づきました。「気があつまれば、あらたなベクトルが生まれるかもしれない」、そう思うと、なん

だか気がやすまりました。

昨年末、太郎の新米サンプルを少しだけ、恩師の松本正夫先生に送りました。すると、声だけは若々しい教授は「人見君が出さずに卒業した、卒論は息子が書いてくれるよ」とケラケラ笑いながら、電話がかかってきました。私のところを見透かした、先生の言葉に歓心せざるを得ませんでした。

日本のどの政党の農業政策にも、ほとんど展望は見られません。それは、「農業」を金の収支だけで考えているからではないのでしょうか。「労働」＝「賃労働」に局限してしまった現在、「働くとは、生きるとは何か」を考え直してしてみたいと思います。よく「人は生きるのではなく、生かされている」とも聞かされますが、私は「生かされていることより、己が生かされるに値するか」と考えざるを得ないのです。静かな余生をと思っていたのですが、息子の体当たり、自分に恥ずかしさを覚えます。今農業をやりたいという若者は増えていますが、そのほとんどは、暮らしていけません。日本の農業、そして環境を守る若者たちに、私の余生を捧げたいと思うようになりました。

グーグルで、「人見太郎」と検索してみてください。太郎の面白いブログが見つかるでしょう。

お姫様と3匹の侍

戸谷 政弘（製糸S40）

私が長年の念願であった海外での技術指導を始めたのは、平成14年に定年を迎えてからの事である。それまでには、タイやインドネシアでの仕事の誘いもあることはあったのだが、なにせ、私自身が現役ということもあり、帰国してからの仕事不安で、どうしてもふみ切れないでいたのが事実であった。

定年を迎えてからは、主に中国に行く事が多かったのだが、イラン、ウズベキスタン etc、求められるままに出かけており、昨年計らずもチャンスに恵まれ、JICAの仕事としてウガンダにおける蚕糸業の調査をはじめとした、生糸作りの指導を引き受けることになり、65日間の勤めを終えて、帰国したところである。

当地では、既に5年前から養蚕と病理の専門家として、山田永果先生が二化性養蚕の指導に加え、特に2年前からは日本式座繰り機による糸作りまで、その技術を伝えるべく努力を重ねてきた所であった。しかしながらJICAの立場としては、援助を続行すべきか否かの岐路に立たされており、大いに悩んでいたのも事実のようで

あった。

そこでこの年には、6月に東京農工大学大学院教授の濱野国勝先生が、又8月には農学部長の國見裕久先生が、養蚕と病理の短期専門家として、JICAから派遣され、かく言う私はもっぱら座繰りの指導と、繭や生糸のマーケティングの必要性についてのアドバイスを行ってきた様なわけである。

ウガンダには数年前に、アメリカの援助で小高い丘の上に中国製の自動繰糸機1セットと、その付属機械類がそっくり導入されていて、繭さえあればその工場が稼働出来るものと、ウガンダの誰もが信じ込んでいるようであった。それらをつぶさに視察した私は、もともと自動機での技術指導を最も得意としていた事もあり、電力はもとより給排水の必要性から、保要部品の詳細に至るまでリストアップした報告書を、ウガンダの農業省に提出することにより、その場所での操業は莫大な資本を必要とし、ほとんど不可能に近い事を説明すると同時に、川の近くへの移転しか、この工場を生かす道の無いことを申し上げた次第である。

しかしながら外国の援助で行われてきたことを、自国の資本でのみ行うのはとても無理な相談である。かつて、生産した繭が日本に輸出出来た頃ならいざ知らず、繭が売れない現状ではそれを生産した農家もしくは養蚕組合に於いて、電力も要らず給排水にも全く問題の生じない座繰りによる糸作りをすれば、ウガンダの蚕糸業はcottage industryとして充分成り立つのである。繭で売れなければ糸にして売ればいいのである。もちろんそのためにはマーケティングという事が必要となるのは言うまでも無い事であるが。

ヨーロッパで栄えた蚕糸業が時代と共に日本へそして今や中国へと移行し、やがてはインドへと移るであろうことは当然予想される事であるが、その次の時代には間違いなくアフリカに移ることになるだろう。

ウガンダでは国民の8割が農民でそのうちの3割の人々が、貧困に喘んでいるというのが現状なのである。今ここで、ウガンダの蚕糸業が再生されることにより、少しでも貧困層の人々が救われる事を祈念してやまない。

この度の事を一口で言えば、5年前から度々このウガンダにて孤軍奮闘してこられた、農工大出身の永果姫を救うべく、JICAの衣を纏い学部や世代を超えて発奮した、農工大出身の我々3匹の侍の一幕と言えるかも知れない。

人生常に挑戦

足立 憲一（製糸S35）

私は昭和35年に製糸学科を卒業しました。在学中は西ヶ原寮でお世話になり、ここでの生活が私の人生に大変有益であったような気がします。寮生活の思い出は沢山ありますが、当時農工大は全国でも珍しく再受験ができる唯一の大学でしたので私の同室者も東大に再受験で合格するなど15名程度の人が東大に入学したと後で聞きました。いずれにしても一流受験校並みでした。一方再受験なんかやめて本学が素晴らしい大学になるよう努力しようではないかと受験を諦めるように説得する動きもかなりあり、何人かは本学に残った人もいました。そんなこともあり私たち学年は西ヶ原寮を中心に結束力が大変強かった様な気がします。現在西ヶ原寮出身者による学科を超えた同級会が毎年行われているのも、それぞれの人生の中でこの寮生活がいかに得るものが大きかったかと私はいつも思っている今日この頃です。

さて、卒業後名古屋の商事会社に3年ほど勤めましたが、大学からの推薦もあり鹿児島県庁に5年間勤め、その後熊本県に入庁して平成7年に退職しました。県庁時代で一番の思い出は食品加工研究所長として奉職したことです。と言うのも今まで行政一筋でしたので研究機関での仕事は初めてで多少戸惑いも感じました。この施設は県内の農産物に付加価値を付けて農業所得の向上を狙うとともに県内の食品加工業の技術の向上を図るべく設立されたものでした。そこで私は研究所の加工技術の向上と一般県民の方々にどんなことを研究課題として取り組んでいるか理解していただくため基礎研究のほかに皆さんに分かりやすい研究をと言うことで異業種との交流を積極的にやってみました。一例として水産加工業や熊本大学医学部との交流が挙げられます。水産関係では県水産研究センターと共同研究による鯛を骨まで食べられる加工技術の開発に取り組みました。塩漬－乾燥－真空パッケージレトルトこの工程でやっとのことで製品（骨まで愛し鯛）が出来上がりました。（写真参照）



その後、新聞社、テレビ局の記者を招待して試食会を行いましたところ、余りにもおいしいこともあり地元熊日新聞をはじめ、日経の全国版、日本テレビのズームイン朝で取り上げられて我が加工研究所は一躍県内、全国で有名になってしまいました。当時も県財政は厳しい状況にあり研究所の予算も減額傾向の中で、このPR効果で前年並みの確保ができました。この研究に対して関係機関からの問い合わせをはじめ、東京の一流ホテルから結婚披露宴での引き出物にしたい等など、その中で特に印象に残ったのは東北の気仙沼漁協からの視察団でした。東北大学の教授を団長に数名の人が来られました。その中でかなりの技術を習得されて帰られたと思いますが、最後に言われた言葉が印象に残りました、私たちは鯛の加工は絶対にやりません、この研究は熊本県が公にした成果ですから他の魚でやりますとのことで、素晴らしい気配りをしていただいたような気がしています。その他、熊大医学部との共同研究として野菜と活性酸素との係わりの中で人参葉の研究にも取り組みました。

人参葉は赤しそ、とともに活性酸素消去に活性を持っていることは分かっていますが私は粉末にして研究実績を持っている熊大医学部に分析を何回もお願いしました。その結果40℃～50℃の低温風力乾燥で粉末にしたものが一番活性効果のあることを突き止めましたが研究半ばで退職しましたので自分の家で乾燥してミキサーで粉にしてそのまま飲んでいますが確かに利尿作用があるようです。同窓の方々も一度試してみてください。私は退職後県老人クラブ連合会に再就職しましたが人参葉の話は県下各地で伝えてまいりました。老人クラブは自分たちの健康づくり、生きがいづくり活動、一人暮らし高齢者の見守り活動（友愛活動）、奉仕活動等幅広い活動をしている全国最大のボランティア団体とされています。ここに9年間勤めて人生の先輩である高齢者の皆様からあらゆる面で見習うことが多く大変勉強になりました。そこで思い出させるのは愛媛県老人クラブ連合会の当時の古川会長さん98歳でした。私は上京のたびにデジカメで顔写真を撮ってA4判の写真をお送りしていました。ある日お手紙を頂いて私もデジカメを始めたいのでカメラの機種を教えてほしいとの内容でした。これには私もびっくり仰天98歳にもなってとついつい思ってしまいますが、彼の新しいものへの挑戦には感服してしまいました。

私は今生きがいづくり活動の一環としてカメラを本格的に始めて7年になります。最近では地元紙の写真コンテストにたまに入選するようになり写真も掲載されることもあり、老人クラブの先輩から新聞の写真見たよと電話をいただくこともあります。写真撮影をしていると必

ず感動の瞬間があり興奮もするし、多くの異業種の出身者とお付き合いができ、私の大いなる生きがいづくりにつながっていると思っているところです。

限界集落突入直前集落

白石 郁朗（農S46）

人口51.5万人を擁する県都・松山市の中心市街地から、坊っちゃん列車でコトコトと10分ほどで日本最古の道後温泉に到着。そこから、北部の中山間地へ車を走らせること15分。新旧の団地を横に見ながら、「坂の上の雲」の下の、標高150mほどの小さな谷あい位置するのが、我が集落＝上伊台町本村である。

伊台地区は、我々団塊の世代が若かりし頃、農業が盛んな5つの集落で構成し、柑橘類、落葉果樹、野菜、花き、筍、水稻などの複合的な経営体が多く、かつ仕事熱心なことで知られていた。日が暮れても「伊台のおいさん、これからよ」を合言葉に、「うちの親父は、農繁期に地下足袋のまま、板の間で寝よった。」のエピソードも。

そんな伊台は、昭和46年都市計画法による、いわゆる線引きで、規制の緩い都市計画区域外になったことから、4～5ヶ所の住宅団地が次々と誕生することとなる。あわてた（と思われる）県と市は、改めて市街化調整区域に編入し、無秩序な開発に規制をかけたが、結果として、下伊台町は、大小取り混ぜ9つの団地と3つの農業集落が混在し、上伊台町は、2つの農業集落が残る、という色分けになった。

集落の崩壊が、物理的な要因で始まるものではないにしても、それに近い思いを抱かせるような出来事が起きた。平成3年、雲仙普賢岳の火砕流発生から1か月後、暴れ梅雨が当集落を襲う。「ガラガラ、バリバリ、グオー」台所から裏庭に飛び出て目撃した光景の第一印象は、「地球に何かが起こった！」

倒壊しかけた民家脇の幅2mほどの小川から、勢いを増してドクドクと流れ出る土石流は、杉丸太とともに大型のウンボやダンブをもおもちゃのように、低地へと運んで行く。後で、1km上流のミカン園造成地が、幅50m、高さ5mにわたり崩壊し、ため池を埋め尽くし、杉や雑木をなぎ倒しながら、谷川を一気に流れ出たことが判明。ブドウ畑の親子2人と倒壊した家屋内の1人が犠牲となった。

被災の直前、本村集落は、戸数33、人口140人。うち、小中学生31人、65歳以上17人（12.1%）、80歳代0、という状況であった。それが瞬時に3人を奪い、以後、就職、

結婚、離婚、死亡等々による社会的減少に歯止めがかかっていない。19年を経た今日、改めて調べ直してみると、思わずひっくり返りそうになってしまった。

戸数29（うち、長期入院不在2、それ以外に65歳以上9）、人口80人（43%減）。うち、小学生2人、65歳以上38人（47.5%）、80歳代20人。定義では、この10月、65歳に達する女性がいるので、あと若いモンが2人抜けると、65歳以上50%と、晴れて!? 限界集落になる。そうでなくても、55歳以上が70%、80歳代が4人に1人というだけで十分な気もするのだが…。

陣容が整わないと、出てくる対応は、掛け持ちと長持ち——町内会・改良区・公園の会計兼啓発活動部長兼宮総代兼自主防災会庶務兼校区代表者会役員。町内会役員歴7年目、分館役員歴37年目というように——。そして、手抜き——末端農道の共同草刈りの中止、タブー視してきた除草剤の併用、分館役員の縮減——

少数精鋭の効能もある。例えば、10分館対抗の各種競技。同じ顔ぶれでの結束力と要領のよさで、実質13戸前後が、500戸近くの分館と互角にわたりあっているのだからたまらない。

このように見てくると、「限界集落」という表現は、病人や老人に対して「弱っているでしょう」と頭ごなしに言うのと同じで、言われる方は「客観的に言われてもナ」という感じ。

冒頭で紹介したような都市近郊で、かつ、限界集落当選確実ラインに位置するものとしては、

“踏ん張る集落”とか“おっとどっこい集落”あたりがむしろしっくりとくる。



気違い水と自然保護

貞松 光男（農S34）

さる環境関係団体の総会後の懇親会での話。祝辞では殆どの人が地球温暖化と世界生物多様性条約に絡んで絶滅ないし絶滅危惧種の問題に触れていた。そのなかで県議会議長がたまたま私の名前を出した。それが呼び水になったのであろう、酒宴にうつって若手の自民党県会議

員が私に議論を吹きかけてきた。彼は私の息子と同級生なので旧知の間柄であり、私は世間的に力もなく、かといって世論に訴えることもしない安全弁だと思ったのだろう。第一問は「トキの保護は本当に必要なのか」だった。普段はしない問いかけで彼の意図するところがわかった。気違い水(酒)を隠れ蓑にする議論に反発する向きもあるが気違い水は本気とも冗談ともとれる無責任な放言を楽しませてくれる。それが酒席の存在理由だと思うほどだ。だから、すごいアイデアと思ったのが酔いが醒めると支離滅裂だったりするのは当たり前。議員さん相手だ、不得要領、それが酒席にふさわしい。

本論にうつる。野生化の手を緩めたら自立できないのを自然保護といえるかというのだ。理屈は抜き、ロマンがあるじゃないの、センチメンタルでもいい、人のハートに訴えることは政治家にとって必要不可欠な要素だ。あるいは贖罪の気持ちがあるかもね。それとも実験的意味合いが大きいのか。実験はまさに実験であってそれが成功するかしないかはやってみないとわからない。だから研究にはロマンがあって、それを人の心に訴えると仕分けの対象にもなりにくいのだ。盃の応酬を重ねながら、本気で自然保護に携わっている人には響きを買うような内容の話を相手の腹の中を探りながら続けていく。

野原が消滅している。野原の草を田畑の肥料にするのもしなくなったし、役畜も飼わなくなったので粗飼料も必要ない。野原は第三者には森を荒らしていると見える。そこで慌てて植林する有様である。ボランティア団体が残された野原を保存するために一部を借り受け毎年草刈を実施している。止めたらどうなるか。トキの場合ほど関心をよばない。里山も同じことよ。里山全体の利用法があるか。面積が大きいだけに問題も大きいのだがそんなのに政治は口ださないよね、と時々挑発してみる。

県の植林に関するある会合で地元産の木を植えようということになって、ドングリの仲間の種子を拾って廻り、苗木業者に預けたことがある。苗はできたが結局使われなかったのが全部廃棄したと後で聞いた。空回りしても一歩前進だと、えっ！

化石燃料の功罪は色々あるが、いずれにしろ間もなく枯渇するだろう。いうなれば後期高齢者だよ。人間は神をも恐れぬ存在になっている。ここでは理屈を捨て神を持ち出した。かって、神の意思を無視してバベルの塔を建設して神の怒りをかった人間だ。今ふたたび同じ轍を踏もうとしている。だから人類は近いうちに滅亡するんじゃない。そうかもね。ただ、どういうわけか人類の存在以前に生物の大絶滅が数回起こっている。原因は今と違っているのは明らかだろう。その時代、強大な勢力

を誇った生物が絶滅したんだ。自民党も同じ運命かもね、と最後尻を放ち、多くの人が盃を持って待っているのでよき潮時とばかりに退散した。

農工大生の酒造り

池浦 隆太郎 (農化S62)

先日東京農工大学の新潟県支部総会があり、昨年に引き続き参加させていただきました。新潟県支部の総会があるということは、たまに送られてくる農工通信で知っていたのですが、今まで参加はしていませんでした。昨年なんかの拍子に私にも連絡が来て出席させていただいたのですが、出てしまえばそこは同窓の仲、知らない人ばかりでしたが、気軽に話をさせていただきました。

さて、今年の総会はちょっと変わって、総会前に私の会社を見学したいということでありました。実は私の家は造り酒蔵を営んでおり、日本酒を醸造しております。創業は天保元年(1830年)といわれているので今年で創業以来180年ほど経っております。初代はこの地で良い水が出ることを知り、酒造りを始めたそうで、私で7代目となります。

蔵は恐らく創業当時からの白壁の土蔵造りですので、自分で言うのもなんですが、なかなか重厚感のあるいかにも酒蔵といった感じの建物です。古い土蔵ですので、近年あった中越地震、中越沖地震では壁を中心に相当な被害を受けました。さらに46年前の新潟地震も経験していますので、少なくとも3つの大地震に耐えてきました。次にこの前のような地震があればさすがに倒れるかなと、ちょっと心配もしていますが、今のところなんとか立っています。

主な銘柄は「和楽互尊」(「わらくごそん」と読みます。)で、昭和の初期に私の祖父が長岡の偉人野本恭八郎先生と時の漢学者安岡正篤先生のご助言を得て名付けたそうです。「独尊なれば互尊至り、互尊なれば和楽至る(自分を尊ぶということはお互いを尊ぶことであり、お互いを尊びあえば世の中に和楽をもたらす)」といった野本先生の教えを酒名を持って世に広めようと、それで名付けたと聞いております。少々(というかかなり)難しい、酒の名前としていかななものかとも思ったりするのですが、時に非常に気に入ってくれる方もいらっしゃいますし、ちょっと変わっていていいか、という考えで、現在まで70年くらい主要銘柄としてやっております。

小さい蔵ということもあり、前杜氏引退後、私が杜氏(酒造りの責任者)も兼務して、直接日本酒を醸してお

ります。日本酒醸造の基本は知っていますし、設備もあるのですが、本当に自分の求めた形の酒を醸そうと思うと、やはり経験とさらなる勉強が必要だと感じます。毎年気候や米の状態は違いますし、いわゆる並行複発酵の糖化と発酵のバランスを思ったとおりに持つていくことは至難の業です。ファクターの多い作業であり決めることも多いですし、分析もしますが分析の数字だけでは判断できないことも多いです。そして最後は結局利酒です。自分の舌を信じ決めていく。何年かやってみて、前杜氏が何気なくやっていた作業や判断には膨大な知識と経験が基礎になっているのだと改めて感心しています。

肝心の酒の味は「味のあるやや辛口で飲み飽きしない個性ある日本酒」を目指しております。誠に小さな蔵で地元を中心にご愛飲いただき、新潟県外では、また新潟県内でも地元以外ではあまり見かけないかもしれませんが、どこかで見かけた際は是非試飲してみてください。よろしくお祈りします。新潟の酒という「越乃寒梅」や「久保田」「八海山」など有名銘柄を思い出されるでしょうが、私の蔵のように本当に小さな蔵も合わせると96蔵もあります。お酒好きな人、新潟に来ていろいろな蔵の味を楽しんで下さい。

酒蔵の子弟という有名なところで東京農業大学の醸造学科がありますが、私は国立志望でしたので農工大を選びました(でもよく農大に間違われますが)。入学してみれば広い農場があり、優秀な教授や仲間に恵まれとても楽しく過ごさせていただきました。農大のような縦横の繋がりが羨ましく感じることもありますが、私なりに農工大生ならではの日本酒を醸せたらいいかなと思っております。また私以外にも農工大出身で酒造りをされている方がいると思います。そういう「農工大の酒」を探して飲んでみたいです。

日本酒需要は長期低落傾向で、酒造業としては先行き大変ですが、おいしい日本酒文化の一翼を担っていると自負を持ち、もう少し頑張っていきたいと思っております。皆さん新潟にお越しの際はぜひ当蔵にもお立寄り下さい。たくさん試飲してってください。日本酒なら売るほどありますので。



仕事の近況報告と「すた井」のことなどなど

西野 実 (農学院H9)

私は、農業研究所という三重県の部署で農作物の害虫防除に関わる研究を行っています。今の職場に配属されて、かれこれ10年になりました。三重県に入庁してから、3度目の職場ですが、それぞれの勤務年数が2年、2年、10年なので、これまでの県職員歴のほとんどは研究所で過ごしていることとなります。ただし、私がとりわけ長く勤務している訳ではなく、研究所には20年、30年以上も勤務している猛者も多くいます。このような、ベテランが多い職場ですので、職場の高年齢化(?)が著しく、落ち着いた雰囲気(?)が漂っていたものでした。しかし、最近は、団塊の世代の退職に伴い、新規採用も含め20代の職員が配属されるようになり、職場の雰囲気が急激にフレッシュになりました。長らく「若手」として扱われてきた私も、本当の若手が入ってきたことで、ようやく「中堅」として扱われるようになりました。

10年もの間、害虫防除の研究を行っていて、害虫ではあるものの昆虫を扱っていますが、私は昆虫マニアではありません。公園の木々、街路樹、デパート内の観葉植物、訪問先の庭木などなど、加害されているような痕跡があると、ついつい、葉を裏返したりして害虫を探してしまうといった、職業病らしいものはありますが、昆虫マニアあるいはコレクターではありません。ですから、仕事で昆虫を飼育しても、プライベートでは飼おうと思いませんし、調査で昆虫を採集することはあっても、趣味で昆虫採集をしようと思ったことはありません。しかし見たことがない害虫を見るのは楽しいもので、害虫の診断依頼でヤシオオサゾウムシなどのマニア受けしそうな害虫が持ち込まれた時は、不謹慎ながら喜んでしまいます。最近は、調査での採集サンプルや、診断依頼で持ち込まれた害虫類、天敵昆虫類などを記録として残すため、標本を作製するようにしています。もともと、標本すら作ったことがありませんでしたが、作成した標本で標本箱がいっぱいになったのを見てみると、なんとなくコレクターの気持ちがわかるような気がします。昆虫にかぎらず、そもそも蒐集するという行為自体が、男のロマンなのだろうと思います。最近、私もマニア化してきたのかもしれない?

研究所に配属されてからの10年間で、研究所をとりまく環境は大きく変わりました。もともと、駅から研究所まで徒歩15分と、各都道府県にある農業試験場の中でも屈指のアクセスが良い立地条件にありますが、10年間で

研究所の近くまで住宅街が造成され、スーパーマーケット、銀行、コンビニ、飲食店もできて、ますます便利になりました（その半面、農薬散布や草刈りの音などに苦情が寄せられるようになりましたが……）。この変わりようを見ていると、10年とは結構長い期間だなどつくづく思います。しかし、実際は、あっという間に過ぎ去って行きました。充実していたのか、忙しさに追われていただけなのかよくわかりませんが……。研究所自体も10年間で変わりました。人員と研究予算の減少はもちろんのこと、これまで、特許や論文等の数が成果の指標でしたが、近頃は、開発した技術の普及の程度が、より重要視されるようになりました。これからは、研究途中でも、その技術を普及させるための戦略をより一層、考えなくてはいけないようです。

これから後、何年、研究所に勤務させてもらえるかわかりませんが、後悔しないように、成果を出せるよう頑張りたいと思います。

話はまったく変わりますが、先日、東京に行った際に、秋葉原で「すた丼」の店を見つけました。

「すた丼」の店というと、私が農工大に通っていた頃から、国分寺駅前にあった食堂です。ご飯3合ぐらいの大盛りすた丼が有名な店で、私も何度か大盛りすた丼を完食したことがありました。正直言って、きれいとは言いがたい店で、店員の接客態度も良いとは言えず、客層も学生や酔っぱらったサラリーマンなどで店の雰囲気もあまり良いとはいえない食堂でした。また、私が人生で初めて「食い逃げ」する人を見たのもこの食堂でした。しかし、強烈なインパクトを受けた「すた丼」は、学生時代のソウルフードであったらうと思います。

その「すた丼」の店が、なぜ秋葉原に？という疑問もあり、とりあえず、店に入ってみました。どうやら、国分寺駅前にあった「すた丼」の店がFC展開して、現在、20店舗以上、東京だけでなく京都にまで出店しているようでした。あの小さな店から、これほどまでに成長したことを思うと感慨深いものがありました。

結局、秋葉原の店でもすた丼を注文しましたが、その味はかつてのソウルフードよりも上品な気がしました。また、普通盛りを食べるのにも苦勞して、自分の年齢を再確認してしまいました。



農場から海へ

荒木 恵美子（農化S48）

私は現在、東海大学海洋学部に勤務しています。4月からは7名の卒論生を預かり、てんてこ舞いの新米教員です。農学部農芸化学科を卒業後36年間勤務した財団法人日本食品分析センターを、定年を待たずに退職し、昨年4月に静岡市にまいりました。キャンパスは三保の松原近く、駿河湾を望む清水区折戸にあります。周辺はマグロ、カツオの焼津、桜エビの由比など水産物で知られていますが、石垣苺、マスクメロン、枝豆、折戸茄子など優れた農産物も多い地域です。

現在は水産学科の食品系科目である食品衛生学、食品化学、品質管理学などを担当していますが、来年度からは水産学科に食品科学専攻を立ち上げることになり、準備に多忙を極めています。食品というモノだけでなく食べるコトまで含めた「食」に関する文理融合型の専攻にする計画です。美味しく楽しく、栄養と機能性にあふれた食卓は、食品安全学や分析科学が脚となって支えていなければなりませんので、これまでの経験を生かして行きたいと思っています。

私にとってこれまでの経験とは、農工大と日本食品分析センターで得たすべての知識、経験にほかなりません。農芸化学科では発酵学研究室に所属し、高橋 健先生、一島英治先生にご指導をいただきました。酵素化学はもちろんのこと、お酒の飲み方も教えていただきました。卒業後は日本食品分析センターで受託試験業務に携わることになりましたが、依頼を頂戴する多くのお客様が大学の先輩方でした。学生時代よりも、卒業してからのの方が農工大を強く意識いたしました。1970年代は食品、環境等の受託試験業務に社会的なニーズが高くなり、多忙であってもやりがいのある日々でした。また国際的にGLP (Good Laboratory Practice) が導入され分析の品質が問われる時代になっていましたので、分析結果という形のない製品の品質とは何であるか、悩みながら仕事を続けていました。何しろお客様の希望に沿わない結果になることがあっても、費用はいただかなければなりません。もちろん喜ばしい結果になることも多く、各社のヒット商品開発の一翼を担えたことは守秘義務のなかで密かに誇りに思ったものでした。

分析の品質とは何かを考えるうち、目に付いたのが Journal of AOAC INTERNATIONAL でした。農学部出身ですから AOAC 法は知っていましたが、調べてみると個人会員になれることが分かりました。かつての AOAC

(Association of Official Analytical Chemists) は AOAC INTERNATIONAL (何の略称でもない) に名前を変え、米国に限らずだれでも参加できる組織になったところでした。120年以上に亘り分析法の共同試験による妥当性確認を行っている組織ですが、私が入会した1993年当時、日本の会員は10名程でした。その後1997年の年次大会に初めて参加したところ、分析に関わる多くの課題が分かり、日本にもこのような組織や活動が必要であることを実感しました。とくに印象深かったのは「計測の不確かさ」のシンポジウムでした。日本人の参加は私だけでしたが、私を含めほとんどの参加者が「不確かさ？」とフリーズしていました。冷房が効き過ぎていたせいではなかったと思います。また世界中に仲間がいることを知り、妙に安心したことも覚えています。その年次大会でお会いしたのが工学部の松岡英明先生でした。先生は新規の非培養微生物検査法の妥当性確認を行うことを目指しておられました。日本にも AOAC が必要ということで、先生を始めとする AOAC INTERNATIONAL 日本セクション設立発起人会が組織され、私もメンバーにさせていただきました。1998年には日本セクションが発足し、以来毎年6月の総会シンポジウムは小金井キャンパスをお借りして、熱心な議論を戦わせています。隔世の感はありますが、まだまだわが国では分析法の妥当性確認や計測の不確かさへの理解度が十分とは言えません。

そのご縁から2005年に工学府の生命工学専攻、博士課程後期に社会人入学させていただきました。少々時間がかかりましたが何とか学位をいただき、本当に農・工卒業生となりました。

また1997年以来、前職においてわが国の食品産業界に対して HACCP システムを普及するためのトレーニング、コンサルティング、監査などを行ってきました。それがまた新たな縁を呼び、現職につながった次第です。

恩師の一人である一島英治先生には博士課程や転職に際し、何度となく励ましていただきました。そして研究者として教育者として、心構えは駅伝のようなものと、心の襷をいただきました。これからの数年は若い世代に襷をつなげるために、基盤である農学に工学と水産学を加え、「食」を研究して行きたいと考えています。今後とも多くの先生方、同窓会の皆様にお世話になることと思いますので、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。

東京農工大学の益々の発展を確信しています。

中国の牧場にて

岩瀬 慎司 (獣医 S47)

早いもので中国に在住して4年が過ぎてしまいました。私は1972年に農工大を卒業しました。卒業後、私たちの大先輩である伊藤幸次さん、五十嵐忠良さん、原茂さん、本田一良さん方々が獣医組織と共済組合組織をまとめあげたてできた千葉県農業共済組合連合会 (千葉 NOSAI) に就職しました。就職後は臨床獣医師として千葉県内の5ヶ所の診療所で働きました。その千葉 NOSAI に30余年勤めた後、2005年3月に日本のあるビール会社から突然の誘いがありました。中国で農業を始める計画があり、その農場内で酪農も行うので、その事業に参加してくれないかとの話しでした。そんな時ヒトはどのように考え、迷い、思い悩むのでしょうか。私は、意外とすっきりと答えができました。当時は通勤、酪農家への往診で1日150kmあまり車を運転していました。1年間合計すると地球約一周の距離になります。これは大動物の診療獣医師としてどうにもならないことなのでしょう。ともかく、まず、この車の運転から開放されるんだと思いました。それに、当時の歳になるともう先行きが見えてきて、自分より若い人の下で働くのもあまり心地よいものではないとも考えました。また、このような誘いは一生一度あるかないかのことで、ましてや新規事業であれば、苦労はともかく、事業の立ち上げからの参加は面白いのではと思いました。ただし、離婚とまではゆかなくても、会社を途中で辞めるのにはエネルギーが必要なことと後ろめたさが伴いました。断っておきますが、私は離婚したことはなく、中国にも妻と一緒に来ています。そうでないと中国は危険です。誘惑がありすぎる。

現在、その誘いに従い、山東朝日緑源農業新技術有限公司という日本の会社だけの資本で立ち上げた農場で酪農の仕事をしています。名前の通り、農場は山東省にあり、青島から煙台に向かって車で2時間あまりの萊陽市という所にあります。詳しくはホームページ www.asahigreenSource.com でご覧ください。乳牛は3年前、ニュージーランドとオーストラリアから全部で650頭輸入しました。牧場のレイアウトの設計、建設、乳牛の買い付けにかかわり、今では乳牛の頭数が1,500頭弱になりました。こちらの建物はレンガを積み上げただけ。ですから、増築、扉の新設、改築などはいとも簡単で、農民の中に溶接、壁塗りなど特殊技能を持った人が必ずいて、自分たちでだいたいのことはできてしまいます。



ただし、こちらでは細かいことを気にしては神経が持たない。シャッター、ドアは見かけはすばらしいがすぐ壊れる。物みなしかりです。壊れるから消費も持続するのかもしれないが、もう半ばあきらめています。建物も地震がないから良いようなもので、万が一あれば命はないでしょう。

この牧場の特徴は4つあります。1.牛がいるパドック(牛舎)は牛密度が低いこと。35㎡/頭ある。2.牛舎に壁がない。風通し良い。3.パドック内のコンクリート面は餌を食べる所だけで、その他は地面が土で、搾乳室に行く通路も土である。4.トーマロコシ・サイレージを飽食させられる。その為か、牛は順調です。

もう4年中国に住んでいるが中国語はさっぱりである。一緒にこちらに赴任した日本人スタッフ5人は結構中国人とコミュニケーションをとっています。昔、柔道家の石黒啓七さんがフランスに柔道の指導に数年いったが、フランス語をまったく覚えてこなかったという話をなにかで読んでいて、そのことが頭にこびりついている。私も同じか、そうならないように努力をしていますが、中国語は非常に難しい。それなのに牧場で働いていると中国人は私に中国語でべらべらと話しかけてくる。日本人ならば外国人には少し遠慮するのに、やめてくれと言いたい。

妻は青島市内のマンションを借りて、住んでいる。目の前に海が一望できる12階の部屋です。日本では到底住めないリッチな所です。私は週末、その青島に帰り、月曜日の朝、牧場のある萊陽に戻ります。その行き来はタクシーや白タクを利用しています。ある時、運転手に日本の定年は何歳かと聞かれたことがあります。中国では女性は50歳、男性は55歳と言っていました。数字は比較的聞いてわかるのですが、その他は推測です。私が日本人の定年は60歳だと言うと、何故そんな歳まで働くのか、自由になって楽しめばと言う意味のことを言っているのでしょうか。その言葉を今自問しています。今後どうするのか、中国の経験を何かに生かせるのか。現在、中国人

の若いスタッフや獣医師の教育係をしています。ここを退職し、日本に帰ればまだなにか仕事があるのか。中国人の運転手の質問のように何時まで働くのか。私のこれからの大きな問題の一つです。

高専編入生OBあれこれ

田中 好一 (機械S55)

工業高専から東京農工大の機械工学科に編入し、何とか同学を無事に卒業して(させてもらった?)から、30年以上が過ぎようとしている。

当時、高専からの編入生は、受講すべき科目(土曜の午後も授業有り)が非常に多く、4年に進級するためには、単位を落とすことが殆ど出来ない状況にあった。その頃の自分は、大学なのに何でこんなに忙しんだ!と文句を言いつつも、縁あって農工大に編入したのだから何かのクラブに入りたい!と矛盾めいたことを言っていた。編入生の先輩からは、忙しいのにクラブなんか入ると留年するぞ!と言われ続けていたが、何故か、練習が最もきつい空手部(多少ブルース・リーに憧れていた)に入ることになった。

学生時代の生活は、大変お世話になった樗寮で朝食をとり、授業のために講義棟へ向かい、放課後は武道場に(魔の3角地帯と言っていた)通う毎日であった。農学部や工学部の空手道場では、準備運動と称してうさぎ跳びが必ず有り、先輩の気分しだいによってはそれが延々と続き、筋肉痛で眠れない夜が度々あった。さらに、4年になると機械工学科の中でも最も忙しい(厳しい?)NISHIWAKI研究室に入ることになり、通い続けた魔の3角地帯に実習工場の一文字が加わった。しかし、当時の苦しい空手の稽古や研究生活も今は良き思い出であり、大学時代に得られた諸先輩や友人は現在の宝物でもある。

さて、高専編入生としての学生生活を大雑把に述べたが、良く考えてみると農学部出身の方々には、工業高等専門学校って何? 高専からの編入って何? と首を傾げられそうな気がする。そこで、本会報の紙面をお借りし、高専から農工大への編入について、もう少し理解を深めてもらう意味を込め、工業高等専門学校の生立ちと編入制度及びその現状について、簡単ながら説明させてもらいたいと思う。

【*高等専門学校の生立ちと現状*】

時代をさかのぼること1950年代後半の日本の経済はその成長が目覚しく、それを支える科学・技術の進歩に対

応できる技術者養成の要望が強まっていた。こうした産業界からの要請に応え、1962年(昭37年)に国立高等専門学校(以下「高専」)が設立された。高専は、大学の教育システムとは異なり、社会が必要とする技術者を早期に養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間(商船高専は5年半)の一貫教育を行う高等教育機関として誕生した。1962年に第1期校として長岡高専、群馬高専など全国で12校が設置され、その後毎年12校が設置されていった。

現在では、工業高専に加え、商船高専、電波高専、そして2002年には沖縄高専を加えて、全国に55の国立高専と公立、私立を含め60の高専がある[詳しくは、全国高専HPマップ(http://www.kosen-k.go.jp/all_kosen_linkmap.html)を参照されたし]。そして、1992年には、5年間一貫教育に加え、さらに2年間の教育により開発型技術者の育成を目指した専攻科が設置されるようになった。また、2004年には独立行政法人「国立高等専門学校機構(http://www.kosen-k.go.jp/hj_2-12kikoh_enkaku.html)」が誕生し、全国55の国立高専は一つに統合され現在に至っている。

【*高専生活と卒業後の進路について*】

高専では、1～3年の低学年(16才～18才)では一般教科が多く、高学年になるに従い専門教科が多くなり、5年間の「くさび形教育」を受けることになる。また、学生生活では運動クラブや文化部、そして高専ロボコンやエコラン、プロコン、デザコンなどの各種大会に参加する学生が多く、アルバイトに明け暮れる者もいる。そして、学生達は5年間の高専生活(20歳で卒業、準学士授与)を終えると、就職して社会人となるが、さらに、その専門性を高めるため高専の専攻科に進学するか、他大学等へ編入学するかに分かれる。昨今の時代の流れで、各高専により異なるが私が勤務する小山高専では、本科卒業生の半分が高専の専攻科へ進学するか、4年制大学へ編入していく。

農工大が高専からの編入生を受け入れ始めたのは、1974年(昭和49年)の4月からである。その当時は、高専からの編入を許可する大学が少なく、当時の農工大編入生はかなり優秀であったと聞いている。そして現在では、生命工学科11名、応用分子科学科5名、有機材料化学科5名、化学システム工学科5名、機械システム工学科16名、電気電子工学科20名、情報工学科8名の総計70名となっており、各科定員の13%程度在籍しているようである。すなわち、各学科の卒業生の約1割程度が高専からの編入生であり、高専生の受入大学が少なかった当

時を考えると、良くここまで成長したものと感心すると同時に、今後どのように発展していくのか楽しみでもある。

以上、散文となってしまったが、高専編入生OBの一人として思い出まじりの昔話と、高等専門学校および編入生制度について説明をさせてもらった。本会報が、農工大同窓会の皆様にとりまして、日常会話の中で何らかの参考になれば深甚である。

計量制度について

中田 幹夫 (機械S61)

私は現在、経済産業省 計量行政室というところに所属しております。職務としては計量法に関する業務を行っております。計量制度についてはご存じの方も多いかと存じますが、計量制度のうち、①計量単位、②計量標準供給制度、③取引・証明における主要規制について概要をご紹介します。

計量の基準を定め、適正な計量の実施を確保する計量制度は、経済活動の根幹をなす制度です。我が国では、701年の大宝律令によって初めて計量制度が統一されたと言われております。現在では、計量法(平成4年法律第51号)において、取引や証明に用いる単位や計量器などについて定めており、適正かつ合理的な計量制度の確立によって、我が国の経済の発展や、国民生活の安定・消費者利益の保護を含めた文化の向上に寄与しています。我が国の計量法が定める計量制度の概要は、以下のとおりです。

① 計量単位の統一

現在、計量法では、国際度量衡総会で決められた国際単位系に整合することを基本に、長さ、質量、時間など、72の「物象の状態の量」について、取引や証明に使用すべき計量単位を定めています。これらを法定計量単位と呼びます。例えば、長さ：メートル、質量：キログラム、グラム、トン、時間：秒、分、時、電流：アンペア、温度：ケルビン、セルシウス度又は度、物質質量：モル、光度：カンデラ、面積：平方メートル、体積：立方メートル、リットル、力：ニュートン、仕事：ジュール、ワット秒、ワット時といった具合です。

② 計量標準供給制度(JCSS)

日常生活や産業活動の中で、長さや温度などの量を正確に測ることは極めて大切です。

例えば、体温は0.1度の違いを正確に測る必要がありますし、半導体産業では、ナノレベル（10億分の1m）の大きさや長さを正確に測る必要があります。これらの測定は、そのための基準になる計量標準の供給があって、初めて可能になります。

精度の高い計量データを得るためには、計量器の測定の標準として使用される物質（標準物質又は化学標準）や器具（標準器又は物理標準）が供給されることが不可欠です。特に、昨今の製品の高度化等に伴って、より微細・微小な長さや質量を高精度に測定することが必要になっており、ますます精度の高い計量標準の供給が求められています。

計量標準供給制度とは、国内において最上位の計量標準（国家計量標準）を基準とした切れ目のない比較の連鎖によって、校正を計量器に対して行うことで、計量器の精度（不確かさ）を対外的に証明する制度（JCSS：Japan Calibration Service System）です。

この制度では、まず、経済産業大臣が国家計量標準を指定します。次に、独立行政法人産業技術総合研究所、日本電気計器検定所、又は経済産業大臣が指定する指定校正機関（財団法人化学物質評価研究機構、財団法人日本品質保証機構、独立行政法人情報通信研究機構）が、経済産業大臣に登録された校正事業者に対して、不確かさを明記した計量標準（国家計量標準の次に正確な計量標準という意味で、特定二次標準器等といえます。）の供給（校正又は値付け）を行います。

さらに、登録された校正事業者は、特定二次標準器等を用いて、一般使用者へ広く校正サービスを行い、不確かさを明記した校正証明書を発行する仕組みとなっています。なお、校正事業者の登録は、経済産業大臣から委任されている独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）により行われ、登録に当たっては、計量法、関連法規及びISO/IEC17025（試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項）に基づいて審査を行っています。

この結果、登録事業者によって校正された計量器を使用する一般使用者は、自らが用いる計量器がどの程度の不確かさを有しているのか、あるいは、国家計量標準とどの程度の不確かさを有しているのかを正確に把握した上で、物象の状態の量を計測することが可能となります。

③ 取引・証明における主要規制

a. 単位の使用制限

計量法では、法定計量単位以外の計量単位（ヤード、ポンド等）を、前述の72の物象の状態の量に係る取引や証明に用いてはならないこととなっています。また、こ

れらの量を計るために使用する計量器（例：はかり、温度計、電力量計など）について、法定計量単位以外の単位による目盛りを付したものを販売することを禁じています。

b. 正確な計量器の供給

取引や証明に使用するために公的な精度の担保が必要とされている特定計量器を用いる場合は、国や都道府県が指定した機関による検定（構造が国の定める基準に適合しているか、器差（計量器の誤差）が国の定める範囲に収まっているかを確認すること）等によって、その精度が確保されたものを使用しなければなりません。また、特定計量器の種類に応じて、検定に有効期限を設けたり、定期検査を義務付けたりしています。

検定等を行った特定計量器には、検定証印や基準適合証印が付されています。

東京農工大学と愛泉会と私

三上 泰夫（農化S45）

前回農工通信に寄稿させていただいたのは2003年7月でした。その中で、在学中から携わり、現在は学校法人愛泉会・芸術工芸高等専修学校となっている組織の成り立ちをご紹介したところ、クラス会の有志からカンパをいただいたり、同窓会の先輩などからご寄付をいただいたりと、現在に至るまで大きなお力添えをいただいています。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

思えば、当時仕事にのめりこみ、とても向学心に燃えているとは言えない私を、畜産物化学研究室に強制収容してくださり、『お前が今年卒業したいなら、超人的な努力をしなければならない。』と発破をかけながらなんとか卒業させてくださった川村亮先生をはじめとする諸先生方の温かいご配慮や、一緒に徹夜で卒論実験につきあってくれた平山誠氏をはじめとする級友の励ましがなかったら、今の自分はないのだと感謝しています。

芸術工芸高等専修学校は、知的障害を持つ人や、一般の教育になじめない人を対象として日本の伝統工芸の技術指導をしています。卒業後、工房を作って何人かの仲間と作品作りに励んだり、京都の織物会社の社員となって織物の制作に携わる人が数名出るなど、在学中に学んだ技術を生かして活動を続けている人がかなりいますが、肝心の新入生の数が思うにまかせず、相変わらず苦戦を強いられているのが現状です。

今までは、年間を通じて授業内容を体験できる芸工技芸教室、夏の2週間を通じて授業内容を体験できる夏季

講習会などを行ってきましたが、新たに本年4月から、初心者、卒業生を問わず、在宅のまま、通信手段とビデオ教材で指導をする『通信指導』（佐賀錦のみ）をスタートさせました。入学前と卒業後のケアをより充実させることが目的です。

ところで、本校生徒で様々な展示会に出品して入選入賞した人はかなりの数に上りますが、私が指導した生徒は、私の完璧主義から出品を控えてきました。しかし数年前、成り行きで出品せざるを得ない状況となり、さんざん迷った挙句、不完全なでき上がりではありましたが、漆の丸盆に布目で花柄をつけたものを、『華紋 (come on!)』と名付けて東京都美術館で開催された日本手芸美術展に出品したところ、高校生の部で三等賞をいただきました。後で母親から、本人が生まれて初めて喜びの涙を流したと聞き、もっときちんと指導してより良い作品を出させてあげればよかったという後悔と、それでも本人には評価された喜びを感じさせることができたという満足とを同時に感じました。今後は、きちんとした技術を修得させることは勿論ですが、その技術をどう生かし、何を表現するののかも念頭に置いて指導していきたいと考えています。

自分も65歳を超え、当時知的障害児施設であったこの組織に、20歳で飛び込んでから、長い時間がたちました。決して逃げることはしないという覚悟で、自分の事よりこの組織の事を優先させて仕事をしてきましたが、子供達も家を出て、妻と2人の時間が持てるようになったこのごろ、あまり家庭を顧みなかった自分を支えてくれた人たちがいたことをつくづく感じます。

若いころは、自分一人の力で生きていこうともがいていましたが、思い返せばいつもいつも誰かに支えられていたことを痛感するこのごろです。

ママさん研究者の道

吉野 知子 (工博 H17)

ママさん宇宙飛行士、ママさん議員、ママさんオリンピック選手……子供を育てながら活躍する女性が“ママさん〇〇”と表現されることが多い。子育てと専門的職業の2足のわらじを履いていることを上手く表現した言葉であり、聞き手の興味を引く。

ヤワラちゃんこと、柔道家の谷亮子さんはママさんメダリストであり、また最近ママさん議員にもなった。世界柔道選手権6連覇、オリンピックでは2度の金メダルを獲得するなど、柔道界の女王の座を守り続けてきたヤ

ワラちゃんは二児の母となっても、現役の選手である。その彼女は、日本を立て直そうと意気込み、政治の世界に飛び込んだわけである。この行動に賛否両論はあるが、二人の子供を育てながら、新しい分野に果敢に挑戦するヤワラちゃんの姿を見ると、勇気をもらうママさんも多いはずだ。夢をあきらめない。それが彼女の様なプロの道を極め、また母としての幸せを手にするを可能としているのであろう。その裏には、並大抵な努力や葛藤の日々があり、マスコミが書く一紙面や一報道では決して見ることができない苦勞をされたことと思う。

最近、様々な分野において出産した女性がその後も幅広く活躍している姿を良く目にする。つい最近まで、仕事などを続けキャリアを積むか、家庭に入って妻・母となるか、二者択一を迫られていた時代があったようだが、どの分野においてもこれらの両立に挑戦する女性が急増し、平成11年以降、共働き世帯数と専業主婦世帯数の差は広がり続けている。その背景には、景気悪化や教育費の高騰による経済的理由もあるが、「ママさん〇〇」という立場のロールモデルが次々と出現し、母となってもキャリアを積むことが許される社会に変化していることも大きい。

私は現在、東京農工大学の生命工学科において研究者の道歩んでいる。農工大で学位を取得し、他大学において助手を務めた後、また居心地の良い農工大に戻ってきて研究を続けているわけだ。ママさん研究者の道を葛藤しながらも突き進んでいる一人である。このアカデミアの世界もまた、同じような変化が起きている。特に理系の女性研究者人口が他国に比べ低いことが問題視され、様々な制度が立ち上げられてきた。平成11年に男女共同参画社会基本法が公布・施行されてから10年が経過した。特にこの5年間に行われた各省からの女性研究者への支援策は数多い。文部科学省では女性研究者が研究と出産・育児の両立や、その能力を十分に発揮して研究活動を行えるための取り組みに対して、平成18年度から「女性研究者支援モデル育成」事業を実施、さらに21年度より「女性研究者養成システム改革加速」事業が新たに加わった。農工大においても、上記二つの事業が採択され、大学内における支援制度の設立・改革が大きく行われている。その1つとして、妊娠・出産・育児期における研究支援員の派遣制度である。特に出産期には、6ヶ月間の研究支援員を配置し研究への影響を最小限にとどめることで産休中の女性教員の研究停滞の低減を目指している。サイエンスの第一線で活躍することを目指す研究者として、出産・育児期のブランクは想像以上に大きい。そのブランクは10年前には個々の問題として片付けられ

ていたが、今ではそれを解決するための制度が政府を挙げて考案されている。このような制度があっても埋め合わせできないことも多いが、その意識改革自身が非常に大きな一歩と感じる。

ママさん研究者として生きる道は他分野同様険しい道のりである。日進月歩と進むサイエンスの第一線で活躍する夢をあきらめず、また未来を背負っていく子供達の親として子育てを蔑ろにしないママさん研究者の道に挑戦し続けていきたいと思う。いつしか、「ママさん〇〇」と表現されず、キャリアの蓄積と子育ての両立が無理なくできる時代が来ることを期待したい。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界遺産に

大塚 克巳（製糸S45）

小寺弘之群馬県知事が「富岡製糸場の世界遺産構想」を提唱したのは平成15年（2003年）8月、4期目のスタートの知事定例記者会見でした。私が、蚕糸・絹業関係者と共に長年温めてきた富岡製糸場世界遺産構想が、歴史の舞台に登場した瞬間でした。

私は、昭和45年に東京農工大学工学部製糸学科を卒業して群馬県職員となり県内の製糸工場の技術研究開発と指導の仕事に就きました。当時、群馬県では大小製糸工場は約250社を数え生糸製造を行っていました。また、伝統産業である養蚕・蚕糸県ですから数多くの蚕糸関係の産業遺産もありました。中でも私が、一番感動したのは、明治6年（1873年）に完成した官営富岡製糸場が、操業時そのままの姿で片倉工業(株)富岡工場として世界の生糸製造のリーディング企業として活動していたことでした。この官営工場は、フランス人ポール・ブリュナの指導の下で近代的な製糸工場を建設し、輸出の主力である生糸の品質と生産量を飛躍的に向上させる目的で当時の国家予算の10%を注ぎ込んで建設した工場で、小学生の教科書でも「日本の近代産業の原点」と位置づけられています。しかし、この歴史と栄光の富岡工場も時代の流れには逆らう事はできず、昭和62年（1987年）には操業停止を余儀なくされ、以後も片倉工業(株)は、平成15年まで良好な状態で建物を保存されました。この時期前後して全国的にも製糸工場の廃業は雪崩のように続き、現在国内で操業している製糸工場は、群馬県内の一工場のみになっています。

勿論、私の勤務先である「群馬県製糸技術センター」も廃止となり、その後、私は、蚕糸試験場、蚕糸課から広報課、総務課、そして群馬県知事に世界遺産構想を進



言した時は、群馬県特別政策本部部長でした。

この構想提案時には「富岡製糸場など世界遺産には絶対にならない」との考えを持つ方が多く県議会でも同様な議員が多いのが実情でした。しかし、私には確たる自信と根拠がありました。その一つは、明治維新から約百数十年で急速に世界でも屈指の経済大国になった日本の経済・産業構造についてその根拠を世界に明らかにしなくてはならないと言う時代認識。二つ目は、日本国内には12カ所の世界遺産がありますが、産業ジャンルの世界遺産が無いこと、三つ目は、フランスと日本の国際的な共同事業であったことでした。

ただ、残念なことに世界遺産と言えば日本人が真っ先に連想するのは壮大な「城郭」や大自然の「景観」など観光のスポットであり、「産業遺産」に対する認識が弱いことです。日本は、もっと「産業遺産」に光を当てるのが国際的に求められているのです。目を欧米に向ければ「アイアンブリッジ遺産」などに代表されるように国際的には「産業遺産」の評価は高いものがあります。

さて、提案時は、やや否定的に見られていた富岡製糸場世界遺産構想は、提案後直ちに評価が高まります。平成17年（2005年7月）には「旧富岡製糸場敷地」が、国の史跡指定、翌平成18年（2006年7月）に製糸場の建造物が、国の重要文化財に指定され、平成19年（2007年1月）に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産暫定リストに登録と順調に進んでいます。このことは、日本の産業遺産が国際的に待ち望まれていた証でもあると思っています。

さて、東京農工大学と富岡製糸場世界遺産の関係についてですが、大正3年（1914年）東京高等蚕糸学校の開校までの沿革が深く関わっていたと私は思っています。農工大は、日本の近代化を推進した蚕糸に源流を持ち時代と共に学科も充実し、現在最先端技術開発の研究拠点に成長しています。私は、蚕糸というすごい大きな根っこを持った東京農工大学の歴史の集大成として「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録の実現に期待して

います。

最後に富岡製糸場の今日があるのは片倉工業(株)様はじめ関係者各位のご努力の賜と深く感謝致します。また、同窓生には特段に世界遺産登録運動へのご支援やら施設見学を心からお願い申し上げます。見学は、ガイドが必要な方については私が、ご案内致します。勿論無料です。世界遺産登録運動へのご意見や助言のある方は9073nsvs@jcom.home.ne.jp (大塚克巳) までアクセス下さい。

天蚕の魅力でむらおこしに挑戦

柳沼 泰衛 (養蚕 S31)

天蚕は日本原産の野蚕で、鱗翅目ヤママユ科に属する大型の野生絹糸虫で野山に生息し、年一回発生(一化性)する昆虫です。

その萌葱色の繭と野蚕糸は独得の輝きを有し、自然の風合美が魅力で、近年本物志向の中で見直しされてきています。

また、天蚕絹糸たん白質が紫外線防止と保湿効果(化粧品に活用)、あるいは特殊成分が医療分野等で有効なことが判ってきて、多面的な利用が期待されています。

そこで、かつて明治期に蚕種本場と輸出生糸の産地として全国に名を馳せた福島伊達・霊山地域の有志が集い「天蚕を地域資源として活用し、特産品にしよう」との合言葉で、平成17年2月「りょうぜん天蚕の会」を立ち上げました。そのメンバーは多彩で異業種交流の仲間約40人(うち女性半分)であり、天蚕にシルク復活の夢を託している人々でした。

これらの取組みに対し、福島県、伊達市等から地域づくり支援事業の補助をいただき、天蚕繭加工による商品化まで推進できたことが活動の成果につながりました。感謝です。

次にその活動のあらましを紹介します。

最初に天蚕繭の安定生産を早期に図るため、従来の飼料樹、クヌギ、ナラの代りに発芽が早く、再生力の強いエゾノキ又ヤナギを用いて、さし木による速成園を造成し、鳥等の天敵から幼虫を守るため、ネットハウスによる放蚕飼育としました。現在そのハウス数は4団地で約25棟にも及んでいます。育蚕回数も蚕種をコントロールして年3回は飼育可能で、年間繭生産量を約8千~1万粒確保目標基盤ができました。今年は約7千粒の見込みで、異常高温障害もみられています。予想外なのはカメムシ、カミキリの被害や野鼠食害等もあり、その防除が大変で、

自然の厳しい掟を痛感している次第です。

会活動の目玉は特産品づくりにあるので、その視点を2区分し、その第一を天蚕繭の色彩をそのまま生かした装飾品加工としました。幸い会員に技術者が居り、初年目でブローチ、タイピン、根付け等の商品化ができ、緑の風合が鮮かで珍しい小物として売れ筋です。

第二の視点は天蚕繭と家蚕繭を混織して製糸する新しい糸づくりを導入し、織物まで開発しようと決めました。この挑戦には多大な困難がありましたが、福島県農業総合センター、福島ハイテクプラザ等の支援もあり、天蚕糸の強伸性と輝き、家蚕糸のしなやかさを融合させた、いわゆる天蚕ハイブリット糸ができ、これらの創製糸でショールを織りあげました。成果公表でも評価をいただきましたが、昨年、県特産品コンクールで入賞し、そのショールを見てブラウスを作って欲しいなどのうれしい要望もありました。さらに今年6月、日本絹業協会より「純国産絹マーク」の使用許諾をうけ、天蚕商品での初許可でもあり、会員一同、今後にむけての活動の励みになりました。その他の製品としてハンドバッグ、名刺入等も商品化していますが、これらは地域特産品として全国に発信できる自信に連がり、むらおこしの推進力となり、会員の団結も図られています。

一方、地域活性化には県内外との地域間交流が欠かせないので、全国初の試みとして、天蚕セミナーを伊達市霊山で開催しました。全国から120名が集い、今後の天蚕の活用法等について意見交換を行い有意義な交流が生まれました。また地元小学校での天蚕飼育体験・観察会やアクセサリーづくり研修等を定例時に実践し、人的交流の拠点づくりも行っています。

なお、昨年6月に当会の活動をNHKTVふるさと一番に取上げられ「みどりのダイヤ、天蚕で地域を元気に」のタイトルで全国生放送されました。天蚕幼虫と緑の繭を同時に撮影のことで、女優の酒井美紀さんに手袖ぎ体験とハイブリットショールを身につけ案内する、手織は本物であること、さらに会員が作詞・作曲・振付けをしたオリジナル天蚕音頭で踊ってしめくくこととなり、皆んな緊張の22分間の初体験でした。無事終了直後、NHKスタッフと会員とでバンザイし、固い握手の温もりが感動的で、一生の思い出です。

この放送のディレクターが農工大獣医学科卒であったことも吃驚で、大変世話をかけた事、放送後二日程電話が鳴り止まなかった事が印象的でした。以上雑感的に会の活動を述べましたが、同窓の皆様の御意見があれば幸いです。

深い思いと筋道の通った考え

浜田 竜之介 (農化 S32)

現代社会において人々の間の本当の考えのやりとりが成り立っているのだろうか？ どうもそうは思えない、というのがこの話のはじまりである。少なくとも、人々が深い思いをもち、筋道の通った考えを持つことがまず、前に述べた本当のやりとりをするためには必要であると、最近痛感するようになった。これはあるアメリカの大学院生と話をしている、アメリカの有識者のなかにはきちんと西欧哲学の歴史を勉強しているのがいるから、本気で意見交換するには彼らのハラの中を知っておいた方がよいと言われたことに始まる。

深い思いと筋道の通った考えを持つには、古代から現代に至る思想・宗教の歴史を知り、その持つ意味を考えることが大切だ。このようなことを意識したかどうか、1985年の経済同友会の報告書にはこれからの経営者にとっては哲学が必要である、と書かれている。またアメリカの大学教育のなかで、グレート・ブックス（100冊以上の著名な思想・宗教書）をあげ、これらを教材にカリキュラムを組むことを重視する考えがある。この考えを支える動きは1913年にコロンビア大学ではじまり、中心になって動いた Erskine 教授がシカゴ大学に移ってそこでもとりあげられた。現在ノートルダム大学、ボストン大学、そのほか4年制大学たとえばカリフォルニアのサンタ・ボエラにあるトーマス・アクィナス・カレッジなどがグレート・ブックスを採用している。ただ、その数はそれほど多いとは言えない。スタンフォード大学などは、このカリキュラムは西欧偏重であるということでこれに対し否定的な姿勢をとっているようだ。プラグマティズムの哲学者 Dewey は彼の著書はグレート・ブックスに取り入れられていながら、反対している。まさに多様性を地でゆくアメリカならではであろう。

思い当たることがいろいろある。あるアメリカのコンサルティング会社や ILO（国際労働機構）に勤務された方がおっしゃったことがある。西欧社会とつきあうのにはキリスト教のことを知らなければならない、ということである。実は新約、旧約聖書とともに、グレート・ブックスのリストにある。数年前から、将来のトップとなる可能性のある人材を教育するため東京大学エグゼクティブ・マネージメント・プログラムが始まった。つい先日、ここの受講生がもっと哲学の話を聞きたいと言っていると聞いた。哲学者 Ivan Illich が1990年「土についての宣言」を出したことがあるということが最近の「環」と

いう雑誌にでていた。哲学者はもっと土に学べということのようだ。当時の大学院生と思われる人にメールをだしてその後どうなったか聞いてみると、メキシコにいる建築家で Illich の教えを長い間受けた人から連絡があり、玉野井芳郎、植田敦、室田武、などの名前をあげ、さらに和辻哲郎をあげてきた。その際、風土、土水、風水、という用語が提示されていた。さすが風水には(?)がついていた。この話をたまたま出会った国際エコロジー経済学会長の John Gowdy さんにしたら、彼は強い興味を示した。

哲学のほうから「土」にまで乗り出してきたような例があるとともに、哲学の側から社会へ乗り出してきた例に Jacques Derrida が1983年に創設したフランスの「国際哲学コレージュ」がある。これの日本版というべきか、東大駒場には「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP: the University of Tokyo Center for Philosophy) がある。単位はもらえないが、授業料はいらない、ごく一部未公開ではあるものの解放された哲学の場としてそれは優れて楽しめる場となっている。人々が何かを哲学に求めている時代なのか、哲学のほうがちこちこに寄ってくる時代なのか、あるNHKのOBで現在私立大学の学長をやっている人も最近、自分でも哲学書を読むようになったし、社会が哲学を求めているのをひしひしと感じているということと言われた。おりしも Michael Sandel の「これからの『正義』の話をしよう」、早川書店が話題にのぼり、出版社は新しい意味をこめた哲学を題材に何かチャンスはないかとうかがっているように聞く。最近ちょっと優れた（とほくにはピンときた）中島隆博「ヒューマニティーズ 哲学」岩波書店に出会った。そこには晩年とは猛り狂って限界をはみ出す時である。この晩年に書かれるべきは、「解き放たれて猛り狂った作品である」そこでは「哲学とは何か」を問うことができる、とあった。僕の晩年はまだ先だ。まだ解き放たれていない。



退職の挨拶

生物生産学科

鎌田 壽彦

36年9ヶ月の教員生活のほとんどを第一次石油ショック時に作られた農学部6号館を居室として送ることができました。けっして短い時間ではありませんが、赴任したのがつい先日のようにも思えます。その間出会った人たちの多くはタレント豊かで、卒業あるいは修了という形での学生との別れに切歯扼腕したこともありましたが、しかし、私より前に逝ってしまった卒業生もいて諸行無常を感じました。大学を支えていただいている事務の方と心をひとつにして仕事ができたとたいへんいい思い出となりました。農工大という組織に所属できたおかげで研究室のOBを中心に同窓の方々にもお世話になりました。また、外国の大学との交流もできました。女子学生から、櫻の芽吹く時のすばらしさに気づかせてもらいましたが、緑あふれるキャンパスが引き続き「雲と自由の棲むところ」であってほしいと願い、一OBとして応援をしていくつもりです。ありがとうございました。

国際環境農学専攻

若林 敬子

私・若林敬子は、1997年4月に農学部地域生態システム学科の社会学教授として赴任いたし、1999年度に新設されました国際環境農学に移り、計13年間にわたって、東京農工大学にお世話になりました。

この前の27年間、厚生省人口問題研究所におりましたことから、人口社会学、環境社会学、農村社会学、国際社会学、そして一般教養の社会学（農工両学部）等の講義を担当いたしました。

特に中国からの留学生を、JICA人口と環境コース、文部科学省国費、米国フォード財団奨学生（ウイグル族）などにより、中国重点大学からの優秀な人口・社会学の学生の指導ができたことが、日中交流の点からしてもありがたい財産となりました。

この4月からは文部科学省科学研究費「中国における人口と環境—高齢化と出生性比」で残り2年間に新研究室にて研究継続、かつシニアプロフェッサーとして大学院講義（途上国人口社会学）も続けております。

東京農工大学の一層の進展を祈ります。

技術経営研究科

白石 旭

35年間の企業活動を卒業した直後からの大学活動にはカルチャーショックを覚えました。幸いにも社会人学生が主の大学院教員であったため、対面の議論が主となるプロジェクト研究は、これまでに企業の部下に対して接してきたのと同様な感覚で、学生を指導・育成できたと思います。しかし、壇上での講義については、企業のように実践を伴ったOJT的な環境が演出できず、社会人学生が期待する双方向の講義方法に苦労しました。このため、①新聞やWebで得られた科目に関連するニュースを毎講義で解説し、講義内容が日々の実社会での活動に深く関わっていることを印象付けるとともに、②OBの特権を利用して私が勤めた企業の研究所見学会とその後のコミュニケーションによる意見交換会を毎年の前期と後期に開催し、最先端技術を共通話題とした議論の機会を持つことで、少しでも双方向の講義に近づける努力をしてきました。最後になりましたが、5年の短期間に素晴らしい環境で新たに多くの人脈と経験を得られたことに深謝するとともに、東京農工大学がこれまでの伝統ある歴史に更なる偉大な年輪を刻まれるよう祈念いたします。

国際センター

越前谷明子

平成6年留学センター（平成19年国際センターに改称）設置と同時に本学に赴任して15年半、「日本語教育」と「異文化間コミュニケーション」という本学にとって、それまでにはなかった新しい専門領域での教育と研究に携わってきた。この間、センターで「日本語」や「異文化間コミュニケーション」を学び自分のものにしていった多くの外国人学生と、日本語という母語を科学的に分析することの面白さを知った日本人学生のすがすがしい顔を見出すと、この宝物を持って15年半は、恵まれていた時間であると今改めて思う。

仕分作業の結果、これまで国の政策を実施してきた大学等における国際交流事業の多くが途中で廃止、縮小との判定を受け、諸外国からは約束違反との痛い言葉を浴びせられることもしばしばである。学内、学外ともにセンター環境はさらに厳しくなっていくと予想される。だが、多くの可能性の中から「日本」を選び「東京農工大学」に留学して来る外国人学生と、広く世界を活躍の場とするであろう日本人学生にとって、国際センターの教育と研究はその活動を支える土台であることは変わらない。本学における「日本語」と「異文化間コミュニケーション」に関する教育・研究活動が絶えないことを祈ってやまない。

化学システム工学科

國眼 孝雄

私は1969年4月に東京農工大学に着任し、本年3月末日を以って定年退職しました。1969年といえば、化学工学科の一期生が4年生に進級した年で、周囲には草創期の熱気で満ちていました。以来41年間農工大は着任した当時と比べ、想像もできないほど、発展してきました。そのようなときの流れに参画できたことに感謝すると共に、そのことを誇りに思っています。その中で遭遇した思い出を一つ述べることにします。

今年の3月、工学部の東門は改築され立派になりましたが、着任当時はその東門（入口）から建物に通ずる辺りは一面桑畑でした。今ではそこに立派な図書館が建っていますが、その前に細い路があって、雨の日などは路にできた水たまりに足を取られないように注意して、研究室に急いだものでした。そんな路に当時工学部長であった神原周先生が退官されるときにケヤキの苗木を寄贈され、その当時化学工学科におられた村田芳治先生が学生を動員して植えられました。別の研究室の助手であった私もその指揮の下で作業したものでした。ある研究室の行き先表示板には「農作業」という項目があったほどでした。1メートルほどの苗木ですから、強い雨が降れば倒れ、強い風が吹けば飛んで行くものもありましたが、ケヤキは意外に早く大きくなるものです。しばらくするとケヤキは順調に成長し、並木の体裁は整ってきたのですが、農学部にあるような立派なケヤキにはならないのです。あるとき「木と木の間隔を広くしたら」という農学部の先生の助言を得てケヤキを間引きました。するといま有るような立派なケヤキの並木に育っていったのでした。いま有るケヤキとケヤキの間には今はないケヤキがあったのです。これらのケヤキを植え、育てた多くの学生達の名前は思い出せませんが、みな農工大の化学工学科の卒業生達です。夏の暑い盛りにこの木の影に入りますと、ほっと一息つくことができます。こんな「無名の学生達の貢献」があって、今の農工大があることを思うとき、感無量の思いが致します。

循環型社会の構築を東京農工大学のひとつの使命とするとき、農学部と工学部が互いに協力・融合することで、社会に貢献する分野は無限に拡がっていくでしょう。私は、農工大という名前が気に入っています。今後も農学部と工学部が融合して、新たな飛躍をされることを心から期待しています。永い間ありがとうございました。

平成21年度 同窓会学生援助事業報告

1. 学会発表 (392 件)

① 農学部・農学府 (前期) : 23 件

	氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1	綿貫宏史朗	獣医	4	7years of Enrichment Award in Japan	9th International Conf. of Environmental Enrichment
2	市村 亮平	獣医	6	ラット肝発がん促進過程における TGFβ /Smad シグナリングの破綻	日本獣医学会
3	嶋田 悠子	獣医	6	β-ナフトフラボン (BNF) 誘発ラット肝発がんに対する酵素処理イソクエルシトリン (EMIQ) の腫瘍促進抑制作用	日本獣医学会
4	鈴木 輝政	獣医	6	Wy-14,643 およびピペロニルプロトキサイドのラット肝における in vivo 遺伝毒性の検索	日本獣医学会
5	水上 さやか	獣医	6	ラット肝二段階発がんモデルを用いた鉄ないし銅過剰投与による発がん修飾過程での鉄ないし銅関連分子の発現挙動	日本獣医学会
6	井上 和也	生物生産科学	M1	Properties of culm strength, lignin content and cinnamyl-alcohol dehydrogenase in the rice cultivar Leaf Star with high lodging resistance-Comparison with parents and gold hull and internode mutants	Plant Biology 2009
7	李 玫	生物生産科学	M1	アサガオの花弁老化関連遺伝子 In29 の機能解析	日本育種学会
8	佐野 直人	生物生産科学	M1	イネ登熟粒に存在する RNA 結合タンパク質プロテオーム的解析	日本育種学会
9	渡邊 史生	生物生産科学	M2	シアノバクテリア Synechocystis から分離した DNA 結合画分中のタンパク質のプロテオーム的解析	日本植物細胞分子生物学会
10	内田 祐太	生物生産科学	M2	低温条件で変動するダイズ種子タンパク質のプロテオーム的解析	日本育種学会
11	鶴 裕貴子	生物生産科学	M2	Estimation and characterization of a quantitative trait locus on chromosome 8 for leaf photosynthesis in paddy rice	Plant Biology 2009
12	中村 珠子	応用生命科学	M1	分級小麦澱粉の熱的性質に及ぼすアミノ酸の影響	日本応用糖質科学会平成21年度大会
13	榎本 麻衣	応用生命科学	M2	Lactobacillus plantarum NRIC0380 の抗アレルギー活性のメカニズム解析 *ポスター賞*	日本食品免疫学会2009年度大会
14	水口 洋平	応用生命科学	M2	T 細胞アナジーにおける再刺激時のユビキチン化の役割	日本食品免疫学会2009年度大会
15	幾谷 純子	物質循環環境科学	M1	窒素飽和林土壌における重酸化窒素生成プロセスについての検討 *ポスター賞*	日本地球惑星科学連合2009年度大会
16	柏原 千里	物質循環環境科学	M1	Membrane Inlet Mass Spectrometry を用いた溶存窒素 / アルゴン比測定 - 木崎湖における脱窒の評価 *ポスター賞*	日本地球惑星科学連合2009年度大会
17	竹林 佑	物質循環環境科学	M1	ヒノキ針葉窒素安定同位体比の決定機構	日本地球惑星科学連合2009年度大会
18	赤塚 武俊	物質循環環境科学	M1	沖縄辺戸岬におけるガス状過酸化水素の季節変化	大気環境学会
19	花岡 小百合	物質循環環境科学	M1	Aerial Observation of Aerosols and Gases Transported from East Asia in March-April, 2008	18th Int. Conf. on Nucleation & Atmospheric Aerosols
20	佐藤 春菜	物質循環環境科学	M1	モンゴル remote サイトにおける pH3.80 の降水の解析 - 降水化学とモデル計算から -	大気環境学会
21	島田 幸治郎	物質循環環境科学	M2	EC and OC Variation in Aerosols Transported from East Asia to Cape Hedo, Okinawa	Asia Oceania Geosciences Society
22	申 英 雙	国際環境農学	M2	Structure Analysis of Mitochondria genes and its expression Related with Cytoplasmic Male Sterility Phenomenon in Chili Pepper (capsicum annum L.)	日本育種学会
23	石森 元幸	国際環境農学	M2	種間接木変異トウガラシの後代に見られる成熟果実色変異に関連するカロテノイド生合成遺伝子の解析	日本育種学会

(後期) : 74 件

	氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1	廣岡 友子	生物生産	4	イネ種子の胚に存在する RNA 結合タンパク質のプロテオーム的解析	日本育種学会
2	小倉 安海	応用生物科	4	ブドウトラカミキリにおけるセクロビンの発現パターンの解析	第54回日本応用動物昆虫学会
3	田村 瑞	応用生物科	4	担子菌 Coprinopsis cinerea 由来セルラーゼ CcCel6A の立体構造解析	日本農芸化学会2010年度大会
4	大橋 亜沙美	環境資源科	4	加熱による木材中の有機酸の生成について	第60回日本木材学会
5	澁澤 悠哉	環境資源科	4	高含水率原料からのパーティクルボードの製造とボード物性	第60回日本木材学会
6	林 正大	地域生態システム	4	車両乗り入れ部における自転車の進入角度と乗り上げ成否 *優秀発表賞*	人類働態学会
7	吉武 香織	地域生態システム	4	様々な空間が脳波パターン及び心象に及ぼす影響と個人属性との関係	人類働態学会
8	曾我 昌史	地域生態システム	4	都市近郊林の蝶類に林分レベルの要因が及ぼす影響 *ポスター賞*	日本生態学会第57回全国大会
9	藤津 亜季子	地域生態システム	4	異なる環境間での鳥類による種子散布効率の比較	日本生態学会第57回全国大会
10	小川 文一朗	獣医	5	アクリルアミドの発達期暴露によるラット海馬歯状回での GABA 性介在ニューロンの反応	第26回日本毒性病理学会
11	坂田 知彦	獣医	5	腎臓摘出後に補助化学療法を実施した腎細胞癌の犬の1例	第30回動物臨床医学会年次大会
12	菊地 歩	獣医	6	造影超音波による腫瘍流入時間差評価の基礎的検討	第30回動物臨床医学会年次大会
13	田中 由衣	獣医	6	犬におけるステロイド系抗炎症薬の投与が肝 CYP 酵素活性に及ぼす影響について	第148回日本獣医学会学術集会
14	松下 祐子	獣医	6	犬の腫瘍性疾患における血漿 VEGF 濃度測定の臨床的有用性に関する検討	第30回動物臨床医学会年次大会
15	地紙 順子	獣医	6	ナノ粒子を多く含むディーゼル排気が雄マウスの精巣、副腎及び下垂体機能に及ぼす影響	環境ホルモン学会
16	角田 満	獣医	6	シャチの妊娠中における性腺刺激ホルモンとステロイドホルモン分泌に関する研究	日本野生動物医学会
17	原田 健弘	獣医	6	ライトコントロール法を実施した1歳馬における内分泌学的変化	日本ウマ科学会第22回学術集会
18	藤田 淳	獣医	6	糞中ステロイドホルモン測定による雌雄レッサーパンダの繁殖機能モニタリング	日本野生動物医学会
19	飯野 泰子	獣医	6	超音波造影剤ソナゾイドを用いて肝臓機能および予後の評価を行った門脈体循環シャントの犬7例	第30回動物臨床医学会年次大会
20	楊 兆東	生物生産科学	M1	Cd 添加黒ボク土壌に生育させたエンバク根圏土壌の水溶性有機酸および逐次抽出による Cd の形態分析	日本土壤肥料科学会2009年度京都大会
21	橋本 早記	生物生産科学	M2	2次元電気泳動の画像解析用に開発したソフトウェアを用いたイネ種子タンパク質の研究	日本育種学会
22	久須美 紗織	生物生産科学	M2	サンダーソニアにおける未熟種子由来カサの誘導およびアグロバクテリウム法による GUS 遺伝子の一過性発現	園芸学会平成21年度秋季大会
23	窪田 理美	生物生産科学	M2	アグロバクテリウム法によるコデマリの形質転換および pap 1 遺伝子の導入	園芸学会平成21年度秋季大会
24	高橋 彩佳	生物生産科学	M2	開花後のキンギョソウ花卉におけるアブシジン酸 (ABA) 関連遺伝子の転写産物量および内生 ABA 含量の変化と花弁老化の関係	園芸学会平成22年度春季大会

25	日比野 紗容	生物生産科学	M2	アサガオ花弁の可視的老化およびプログラム細胞死に及ぼすノルジヒドログアナレチック酸処理の影響	園芸学会平成22年度春季大会
26	井山佳代子	生物生産科学	M2	着果負担がブルーベリーの個葉の光合成速度、新梢生長量および果実収量に及ぼす影響—ハイブッシュブルーベリー 'Weymouth' とラビットアイブルーベリー 'Tifblue' を比較して—	園芸学会平成21年度秋季大会
27	野村 祐介	生物生産科学	M2	異なる光条件によって栽培されたミョウガ花らしいの食味と香気成分の比較	園芸学会平成22年度春季大会
28	宮崎 剛重	応用生命科学	M1	イソプラナーゼの活性中心近傍に存在する残基 Tyr440 の役割の解明	日本応用糖質科学会
29	中村 陽平	応用生命科学	M1	パルス電気刺激が培養ヒト皮膚細胞に及ぼす影響	第82回日本生化学会大会
30	岡田 知拓	応用生命科学	M1	抗原アナログによるクラススイッチ制御機構の解析	日本農芸化学会2010年度大会
31	八谷有字子	応用生命科学	M2	Effects of reconstituted type IV collagen aggregates on epidermal structure and function in human skin equivalents	日本研究皮膚科学会
32	久米 千智	応用生命科学	M2	β -ラクトグロブリンの-アミノ酸残基置換による免疫原性の低減化	日本農芸化学会2010年度大会
33	辰巳 佳行	応用生命科学	M2	タンパク質工学的手法を用いた糖鎖結合型バイオハイブリッド創出による β -ラクトグロブリン(BLG)の機能改変	日本農芸化学会2010年度大会
34	新井 智幸	応用生命科学	M2	細胞死誘導遺伝子 NtERF3 および NtSIPK を用いたウイルスの局所封じ込め	第32回日本分子生物学学会年会
35	木田 雄馬	応用生命科学	M2	タバコ NtERF3 相同遺伝子の一過的過剰発現による細胞死誘導	第32回日本分子生物学学会年会
36	堀内 悠	生物制御科学	M1	モンシロチョウにおける pierisin-1 の発現と活性化に細菌感染が与える影響	第54回日本応用動物昆虫学会
37	秋月 直也	生物制御科学	M1	チャハマキ Homona magnanima における共生細菌 Wolbachia による生殖操作	第71回昆虫病理研究会
38	福留 章仁	生物制御科学	M1	シロイヌナズナにおける DCL/DRB タンパク質複合体の二本鎖 RNA 切断活性の生化学的解析	第32回日本分子生物学学会年会
39	緒方法 親	生物制御科学	M2	カブトムシ脂肪体初代移植片培養における性差の影響	第54回日本応用動物昆虫学会
40	渡辺 賢太	生物制御科学	M2	社会性寄生蜂におけるカースト構成の量的遺伝学的解析	日本生態学会第57回全国大会
41	張替 秋	生物制御科学	M2	チャハマキオス殺しウイルスの交差感染性と宿主の類縁関係	第54回日本応用動物昆虫学会
42	引原 翔平	生物制御科学	M2	チャノコカクモンハマキ病死体から分離された顆粒病ウイルス包埋体形態異常変異株の全ゲノム解析	第54回日本応用動物昆虫学会
43	田中 薫	生物制御科学	M2	核多角体病ウイルスに対するチャノコカクモンハマキ抵抗性機構の解明2.中腸および血体液におけるウイルス DNA および RNA の検出	第54回日本応用動物昆虫学会
44	江上 舞	生物制御科学	M2	シロイヌナズナの二本鎖 RNA 結合タンパク質のキメラ遺伝子過剰発現体を用いた解析	第32回日本分子生物学学会年会
45	小野塚 信哉	生物制御科学	M2	海草アマモ由来サイクロフィリン様遺伝子(ZmCyp1)の機能解析	第51回日本植物生理学会
46	熊 志傑	生物制御科学	M2	インゲンマメには進化的に離れた2種の2本鎖 RNA レプリコンが共存している。	日本植物学会第73回大会
47	鈴木 佑	生物制御科学	M2	イネいもち病菌に生育阻害をもたらす2種のマイコウイルスの性状解析	糸状菌分子生物学コンファレンス
48	竹林 佑	物質循環環境科学	M1	窒素安定同位体比を用いたヒノキの窒素利用様式の推定	日本地球化学若手シンポジウム2009
49	柏原 千里	物質循環環境科学	M1	木崎湖における N ₂ /Ar 比測定法を用いた N ₂ 生成・消費プロセスの検討	日本陸水学会第74回大会
50	深田 洋行	物質循環環境科学	M1	砂状の河床堆積物における脱窒	日本陸水学会第74回大会
51	佐々木 雄治	物質循環環境科学	M1	窒素・酸素安定同位体比を用いた長野県木崎湖初夏の水柱における窒素動態解析	日本陸水学会第74回大会
52	石川 昌和	物質循環環境科学	M2	Burkholderia 属 DP-4 株の生残性に及ぼす Rhodococcus 属 LM-1 株と可視光の複合影響	第25回日本微生物生態学会
53	小関 彩	物質循環環境科学	M2	2,4-Dichlorophenol 分解細菌の銅イオン耐性に原生動物 Tetrahymena thermophila が及ぼす影響	第25回日本微生物生態学会
54	小松 大祐	物質循環環境科学	M2	繊維虫 Tetrahymena thermophila との共培養において促進される Rhodococcus 属 LM-1 株のグルコース消費	第25回日本微生物生態学会
55	大須賀 雄	物質循環環境科学	M2	石材表面に形成されたバイオフィルムの色調と微生物群集の関係	第25回日本微生物生態学会
56	関田 真奈	物質循環環境科学	M2	アブラナ科植物の器官別 COS 放出ならびにそれらを分解する土壌微生物	第25回日本微生物生態学会
57	西宮 真美	物質循環環境科学	M2	放線菌による硫化カルボニルの分解	第25回日本微生物生態学会
58	竹田 千尋	自然環境保全学	M1	GPS 首輪を用いたニホンジカの行動解析 *ポスター賞*	日本生態学会第57回全国大会
59	渡辺 なつ樹	自然環境保全学	M1	冬期に北海道へ来遊するゴマファザラシの食性解析	日本哺乳類学会2009年度大会
60	林 あかね	自然環境保全学	M1	山村における地域女性の起業活動の実態と課題	日本森林学会関東支部大会
61	福原 宜美	自然環境保全学	M1	イノシシ害対策における住民参加の実態と課題 —栃木県を事例として—	日本森林学会関東支部大会
62	ビリゲト	自然環境保全学	M1	丹沢堂平地区の林床植生衰退地における土壌侵食量と降雨量、地表流量との関係	日本森林学会関東支部大会
63	上田 成彬	自然環境保全学	M1	ヒノキの細根密度と根圏微生物がリンの可給性に及ぼす影響	第121回日本森林学会大会
64	桑原 崇之	自然環境保全学	M1	森林土壌における撥水性と異なる植生間の腐植組成の関係	第121回日本森林学会大会
65	塚田 夢人	自然環境保全学	M1	関東の針葉樹人工造林地における伐採方法が広葉樹天然更新に及ぼす影響	第121回日本森林学会大会
66	上山 真平	自然環境保全学	M2	奥多摩地域における嗜好性樹種の樹皮剥ぎからみたニホンジカの生息状況の把握	日本生態学会第57回全国大会
67	竹田 直人	自然環境保全学	M2	山梨県における狩猟者の意識と人口動態からみた農業加害種の捕獲数増加要因	日本生態学会第57回全国大会
68	戸田 春那	自然環境保全学	M2	栃木県におけるシカの分布と狩猟者の意識・行動・努力量から見た個体数管理対策の検討 *ポスター優秀賞*	日本生態学会第57回全国大会
69	中島 亜美	自然環境保全学	M2	果実14種の結実量の時期・年次的変化とツキノワグマの採食行動の関係	日本生態学会第57回全国大会
70	松山 奈央	自然環境保全学	M2	千葉市におけるニホンリス避難場所としてのゴルフ場の評価	日本生態学会第57回全国大会
71	渡邊 眞澄	自然環境保全学	M2	植生データをを用いた森林棲コウモリ類の生息適地予測 —栃木・茨城における試み—	日本生態学会第57回全国大会
72	海 虎	自然環境保全学	M2	林床植生被覆率・リター被覆率の変化が斜面における浸透率及び地表流出率に与える影響	日本森林学会関東支部大会
73	山田 勇智	自然環境保全学	M2	丹沢堂平地区の溪流における浮遊土砂量と降雨量の関係	日本森林学会関東支部大会
74	福家 光敏	国際環境農学	M2	ブルーベリー樹周辺に被覆した肥料入り圧縮ボードのマルチ効果と肥料効果	園芸学会平成22年度春季大会

② 連合農学研究科 (前期) : 9 件

	氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1	浅沼 俊輔	生物生産科学	D1	Estimation and characterization of a quantitative trait locus on chromosome 4 for leaf photosynthesis in paddy rice	Plant Biology 2009
2	Yin Yin Nwe	生物生産科学	D1	Regeneration through direct shoots from different kinds of explants in Citrus reticulata var. Honey orange	日本育種学会
3	宇 蕾	生物生産科学	D2	Characterization of 7S Subunit Variations in Soybean Storage Protein	国際大豆研究会議
4	菅井 佳宣	生物生産科学	D2	Biosynthetic enzyme-dependent synthesis and labeling of natural terpenoids * Good Presentation Award *	TERPNET2009
5	勝又 卓己	生物生産科学	D2	Functional analysis of cytochrome P450s involved in terpenoidal plant hormone biosynthesis by Pichia pastoris	TERPNET2009
6	稲見 圭悟	生物生産科学	D2	トマト萎凋病菌レースのリアルタイム PCR による特異識別	日本土壌微生物学会2009年度大会
7	安達 悠	応用生命科学	D1	T 細胞の活性化とアナジの決定機構の解析	日本食品免疫学会2009年度大会
8	日出 問り	生物工学	D3	複雑系化学物理 XXIII : 石鹸膜乱流における PEO 添加効果の画像解析—流線の曲率を中心として—	高分子学会
9	金 海 蘭	環境資源共生科学	D3	低密度調整剤の添加による紙シートの物性変化	紙パルプ研究発表会

(後期) : 24 件

	氏 名	学科名・専攻名	学年	発 表 題 目	学 会 名
1	篠崎 良仁	連農 生産生物学	D1	アサガオの花弁老化におけるオートファジーと老化関連遺伝子の発現との関係	園芸学会平成22年度春季大会
2	山本 真民	連農 生産生物学	D2	C型肝炎ウイルス粒子形成、感染性に重要なコレステロール構造の解析	第57回日本ウイルス学会学術集会
3	岡田 亮	連農 生産生物学	D2	ピーマン内在性2本鎖RNAレプリコンの遺伝子構造解析	日本植物学会第73回大会
4	清田 依里	連農 生産生物学	D2	2本鎖RNAを特異的に切断するシロイヌナズナのClass 1 RNase III (AtRTL2)	日本植物学会第73回大会
5	加倉井 憲一	連農 生産生物学	D2	珪パン比の異なる二、三の土壌シルト、粘土および細粘土画分の粘土鉱物組成	日本土壌肥科学会2009年度京都大会
6	小賀田 拓也	連農 応用生命科学	D1	NtERF3による細胞死誘導と細胞死誘導遺伝子組換えウイルスの局所封じ込めについて	平成21年度植物感染生理談話会
7	久住 朝子	連農 環境資源共生科学	D1	アンコール遺跡の劣化石材バイオフィームと寺院内バイオエアロゾルの微生物群集構造解析	第25回日本微生物生態学会
8	桂 秀光	連農 環境資源共生科学	D1	Study on aerosol in Offshore Malibu Beach and Santa Barbara, California by airplane:Relationship between aerosol of top of cloud and aerosol of bottom of cloud regarding nitrogen stable isotope ratio and concentration of nitrate and nitrous	アメリカ化学会地球化学部門
9	小林 喬子	連農 環境資源共生科学	D1	エゾシカの個体数増加とヒゲマによるエゾシカ新生子の捕食	日本哺乳類学会2009年度大会
10	盧 暁強	連農 環境資源共生科学	D1	中国カルスト地域の原生林における土壌表層の養分動態	第121回日本森林学会大会
11	Afshin Ghahramani	連農 環境資源共生科学	D2	Rain Splash Sediment Transport over Steep Hillslope * YOUNG SCIENTIST POSTER AWARD *	Asia Pacific Symposium on New Technologies for Prediction and Mitigation of Sediment Disasters
12	初 磊	連農 環境資源共生科学	D2	丹沢堂平地区における土壌侵食対策試験施工の林床合計被覆率と土壌侵食量の変化	日本森林学会関東支部大会
13	甲野 毅	連農 環境資源共生科学	D2	都市集合住宅における共有緑地保全活動への発展過程	2009年林業経済学会秋季大会
14	RakotonDRAMANGA Soalandy Panjamalala	連農 環境資源共生科学	D2	Comparative study of Community Forestry policies in Southeast Asia	2009年林業経済学会秋季大会
15	若原 妙子	連農 環境資源共生科学	D3	Comparison of runoff characteristics of two adjacent catchments in a tropical rainforest in Sarawak Malaysia by using a modified hydrologic cycle model with outflow	The Sarawak Biodiversity Forum Inaugural Workshop
16	小坂井 千夏	連農 環境資源共生科学	D3	ツキノワグマは食物不足の秋をどう乗り切るのか? *優秀ポスター賞*	日本哺乳類学会2009年度大会
17	Thaoi Mong Rakhine	連農 農林共生社会科学	D1	バングラデシュ少数民族居住区の農家経済の現状と課題 —コックス・バザール県パネールチョラ集落を事例にして—	日本農業経営学会
18	Hussain Khalil Mraqa	連農 農林共生社会科学	D1	The Effect of Agricultural Cooperatives on Farm Income in Rural Afghanistan — Comparison of farm economies between cooperative and non — cooperative areas in Qlai — Naem village —	日本農業経営学会
19	韃 鞆 牧仁	連農 農林共生社会科学	D1	内モンゴル自治区における養羊経営実態に関する研究 —赤峰市オンノウド旗の事例分析—	日本農業経営学会
20	相原 延英	連農 農林共生社会科学	D2	WTO体制化における輸入検査措置への影響に関する一考察	日本農業市場学会2009年度大会
21	阿 拉 坦 沙	連農 農林共生社会科学	D2	中国の和諧社会実現における社会主義新農村新牧畜区の構築 —内モンゴル自治区牧畜地域の事例分析—	共生社会システム学会2009年度大会
22	Faoziah Dina	連農 農林共生社会科学	D3	都市農協における准組合員の意識に関する一考察 —JA 東京むさしの事例から—	日本農業経営学会
23	Vichapol Bunyawat	連農 農業環境工学	D3	Potential of cool dry air for reducing moisture content of wet wheat grain	農業環境工学関連学会2009年合同大会
24	中島 亨	連農 農業環境工学	D3	黒ボク土の透気性・吸着性を考慮した土壌脱臭法の検討	農業環境工学関連学会2009年合同大会

③ 連合獣医学研究科 (後期) : 5 件

	氏 名	学科名・専攻名	学年	発 表 題 目	学 会 名
1	潘 玲梅	連獣 獣医生理学	D2	Effects of Pantothenic acid (PaA) on testicular and adrenal function in male rats	Third Asia-Pacific Forum on Andrology
2	山本 ゆき	連獣 獣医生理学	D2	雌ゾウのプロラクチン分泌に関する研究 *ベストポスター賞*	日本野生動物医学学会
3	Kaewmanee Saroch	連獣 基礎獣医学連合講座	D3	Corpora lutea as a major source of inhibin secretion during luteal phase in the female Asian elephant (Elephas maximus)	The 42nd SSR Annual Meeting
4	蛇島 武久	連獣 獣医学	D4	免疫賦活物質 Immuno potentiator from Pantoea agglomerans 1 (IP-PA1)の抗癌治療における効果	第148回日本獣医学学会学術集会
5	山本 達也	連獣 基礎獣医学連合講座	D4	Observation a term placenta of African elephant (Loxodonta Africana) in delivery	Asian Society of Zoo and Wildlife Medicine

④ 工学部・工学府 (前期) : 76 件

	氏 名	学科名・専攻名	学年	発 表 題 目	学 会 名
1	滝谷 和聡	電気電子工学	4	電界放射電流誘起型EMによるナノスケールデバイスの作製(1):単電子トランジスタの検討	第70回応用物理学会学術講演会
2	松野本 宜寛	生命工学	M1	Measurements of mitochondrial permeability change induced by t-BuOOH	第47回日本生物物理学会年会
3	中川 あゆみ	生命工学	M1	超好熱性古細菌由来II型シャペロニンの反応機構の速度論的解析	第9回日本蛋白質科学会年会
4	新井 啓己	生命工学	M2	Effect of Additives on the Phase Separation Behavior of Ionic Liquids/Water Mixture	3rd Congress on Ionic Liquids
5	咲山 航	生命工学	M2	固体NMRによるポリグリコール酸縫合糸の物性を左右する配向構造の検出	平成21年度繊維学会年次大会
6	齊藤 史彦	生命工学	M2	Improvement of DNA aptamers against C-reactive protein and thyroglobulin	First World Congress of Int. Academy of Nanomedicine
7	北川 太郎	生命工学	M2	Molecular Beacon 修飾ナノ針を用いた生細胞のmRNA解析	第61回日本生物工学会大会
8	原田 龍一	生命工学	M2	蛍光偏光解消法を用いた α -シスクレインオリゴマーの検出	第9回日本蛋白質科学会年会
9	長谷田 圭亮	生命工学	D1	神経突起ミトコンドリアの光学距離と膜電位	第47回日本生物物理学会年会
10	金 志 勲	生命工学	D2	膜電位感受性色素を用いたアミロイド形成蛋白質の新規細胞毒性評価バイオセンシングシステムの開発 *日本蛋白質科学会ポスター賞*	第9回日本蛋白質科学会年会
11	神前 太郎	生命工学	D3	II型シャペロニンの低温適応化	34th FEBS Congress
12	藤田 智沙	生命工学	D3	t-BuOOH 誘導性細胞死におけるCypDの役割:ミトコンドリアによるATP供給への関与	第47回日本生物物理学会年会
13	今村 陽子	応用化学	M1	ポリマープレンド中の高分子錯体のブリードアウト効果	プラスチック成形加工学会
14	早乙女 俊樹	応用化学	M1	超臨界二酸化炭素雰囲気下におけるポリアクリロニトリルの熱処理挙動	プラスチック成形加工学会
15	高津 衣世	応用化学	M1	熱可塑性エラストマーの相構造と力学特性	プラスチック成形加工学会
16	内田 裕介	応用化学	M1	タンパク質徐放制御を可能とする反応性二重構造高分子ミセルが形成する組織接着性ハイドロゲルの開発 *若手優秀ポスター賞*	平成21年度繊維学会年次大会
17	諸石 眸	応用化学	M1	タンパク質徐放制御を可能とする自己組織化体を組み込んだシート状マテリアルの開発	平成21年度繊維学会年次大会
18	橋本 紗永子	応用化学	M1	ナフタレン結晶の成長速度の相関	分離技術学会2009
19	宮田 佳織	応用化学	M1	水溶液中の核化現象に及ぼすマイクロ波の影響	分離技術学会2009
20	大江 祥元	応用化学	M1	超臨界二酸化炭素処理によるポリエーテル系電解質のイオン伝導度の経時変化	平成21年度繊維学会年次大会
21	中村 美月	応用化学	M1	二酸化炭素を基幹物質とする固体高分子電解質の合成とイオン伝導性の評価	平成21年度繊維学会年次大会

22	仲田 翔吾	応用化学	M1	極柔軟鎖をスパーサーに用いた置換メチレン高分子液晶の液晶温度域の低温シフト化	平成21年度繊維学会年次大会
23	米倉 有美	応用化学	M1	アルマイト触媒を用いた熱交換型マイクロリアクターの研究	化学工学会第41回秋季大会
24	玉田 春仙	応用化学	M1	TEMPO ユニットの含む環状化合物の合成と重合開始剤としての利用	平成21年度繊維学会年次大会
25	秋山 恵	応用化学	M1	シクロデキストリン-ポリオレフィン包接化合物のポリ乳酸に対する造核作用	平成21年度繊維学会年次大会
26	吉川 悠以子	応用化学	M1	嵩高い脂環状オレフィン含有スチレン共重合体のポリマー改質効果	第58回高分子学会年次大会
27	一色 直恵	応用化学	M2	シクロデキストリン-非晶性ポリオレフィン包接化合物のポリ(1-ブテン)に対する造核作用	平成21年度繊維学会年次大会
28	齋藤 亨太	応用化学	M2	新規Ni 錯体を用いたシクロオレフィンの重合-アシルヒドラゾン配位子と重合性能-	第58回高分子学会年次大会
29	長澤 慎之介	応用化学	M2	高分子反応法を用いた耐熱性ポリマーの合成における固体酸触媒の影響	平成21年度繊維学会年次大会
30	岩井 新	応用化学	M2	分岐型オリゴおよびポリイミダゾリウム塩の合成と対アニオンの効果	平成21年度繊維学会年次大会
31	土屋 心之介	応用化学	M2	ジアセチレン連結オリゴペプチドの合成と超分子化の検討	平成21年度繊維学会年次大会
32	土方 弘憲	応用化学	M2	高分子環化反応を利用した環状ポリスチレン類の合成	平成21年度繊維学会年次大会
33	飯野 洸	応用化学	M2	飼料イネのメタン発酵特性の検討	化学工学会第41回秋季大会
34	山本 佳世子	応用化学	D2	日刊工業新聞・産学連携面における6年間の記事分析	産学連携学会
35	李 春	応用化学	D3	シクロデキストリン-ポリオレフィン包接化合物のポリ(1-ブテン)に対する造核作用	第58回高分子学会年次大会
36	藤井 望	応用化学	D3	二種類のメソゲンを有する置換メチレン高分子液晶の相安定化挙動	平成21年度繊維学会年次大会
37	高橋 大	機械システム工学	M1	試作した振り型摩擦摩耗試験機による境界潤滑性能評価	トライボロジー会議2009春
38	大澤 淳一	機械システム工学	M1	シュリーレン法・PSP 同時計測による内部流光学計測	第41回流体力学講演会
39	竹田 敏広	機械システム工学	M1	セラミック超微粒子を用いた高速応答型感圧複合塗料	第41回流体力学講演会
40	霜野 慧亮	機械システム工学	M1	線形パラメータ変動系で表される搬送装置の制御に関する研究	Dynamics and Design Conference 2009
41	永山 貴教	機械システム工学	M2	超大型振動台シミュレータの開発及び実験結果に基づく性能評価	Dynamics and Design Conference 2009
42	加藤 敦司	機械システム工学	M2	パラメータ変動を伴う搬送装置の制御に関する研究	「運動と振動の制御」シンポジウム-MoViC2009-
43	今川 健太郎	機械システム工学	M2	細胞ビルドアップ型ウェットロボティクスの構築と機能創発-流体駆動デバイスの構築及び駆動に対する化学刺激の影響-	ロボティクス・メカトロニクス講演会2009
44	白田 敬介	機械システム工学	M2	レジスト薄膜の変形を用いた3次元カーボン構造体の自己組織化とバイオ応用	ロボティクス・メカトロニクス講演会2009
45	上杉 薫	機械システム工学	M2	細胞ビルドアップ型ウェットナノロボティクスの構築と機能創発	ロボティクス・メカトロニクス講演会2009
46	山本 健太	機械システム工学	M2	植物細胞を用いた自己組織化構造体の構築	ロボティクス・メカトロニクス講演会2009
47	大山 誠敬	機械システム工学	M2	SCM440材の2軸応力下における相変態挙動の計測	日本機械学会2009年度年次大会
48	池谷 拓巳	機械システム工学	M2	内側壁面外回転する環状曲面拡大流路内流れにおける流路形状の影響	第46回日本伝熱シンポジウム
49	越 雅彦	機械システム工学	M2	Drag Reduction of Turbulent Channel Flow by Polymer Release from Wall	Turbulence, Heat and Mass Transfer
50	相馬 顕子	機械システム工学	D1	Experimental Investigation of Pump Control for Drag Reduction in Pulsating Turbulent Pipe Flow	The Sixth IntSymposium on Turbulence and Shear Flow Phenomena
51	西田 怜美	機械システム工学	D1	過渡応答法を用いたティアドロップ形状ディンプル面の乱流熱伝達率計測	第46回日本伝熱シンポジウム
52	Phan Thanh-Long	機械システム工学	D2	Visualization of a Parallel-Tube Heat Transport Device by Using a High-Speed Camera	第46回日本伝熱シンポジウム
53	弘中 浩二	機械システム工学	D3	供試体反力を考慮した振動台制御	「運動と振動の制御」シンポジウム-MoViC2009-
54	古市 和也	電気電子工学	M1	RPECVD 法による SiNx : H 反射防止膜のバッシュペーション効果	第6回「次世代の太陽光発電システム」シンポジウム
55	伴 直樹	電気電子工学	M1	Quality Investigation of Compensted Aluminium-Doped Multicrystalline Silicon Ingot	24th European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition
56	吉葉 修平	電気電子工学	M1	Low Temperature Fabrication of Microcrystalline Silicon Thin Films Using Microwave Remote-Plasma Enhanced Chemical Vapor Deposition	24th European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition
57	上野 俊介	電気電子工学	M1	電界放射電流誘起型 EM による強磁性トンネル接合の集積化技術の検討	第70回応用物理学会学術講演会
58	安武 龍太郎	電気電子工学	M1	電圧フィードバック EM におけるマイグレーションメカニズムの検討	第70回応用物理学会学術講演会
59	渡邊 敬登	電気電子工学	M1	電界放射電流誘起型 EM によるナノスケールデバイスの作製(2): 強磁性トンネル接合の検討	第70回応用物理学会学術講演会
60	伊丹 壮一郎	電気電子工学	M2	電圧フィードバック EM におけるチャンネル形状狭窄過程の検討	第70回応用物理学会学術講演会
61	宮下 和也	電気電子工学	M2	大気中室温下での SPM スクラッチ加工による量子化コンダクタンスの発現と制御	第70回応用物理学会学術講演会
62	久米 彌	電気電子工学	M2	Fabrication of Single-Electron Transistors using Field-Emission-Induced Electromigration	Int. Conf. on Nanoscience and Technology (China NANO 2009)
63	GOH LING WEI	電気電子工学	M2	Growth and Characterization of n-type Multicrystalline Silicon Ingot Intentionally Compensated with Aluminium	24th European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition
64	小玉 雄一朗	電気電子工学	M2	Fiber Transmission Characteristics of Optical Solitons Generated by Optical Pulse Synthesizer	The 8th Pacific Rim Conf. on Lasers and Electro-Optics
65	高橋 晶子	電気電子工学	M2	Fiber Sensor Network with Optical Power Supply	The 8th Pacific Rim Conf. on Lasers and Electro-Optics
66	辻 真志	電気電子工学	M2	A Study on the Accurate Estimation of the Number of Weak Coherent Signals	The 6th European Radar Conference
67	山田 尚人	物理システム工学	M1	超音波による磁化分布の可視化	第70回応用物理学会学術講演会
68	坂下 伸哉	物理システム工学	M1	陽極酸化ポーラスアルミナの細孔間距離の電解溶液温度依存性(2)	第70回応用物理学会学術講演会
69	長江 啓史	物理システム工学	M2	高温 MBE 成長による (Ga, Mn) As ドットの作製	第70回応用物理学会学術講演会
70	浅山 景子	物理システム工学	M2	リボソームの糖鎖層を持つ血管内皮細胞間隙透過過程: 数値流体力学的研究 II	日本物理学会2009年秋季大会
71	小黒 由美子	物理システム工学	M2	DDS ナノ粒子の糖鎖層を持つ血管内皮細胞間隙透過に関する実験的研究	日本物理学会2009年秋季大会
72	増田 直也	物理システム工学	M2	渦輪の粒状体表面への衝突	日本物理学会2009年秋季大会
73	中力 雅人	情報工学	M1	多重解像度表現による組合せ最適化を用いた離散平面認識	情報処理学会 CVIM 研究会
74	友田 悠介	電子情報工学	D3	電界放射電流誘起型 EM により作製した強磁性トンネル接合における磁気抵抗特性	第70回応用物理学会学術講演会
75	西村 信也	電子情報工学	D3	Control of Tunnel Resistance of Si Nanogaps Using Field-Emission-Induced Electromigration	Int. Conf. on Nanoscience and Technology (China NANO 2009)
76	小林 夏季	生命工学	D3	低分子阻害剤修飾部分配列ペプチドによる標的蛋白質選択的なアミロイド線維形成の抑制	第9回蛋白質科学会年会

(後期) : 149件

	氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1	栗原 遼	生命工	4	Redox Behavior of Viologens Monomolecularly Incorporated in DNA Films * Young Scientist Poster Award *	The 1st FAPS Polymer Congress
2	佐藤 雅	生命工	4	システイン未修飾コバルト型NHaseの機能解明	日本生物工学会東日本支部学生発表討論会
3	中西 拓也	生命工	4	チオシアネート加水分解酵素の成熟化機構におけるコバルト挿入機構	日本分子生物学会
4	北嶋 瑞樹	生命工	4	次世代DNAシーケンサーによる <i>Dehalococcoides</i> コンソーシアのメタゲノム解析	日本分子生物学会
5	友成 太一	生命工	4	分裂酵母 <i>Schizosaccharomyces pombe</i> 由来 SpHsp16.ON 末端変異体の解析	日本分子生物学会
6	守谷 和騎	生命工	4	分裂酵母 <i>Schizosaccharomyces pombe</i> プレフォルドインの大量発現系の構築	日本分子生物学会
7	小林 政之	応用分子化	4	カチオン性ロジウム錯体触媒を用いた不斉カスケード環化反応によるキラル多環性骨格の構築	日本化学会第90春季年会
8	崎山 訓史	応用分子化	4	ロジウム触媒を用いた[2+2+2]付加環化反応による軸不斉1-アリアルイソキノリン誘導体の合成	日本化学会第90春季年会
9	澤田 弥生	応用分子化	4	ロジウム触媒を用いた[2+2+2]付加環化反応によるテトラヒドロナフタレン誘導体の合成	日本化学会第90春季年会
10	渋谷 哲朗	応用分子化	4	カチオン性遷移金属錯体触媒を用いた分子内ヒドロアリアル化反応による4-アリアル-2-キノリン誘導体の合成	日本化学会第90春季年会
11	森 文哉	応用分子化	4	ロジウム触媒を用いた分子内[2+2+2]付加環化反応による軸不斉ビアリアルジホスフィン配位子の合成	日本化学会第90春季年会
12	酒井 美希	応用分子化	4	高温その場 X 線回折による単結晶 AlN の格子定数の温度依存性測定	第57回応用物理学関係連合講演会
13	東川 義弘	応用分子化	4	サファイア(0001)基板上 In N HVPE 成長における NH ₃ 供給分圧変動効果	第57回応用物理学関係連合講演会
14	竹次 将人	応用分子化	4	Michael 付加を用いた含 CF ₃ 四級炭素中心の構築	日本化学会第90春季年会
15	日影 玲雄	応用分子化	4	ペルフルオロアルキルチウムを用いた α, β -不飽和エステルの簡便合成	日本化学会第90春季年会
16	田淵 新二	有機材料化	4	モリブデン触媒を用いた α, β -不飽和イミン類の分子内クロスマセシス反応	日本化学会第90春季年会
17	丸山 慧	有機材料化	4	有基塩基を用いた α, β -不飽和イミン類の(E),(Z)-異性化反応	日本化学会第90春季年会
18	佐藤 広崇	化学システム工	4	メカノケミカル効果によるグリシン多形転移への機械的エネルギー授与方法の影響	化学工学会学生発表会
19	神野 一輝	化学システム工	4	メカノケミカル法による有機物粉砕と DL-グルタミン酸の水和物転移の分析	化学工学会学生発表会
20	牧 寛之	化学システム工	4	二次核化現象に及ぼすマイクロ波の影響 *優秀賞*	化学工学会学生発表会
21	高田 義正	機械システム工	4	複合加工機を用いた摩擦攪拌形パニングによるシャフト材表面層の高硬度化・圧縮残留応力付与	精密工学会
22	清水 恒志	機械システム工	4	昆虫細胞シートアクチュエータを用いた室温環境での自律拍動マイクロポンプの作製	日本ロボット学会学術講演会
23	五十嵐 立騎	機械システム工	4	ワイヤ放電加工中に生成する気泡の成分分析による極限現象の解明	電気加工学会全国大会
24	梶原 雄三	機械システム工	4	超硬合金の材料組織が微細放電加工現象に与える影響	電気加工学会全国大会
25	澁谷 直城	機械システム工	4	電解液ジェット加工を用いた微細加工	電気加工学会全国大会
26	矢萩 優名	機械システム工	4	高速回転軸への静電誘導給電による微細放電加工の加工特性向上	電気加工学会全国大会
27	大野 丹	機械システム工	4	高臨場感嗅覚ディスプレイ匂いと風の統合提示に関する検討―	平成22年電気学会全国大会
28	宮谷 郁哉	機械システム工	4	エアカーテン効果を利用した能動ステレオ嗅覚センシングシステム	平成22年電気学会全国大会
29	和田 佑太	機械システム工	4	嗅覚ロボット研究のためのデータベース構築	平成22年電気学会全国大会
30	池田 愛	物理システム工	4	T'構造母物質 RE ₂ CuO ₄ の超伝導特性のRE依存性	第57回応用物理学関係連合講演会
31	武田 宗一郎	物理システム工	4	固相エピタキシーを用いた FeSe 薄膜の作製(2)	第57回応用物理学関係連合講演会
32	粕谷 洋介	電気電子工	4	干渉計測のための周波数間隔可変な SC 光発生	第57回応用物理学関係連合講演会
33	茂澤 清信	電気電子工	4	短光パルス伝播によるファイバ網特性の解析	第57回応用物理学関係連合講演会
34	篠崎 陽平	電気電子工	4	256視点超多眼ディスプレイの視点間クロストークと光線の集光性	映像情報メディア学会
35	石原 知明	情報工	4	MANOI による画像を用いたオーナー認識	電気学会・産業計測制御研究会
36	高橋 巧一	情報工	4	パーティクルフィルタに基づく簡易頭部モデルを用いた表情推定	電気学会・産業計測制御研究会
37	田嶋 慎太郎	情報工	4	脳波を用いたルーヴル美術展鑑賞における興味度の抽出	電気学会・産業計測制御研究会
38	根岸 佑希	情報工	4	脳波を用いた飲料分類手法	電気学会・産業計測制御研究会
39	林 康平	情報工	4	携帯電話網をアクセス制御に用いた無線 LAN 相互利用システムの一検討	情報処理学会創立50周年記念(第72回)全国大会
40	森安 辰	情報工	4	端末間時刻同期を用いた動画同期視聴における操作性に向上 *学生奨励賞*	情報処理学会創立50周年記念(第72回)全国大会
41	佐藤 茂樹	情報コミュニケーション工	4	室内全体の動きと音からの場の割り込み許容度推定可能性の検討 *学生奨励賞*	情報処理学会創立50周年記念(第72回)全国大会
42	福谷 洋介	生命工学	M1	出芽酵母での機能的発現に関与する嗅覚受容体 N 末端領域の特定	第32回日本分子生物学会年会
43	山中 保明	生命工学	M1	鉄型ニトリルヒドラーゼ活性中心におけるセリン配位子と近傍のアミノ酸残基の機能	第9回日本蛋白質科学会年会
44	阿部 由寛	生命工学	M1	Baculovirus-昆虫細胞発現系による MDM2 の高発現が困難な理由は自己ユビキチン化による分解ではない	第82回日本生化学会大会
45	塚越 かつり	生命工学	M1	α -シヌクレインに結合する DNA アプタマーの探索と測定への応用	2009年電気化学秋季大会
46	野中 芳彦	生命工学	M1	センサー素子にアプタマーを用いた高感度測定系の構築を目的とした、VEGF 結合アプタマーの改良	2009年電気化学秋季大会
47	丹部 絵梨	生命工学	M1	海洋酵母由来フルクトシルアミノ酸酸化酵素の変異導入による機能改変と人工電子受容体反応性に関する解析	2009年電気化学秋季大会
48	安瀬 佑希	生命工学	M1	<i>Drosophila melanogaster</i> 由来グルコース脱水素酵素の組み換え発現	2009年電気化学秋季大会
49	亀谷 俊輔	生命工学	M1	クモ索引糸、野蚕絹糸間の著しい物性の違いと関連するポリアラニン領域の異なる分子間 β 構造の発現	第48回 NMR 討論会
50	宮本 早矢香	生命工学	M1	家蚕絹フィブロイン足場材料上での骨芽細胞分化における遺伝子発現解析	第18回ポリマー材料フォーラム
51	田代 佳教	生命工学	M1	ポリフェノールによる骨形成調節作用	第82回日本生化学会大会
52	伏見 祐	生命工学	M1	リポ多糖類(LPS)による骨吸収作用の解析	第82回日本生化学会大会
53	森岡 麻耶	生命工学	M1	ビタミン D ₃ 活性のバイオアッセイ法の確立	第82回日本生化学会大会
54	石川 剛司	生命工学	M1	乳癌の増殖と浸潤におけるプロスタグランジン E ₂ の役割	第82回日本生化学会大会
55	植野 愛子	生命工学	M1	骨芽細胞における NF- κ B シグナリングの役割	第82回日本生化学会大会
56	横山 智史	生命工学	M2	乳癌の骨破壊は宿主誘導性のプロスタグランジン E ₂ と EP4 が関与する	第82回日本生化学会大会
57	新居 枝里子	生命工学	M2	脂肪細胞分化における PKA シグナルの関与	第82回日本生化学会大会
58	磯崎 誠	生命工学	M2	トランスジェニック蚕による再生医療材料としての高機能化絹の生産と応用	第58回高分子討論会
59	池永 万希子	生命工学	M2	クモ索引糸モデルペプチドに関する固体 NMR 構造解析	第58回高分子討論会
60	咲山 航	生命工学	M2	固体 NMR によるポリグリコール酸結合糸の物性を左右する配向構造の検出	繊維学会
61	吉田 愛	生命工学	M2	高い細胞接着性を有する新しい絹の作成と NMR 構造解析	第48回 NMR 討論会

62	増田 美幸	生命工学	M2	ポリイオンコンプレックスを用いた NAD 依存型酵素の電極上への固定化法の検討	2009年電気化学秋季大会
63	松田 啓佑	生命工学	M2	直接電子供与系におけるシトクロム P450反応の変異導入の影響	第59回錯体化学討論会
64	三柴 晴香	生命工学	M2	耐熱性鉄含有型アルコール脱水素酵素の酵素活性に対する金属イオンの影響	第59回錯体化学討論会
65	石田 眞理	生命工学	M2	分裂酵母 Schizosaccharomyces pombe 由来グループ II 型シャペロンおよびプレフォルディンの大量発現・精製系の構築	第 9 回日本蛋白質科学会年会
66	岩本めぐみ	生命工学	M2	原位位置バイオレメディエーションへの利用を目指した Dehalococcoides 属細菌の簡易検出方法の開発	第61回日本生物工学会
67	内海 現太	生命工学	M2	Golf 導入によるキメラ嗅覚受容体のシグナル伝達効率の改善	第61回日本生物工学会
68	坂井健太郎	生命工学	M2	組換えハプトグロビンサブユニットの ApoA-I 認識サブユニットの解析とコレステロールエステラーゼ機能改良への応用	第61回日本生物工学会
69	富成 司	生命工学	M2	β -cryptoxanthin suppresses LPS-induced bone resorption	第82回日本生化学会大会
70	芦田 祐希	生命工学	M2	癌抑制タンパク質 p53関連タンパク質 MDMX の C 末端変異が性質に与える影響	第82回日本生化学会大会
71	猪狩 早雅	生命工学	M2	Thermus thermophilus 由来メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素 (tMTHFR) の機能解析	第82回日本生化学会大会
72	新井 啓己	生命工学	M2	Control of LCST-type Phase Behavior of Ionic Liquid/Water Mixture	The 1st FAPS Polymer Congress
73	小林 愛	生命工学	D1	エストロゲン欠乏に起因する内臓脂肪増加型肥満の解析	第82回日本生化学会大会
74	阿部 哲也	生命工学	D3	StHsp14.0の効率的な凝集抑制には C 末端の IXI/V モチーフを介したダイマー間相互作用が重要である	第 9 回日本蛋白質科学会年会
75	佐藤 雄一	生命工学	D3	発光細菌 Photobacterium kishitanii 由来 LumP のリポフラビンおよび FMN 複合体の構造解析	第 9 回日本蛋白質科学会年会
76	奥山 圭祐	応用化学	M1	異なる表面電位を有する材料表面への微生物の初期付着とバイオフィーム構造の関係解明	化学工学会第75年会
77	大垣周一郎	応用化学	M1	ロジウム触媒を用いた [2 + 2 + 2] 付加環化反応による軸不斉ビニールカルボン酸エステルの合成	第96回有機合成シンポジウム
78	岡崎 恵理	応用化学	M1	カチオン性ロジウム錯体触媒を用いた σ 及び π 結合の連続活性化を経由するアリルプロパルギルエーテルの異性化反応 *優秀ポスター賞*	日本化学会第 3 回関東支部大会
79	府川 直裕	応用化学	M1	ロジウム錯体触媒を用いた連続 [2 + 2 + 2] 付加環化反応による光学活性 [9] ヘリセン誘導体の合成	第20回基礎有機化学討論会
80	内田 健悟	応用化学	M1	AIN/sapphire 界面ポイドの形成制御により自発分離した AIN 自立基板の特性	第39回結晶成長国内会議
81	足立 裕和	応用化学	M2	sapphire (0001) 基板上 InN HVPE 成長における成長温度依存性	第70回応用物理学会学術講演会
82	江夏 悠貴	応用化学	M2	HVPE AIN 厚膜自発分離の最適化に向けた AIN/sapphire (0001) 界面ポイドの拡張制御	第 1 回窒化物半導体結晶成長講演会
83	館澤 真也	応用化学	M2	(2,6-ジメチルベンゼンチオラト)白金(II)錯体による分子内 C-H 結合の切断反応。チオラト脱離基による反応の加速効果とその機構	第59回錯体化学討論会
84	金 勉希	応用化学	M2	有機 cocrystal の作製と物性評価	化学工学会第41回秋季大会
85	平田 隼也	応用化学	M2	ニコチンアミド-サリチル酸 cocrystal の作成法	化学工学会第41回秋季大会
86	増田 壘	応用化学	D1	ZnCl ₂ -H ₂ O 系 HVPE 法による ZnO 高温ホモエピタキシャル成長	第39回結晶成長国内会議
87	田島 純平	応用化学	D2	界面ポイド制御によるサファイア初期基板からの AIN 厚膜自発分離 *優秀ポスター賞*	電気通信大学・東京理工大学第6回合同シンポジウム
88	岸 祥史	応用化学	D3	メカノケミカル法による Theophylline の固相多形転移	化学工学会 第41回秋季大会
89	浅原 晋佑	機械システム工学	M1	アクチュエータのストローク制約を考慮した振動制御装置に関する研究	第52回自動制御連合講演会
90	坂田新之介	機械システム工学	M1	回転直動圧電アクチュエータの安定した駆動に関する研究	2010年度精密工学会春季大会
91	松倉 悠	機械システム工学	M1	Olfactory Display: Fluid Dynamic Considerations for Realistic Odor Presentation * Best Short Paper Award Honorable Mention *	Joint Virtual Reality Conference of EGVEICAT-EURO VR
92	吉澤 孝紀	機械システム工学	M1	交差点内における超小型電気自動車の自動一時停止・発進システムの開発	第27回日本ロボット学会学術講演会
93	西郷慎太郎	機械システム工学	M1	運転行動の状態遷移モデルを考慮した異常運転検出アルゴリズムの開発	第27回日本ロボット学会学術講演会
94	磯谷 十蔵	機械システム工学	M1	超小型電気自動車のインホイールモータと操舵制御を用いた前方障害物自動回避システムの開発	自動車技術会2009年秋季大会
95	志岐 知洋	機械システム工学	M1	自動車運転時の注意レベル推定のための視線行動解析	日本機械学会2009年度年次大会
96	金子 勇基	機械システム工学	M1	形彫り放電加工における逆方向シミュレーションの原理の検証	2009年度精密工学会秋季大会
97	武田 亘	機械システム工学	M1	積層金型のベント穴付き射出成形への応用	電気加工学会全国大会2009
98	渡村 昌治	機械システム工学	M1	マイクロ放電加工における放電エネルギーの不確かさに影響を与える諸因子	電気加工学会全国大会2009
99	小谷野智広	機械システム工学	M2	静電誘導給電法を用いた微細放電加工の加工面品位	電気加工学会全国大会2009
100	平井 駿介	機械システム工学	M2	Study on Self-excited Vibration of Wire Electrode in Wire-EDM	ASPEN2009
101	橋本 一真	機械システム工学	M2	590MPa 級鋼板の穴抜き成形シミュレーションの解析精度に及ぼす異方性降伏関数の影響 *優秀論文講演奨励賞*	平成21年度(第40回)塑性加工春季講演会
102	村社 聡子	機械システム工学	M2	極薄ステンレス鋼板の塑性変形挙動の測定および材料モデリング *優秀論文講演奨励賞*	平成21年度(第40回)塑性加工春季講演会
103	島森 義	機械システム工学	M2	逆路路面輪軸を用いた操舵台車の走行性能	第16回鉄道技術連合シンポジウム
104	鈴木 貴之	機械システム工学	M2	Analysis on Drivers' Decision to Stop around Dilemma Zone utilizing Event-triggered type Drive Recorder	APAC2009
105	榎本 智	機械システム工学	M2	顎関節を持つツリガニ型水中ロボットによる化学物質の検出と発生源の探索	日本機械学会2009年度年次大会
106	深澤 雄一郎	機械システム工学	M2	Estimating gas-source location in outdoor environment using mobile robot equipped with gas sensors and anemometer	IEEE Sensors 2009 Conference
107	山崎 弘樹	機械システム工学	M2	金属ナノ構造体を用いたロボット嗅覚用小型 SPR ガスセンサの研究	電気学会センサ・マイクロマシン部門総合研究
108	加賀 智之	機械システム工学	M2	コイル型超音波モータの小型化に関する研究	福祉工学シンポジウム2009
109	保科 真彦	機械システム工学	M2	Development of Spherical Ultrasonic Motor as a Camera Actuator for Pipe Inspection Robot	International Conf on Intelligent Robots and Systems
110	小林 富美男	機械システム工学	D3	デジタルシフトを用いたユニアクシス型三次元形状測定の開発	2009年度精密工学会秋季大会
111	梶田 浩之	物理システム工学	M1	CdSe/ZnS/TOPO 系量子ドットを活性層に含む金属微小共振器構造	日本物理学会 2009年秋季大会
112	斉藤 慶太	物理システム工学	M1	J 会合体及びそのフィブリル構造の局所領域角度依存光学特性	第20回光物性研究会
113	北上 景一	物理システム工学	M1	Rb 原子の光誘起脱離	日本物理学会 2009年秋季大会
114	新原 佳紘	物理システム工学	M1	MgB ₂ 超薄膜の作製	第57回応用物理学関係連合講演会
115	藤岡 幸	物理システム工学	M1	中赤外ポンプ・プローブ分光法による水の分子振動緩和現象の観測	第 3 回分子科学討論会
116	平澤 雄太	物理システム工学	M1	音響光学素子による中赤外超短光パルスの波形整形	第70回応用物理学学会学術講演会
117	笹本 賢	物理システム工学	M2	MgO:LiNbO ₃ における紫外線照射と分極反転電界の関係	第70回応用物理学学会学術講演会
118	酒井 宏	物理システム工学	M2	CdSe 系量子ドットと色素ラベル化分子シャペロン間の 1 分子 FRET 計測	日本物理学会 2009年秋季大会
119	小林 佑輔	物理システム工学	M2	磁気格子による Rb 原子ビームのスピン制御	日本物理学会 2009年秋季大会
120	我妻 伸哉	物理システム工学	M2	Sr _{1-x} K _x Fe ₂ As ₂ の分子線エピタキシー成長	第57回応用物理学関係連合講演会
121	石津 裕之	電気電子工学	M1	スーパーコンティニューム光発生のための種パルスの最適化	第57回応用物理学関係連合講演会
122	小川 圭祐	電気電子工学	M1	水素リモートプラズマによる太陽電池用シリコン基板のテクスチャーエッチング(Ⅲ)	第70回応用物理学学会学術講演会
123	小宮 英明	電気電子工学	M1	並列フィールドフォワードによる空圧位置決め波形の改善	第52回自動制御連合講演会
124	佐久間圭輔	電気電子工学	M1	入力整形フィルタを用いた USM の位置決め波形改善手法	第52回自動制御連合講演会

125	種本 侑美	電気電子工学	M1	Band-limited zoneplate method for elimination of the conjugate image in electronic holography	Digital Holography and Three-Dimensional Imaging
126	名郷 日陽	電気電子工学	M1	256視点超多眼立体ディスプレイ SMV256の開発	3次元画像コンファレンス2009
127	麻場 直喜	電気電子工学	M2	超多眼立体表示における調節応答と観察距離の関係	立体映像技術研究会
128	岡田 直也	電気電子工学	M2	水平走査型ホログラムの画質向上	3次元画像コンファレンス2009
129	甲斐 友紀	電気電子工学	M2	ハンディカメラを用いた3次元カメラの画像合成の自動化	3次元画像コンファレンス2009
130	小迫 健太郎	電気電子工学	M2	高密度指向性表示における動画像のジャーキネスに関する研究(1) —静止観察時における特性—	立体映像技術/情報ディスプレイ研究会
131	甲斐 孝志	電気電子工学	M2	絶対変位センサを用いた2自由度空圧式除振装置の制御	第52回自動制御連合講演会
132	柳川 敦志	電気電子工学	M2	流量外乱に対する外乱オブザーバを付加した空圧位置決め制御	第52回自動制御連合講演会
133	門間 香波	電気電子工学	M2	5軸磁気軸受を用いた回転と静止状態での構造物制振	電気学会産業応用部門大会
134	角野 史弥	電気電子工学	M2	水素リモートプラズマによる太陽電池用シリコン基板のテクスチャーエッチング	第6回「次世代の太陽光発電システム」
135	舞嶋 和也	電気電子工学	M2	AIを触媒体としたSiナノワイヤーの形成と評価	第70回応用物理学学会学術講演会
136	前田 修平	電気電子工学	M2	RPECVD Silicon Nitride Double Layer on N-type Multicrystalline Silicon Solar Cells	24 th European Photovoltaic Solar Energy Conf
137	大橋 弘幸	電気電子工学	M2	スパッタエピタキシー法によるGe低次元構造アレイ化技術に関する研究	第57回応用物理学関係連合講演会
138	河村 隼也	電気電子工学	M2	スパッタエピタキシー法を用いた電子トンネル型RITD	第57回応用物理学関係連合講演会
139	中西 正樹	情報工学	M1	Extraction of Horns in a Noisy Environment by EMD	Nonlinear Circuits and Signal Processing 2010
140	鎌田 勝寛	情報工学	M1	小出力力覚提示装置とバーチャルカップリング使用環境における物体操作支援	日本バーチャルリアリティ学会
141	黒須 貴之	情報工学	M1	指触覚による自然な力覚提示機構の研究	日本バーチャルリアリティ学会
142	小暮 耕太郎	情報工学	M2	バーチャルカップリングの動的制御による物体設置操作支援	日本バーチャルリアリティ学会
143	大丘 達也	情報工学	M2	振動PS制御により接線力と滑りの代替提示を行う仮想物体把持操作システム	日本バーチャルリアリティ学会
144	曹 慶雲	情報工学	M2	前進後退と跳躍および回転が可能な足踏み型仮想空間移動インタフェース	ヒューマンインタフェースシンポジウム2009
145	小原 祐樹	電子情報工学	D1	角度走査型顕微分光法によるJ会合体励起子-光子強結合状態の局所観測	日本物理学会 2009秋季大会
146	喬 維凡	電子情報工学	D2	ピコ秒位相パルスのファイバ伝搬特性の検討	第57回応用物理学関係連合講演会
147	太田 敢行	電子情報工学	D3	ナノシリコン弾道電子エミッタの溶液中動作に対する光照射効果	第70回応用物理学学会学術講演会
148	松本 理	電子情報工学	D3	T ₁ RE ₂ CuO ₄ に対する結晶性の評価	第70回応用物理学学会学術講演会
149	田島 孝治	電子情報工学	D3	多様な通信網の連携によるオンデマンド型ネットワーク方式の提案 *ヤングリサーチャ賞*	マルチメディア、分散、協調とモバイル DICOM2009シンポジウム

⑤ 生物システム応用科学府 (BASE) (前期) : 16 件

	氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1	船津 加央里	生物システム応用科学	M1	共役系高分子を主鎖とするグラフト共重合体の合成と発光特性の評価	平成21年度繊維学会年次大会
2	増田 翔一	生物システム応用科学	M1	pH温度応答性ナノカプセル/生体分子間相互作用 *BP賞(ベストプレゼンテーション賞)*	粉体工学会
3	鈴木 清史	生物システム応用科学	M1	Long-term and Room Temperature Operable Bio-actuator Powered by Insect Muscle Cells	JSPSコロキウム ナノバイオテクノロジー
4	齋藤 日佐郎	生物システム応用科学	M1	気-液界面を晶析場とした有機微結晶粒子群創製法の検討 *学生賞*	分離技術会年會2009
5	横田 清孝	生物システム応用科学	M1	食塩蒸発晶析での変調操作が結晶粒子群品質に与える影響	日本海水学会
6	青木 駿介	生物システム応用科学	M1	ファジィ推論を用いた物体認識手法の提案	電気学会電子・情報・システム部門大会
7	安孫子 恒樹	生物システム応用科学	M1	AIBOにおけるRBFネットワークを用いた顔認識	電気学会電子・情報・システム部門大会
8	中村 士	生物システム応用科学	M1	脳波を用いた触覚に関する嗜好の分類	電気学会C部門大会
9	藤 大樹	生物システム応用科学	M1	複合現実感のための透過型HMDを用いた実空間とモデルとの位置合わせ	電気学会C部門大会
10	鈴木 聡	生物システム応用科学	M2	顔検出に基づく自律移動ロボットの構築	電気学会C部門大会
11	杉原 総一郎	生物システム応用科学	M2	多成分巨大リポソームの電場変形による相構造ダイナミクス	平成21年度繊維学会年次大会
12	山本 博国	生物システム応用科学	M2	三成分相図を利用した非溶媒添加晶析での結晶品質と操作条件の検討	化学工学会第41秋季大会
13	當山 優太	生物システム応用科学	M2	細胞ビルドアップ型ウエットナノロボティクスの構築と機能創発	ロボティクス・メカトロニクス講演会2009
14	垂力 坤夏夏爾	生物システム応用科学	M2	微小水流によるバイオ操作原理の検証と試作	ロボティクス・メカトロニクス講演会2009
15	富田 洋平	生物システム応用科学	D1	PCAとLPPを用いた睡眠脳波の律動成分の解析	電気学会C部門大会
16	深井 寛修	生物システム応用科学	D2	顔画像を用いた性別年齢推定のための複数特徴の抽出	電気学会C部門大会

(後期) : 13 件

	氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1	戸上 拓哉	生物システム応用科学	M1	アンケート結果に基づく日走行距離分布とプラグインハイブリッド車のCO ₂ 削減効果	エネルギー資源学会
2	黒田 耕介	生物システム応用科学	M1	CFRPのエンドミル・ルータービットによるトリム加工—工具摩擦・加工面性状・加工温度の測定と水ミストの効果— *ベストプレゼンテーション賞*	2009年度精密工学会秋季大会
3	荒木 圭司	生物システム応用科学	M2	CO ₂ 削減に向けた運輸・エネルギー転換部門の最適化	エネルギー資源学会
4	高田 淳史	生物システム応用科学	M2	アンモニア-水系吸収ヒートポンプによる常温熱輸送	2009年度冷凍空調学会
5	青井 良文	生物システム応用科学	M2	熱音響エンジンの小型化に関する研究	第12回スターリングサイクルシンポジウム
6	永田 翔平	生物システム応用科学	M2	音響流抑制機構がループ管型熱音響エンジンの振動特性に与える影響 *ベストプレゼンテーション賞*	第12回スターリングサイクルシンポジウム
7	羽鳥 祥一	生物システム応用科学	M2	低温度差で駆動する多段熱音響エンジンの開発	第12回スターリングサイクルシンポジウム
8	木内 智	生物システム応用科学	M2	Temperature History and Metallographic Structure of 0.45% C Steel Processed by Frictional Stir Burnishing * Young Researcher Award *	第5回 LEM21
9	丁 侃	生物システム応用科学	M2	鉄系プラズマ溶射皮膜の切削に関する研究 *ベストプレゼンテーション賞*	2010年度精密工学会春季大会
10	吉丸 玲欧	生物システム応用科学	M2	Direct metal rapid fabrication using arc welding — Fabrication of shell structure with ribs and cooling channels —	3 rd international conference of ASPEN 2009
11	坂本 真希	生物システム応用科学	M2	カイコガ幼虫におけるノジュールのメラニン化機構の解析	第32回日本分子生物学学会年會
12	平良 寛之	生物システム応用科学	M2	pH-溶解度プロファイルを利用した反応晶析での有機塩結晶の品質制御	化学工学会 第75年會
13	山本 博雅	生物システム応用科学	D2	複合加工機による難削材の高速ロータリ切削 *優秀論文賞*	マザック財団論文表彰

⑥ 技術経営研究科 (MOT) (前期) : 3件

氏名	学科名・専攻名	学年	発表題目	学会名
1 宮崎 巧真	技術リスマネジメント	M1	ATRPによる嵩高い(メタ)アクリル酸エステルを用いたブロックコポリマーの合成	第58回高分子学会年次大会
2 守屋 英治	技術リスマネジメント	M1	ポリスチレン発泡体の力学特性とFEM解析	プラスチック成形加工学会
3 高橋 智之	技術リスマネジメント	M2	ポリチオフェンナノファイバー1本レベルでのFET特性	平成21年度繊維学会年次大会

2. コンテスト・コンクール等出場・入賞 (7件)

氏名	学科名・専攻名	学年	コンクール・コンテスト名	入賞有無
1 山下 晋平 (他1名)	化学システム工	4	SCEJ 第41回秋季大会第8回ソフトウェアツール学生コンテスト	プロセス設計部門アスペンテック賞
2 東京農工大学MRMプロジェクト代表 田中 敬三	生物システム応用科学	D3	ビジネスプランコンテストインジャパン	Most Convincing Award
3 東京農工大学学生会馬術部代表 水上 寛健	獣医	4	第47回関東学生馬術女子競技大会	団体優勝
4 石坂 さおり	獣医	4	第47回関東学生馬術女子競技大会	優勝
5 五味 奈穂子	獣医	4	第47回関東学生馬術女子競技大会	7位入賞
6 登石 裕子	獣医	4	第47回関東学生馬術女子競技大会	9位入賞
7 小泉 真子	獣医	4	第47回関東学生馬術女子競技大会	出場

3. 優秀卒業論文 (6件)

氏名	学科名・専攻名	学年	卒論題目
1 松浦 礼	生物生産	4	良食米小規模産地における生協産直 —上伊那アルプス米を事例に—
2 斉藤 思温	地域生態システム	4	メコンデルタにおける運河・水路網の歴史的開発過程に関する研究
3 水上 さやか	獣医	6	Induction of GST-P-positive proliferative lesions facilitating lipid peroxidation with possible involvement of transferrin receptor up-regulation and ceruloplasmin down-regulation from the early stage of liver tumor promotion in rats.
4 橋田 憲人	化学システム工	4	メタノール改質マイクロリアクタの開発
5 矢萩 優名	機械システム工	4	静電誘導給電による高速回転主軸を用いた微細放電加工
6 池田 愛	物理システム工	4	Nd ₂ CuO ₄ 構造母物質 RE ₂ CuO ₄ の超伝導

4. 課外活動

(1) 学園祭 2件

農学部 / 工学部 (第51回学園祭実行委員会)

(2) サークル活動 20件

卓球部	ハンドボール部
テコンドー部	ミニホースの会
バレーボール部	バスケットボール部
ギター部	馬術部
東京農工大学フィールドホッケー部	探検部
歌研究会	ダンスサークル rough
学びたいを支える会 amitie	少林寺拳法部
ハイキング部	野鳥研究会
のっばらの会	剣道部
準硬式野球部	自転車部

(3) サークルリーダートレーニング 1件

サークルリーダートレーニング研修会、学生OBによる講演

5. キャリアアドバイザー支援 2名

学生の皆さんが、進路や就職について個別に指導・助言を受けられるように、豊富な経験と知識を有する相談員(キャリアアドバイザー)2名を同窓会から支援しております

櫻井 邦雄 (農化 S37) / 深水 智明 (織工 S38)

同窓会役員等体制

会長 (平成21・22年度)

藤森 明彦 (工化 S42)

副会長 (平成21・22年度)

藤巻 宏 (農 S36)

草野 洋一 (養蚕 S47)

佐藤 令一 (植防 S54)

竹内 道雄 (農化院 S50)

佐渡 篤 (林産 S38)

星野 義延 (環境 S53)

松井 英輔 (林 S38)

田内 堯 (農工 S35)

本間 秀和 (地生 H12)

田谷 一善 (獣医 S46)

羽田 有輝 (製糸 S43)

壁矢 久良 (織工 S35)

町山 紀郎 (工化 S39)

遠藤 幸一 (工化 S46)

尾崎 幸信 (機械 S52)

宇野 亨 (電気 S55)

大野 直次 (応物 S47)

大島 浩太 (数情 H13)

渡邊 俊夫 (獣医 S49)

齋藤 隆 (生シ院 H11)

常務理事・監事 (平成22・23年度)

理事長 高橋 幸資 (農化 S45)

副理事長 渡邊 敏行 (材料 S61)

総務部長 堀 三計 (機械 S52)

副部長 大里 耕司 (農工 S52) 総会担当

副部長 大川 泰一郎 (農 S62) 支部担当

副部長 伊藤 幸弘 (機シス H14) 会務担当

経理部長 多羅尾 光徳 (環境 H3)

副部長 斉藤 美佳子 (工化 H1)

事業部長 渡辺 元 (獣医 S54)

〃 部長 淵野 雄二郎 (農 S43) 50年史担当

〃 部長 鈴木 創三 (農 S47)

同窓会50周年記念事業実施補佐

副部長 西澤 宇一 (機シス H12) 企画担当

副部長 渡辺 直明 (林 S51) 分取林担当

募金部長 亀山 秀雄 (化工 S48)

情報部長 夏 恒 (機シ工博 H7)

副部長 岡山 隆之 (林産 S49)

広報部長 佐藤 敬一 (林産 S56)

副部長 滝山 博志 (化工 S62) HP 担当

副部長 野村 義宏 (農化 S59) HP 担当

副部長 横山 正 (農 S53) 会報担当

副部長 馬場 真知子 (林学院 S51) 会報担当

監事 深水 智明 (織工 S38)

坂野 好幸 (農化 S40)

生原 喜久雄 (林 S41)

事務局長 山田 昭一



部会・支部 だより

宮崎県支部



日時 H 21.8.1
 開催場所 かまどダイニング「福蔵」
 参加人数 19人
 議事内容 50周年記念事業に対する寄附報告、平成20年度事業実績及び決算報告、平成21年度事業計画及び収支予算案の承認、役員改選
 講演・討論等 懇親会

京都支部



日時 H 22.7.3
 開催場所 「平安会館」
 参加人数 25人
 議事内容 京都支部設立総会（活動開始）役員選出（支部長・連絡員・事務局）、会計報告、大学の近況報告
 講演・討論等 懇親会

島根県支部



日時 H 21.9.12
 開催場所 松江市「ホテル宍道湖」
 参加人数 8人
 議事内容 島根県支部のあゆみについて、本部総会の報告

製糸部会女子部



日時 H 21.10.27～29
 開催場所 草津温泉「ホテル高松」
 参加人数 7人
 議事内容 今年の活動報告、平成20年度収支会計報告、今後の女子部活動について
 講演・討論等 同窓会本部からの女子部活動に対する支援の報告、母校の現状報告、物故者に対する黙祷、懇親会、会員相互の情報交換、多摩シルクライフ21研究会と女子部との関わりについての報告

神奈川県支部



日時 H 21.8.30
 開催場所 和み亭 海老名中央店
 派遣理事名 亀山秀雄 理事長
 参加人数 30人
 議事内容 平成20年度決算及び監査報告、平成21年度予算案の承認
 講演・討論等 亀山理事長より50周年記念事業について、大学の近況と研究内容（特に神奈川県における共同研究）について

大分県支部



日時 H 21.9.26
 開催場所 大分第一ホテル
 参加人数 14人
 議事内容 平成20年度事業及び会計報告（50周年記念事業への寄附報告）、平成21年度事業計画案の承認、第46回通常総会の報告により同窓会50年史への執筆内容について
 講演・討論等 懇親会

繊維・有機材料部会

日時 H 21.11.21
 開催場所 農工大学小金井キャンパス
 派遣理事名 渡邊敏行 総務副部長
 参加人数 56人
 議事内容 平成19・20年度会計報告、平成21・22年度事業計画および予算案
 講演・討論等 講演会「繊維技術研究会10年の歩み」壁矢久良（織工S35）、科学博物館動態展ツアー

徳島県支部



日時 H 21.10.17
 開催場所 徳島市伊月町「笹乃庄」
 派遣理事名 高橋幸資 副理事長
 参加人数 8人
 議事内容 収支報告
 講演・討論等 情報交換、懇親

広島県支部



日時 H 21.11.1
 開催場所 鯉城会館
 参加人数 10人
 議事内容 会計報告、役員承認
 講演・討論等 同窓会総会の報告、参加会員の近況報告

三重県支部



日時 H 21.9.6
 開催場所 津市「新玉亭」
 派遣理事名 堀三計 総務部長
 参加人数 11人
 議事内容 本部総会報告、役員改選、50周年記念事業の募金について等
 講演・討論等 堀理事より母校の近況報告

兵庫県支部



日時 H 21.11.8
 開催場所 兵庫県民会館
 派遣理事名 佐藤敬一 広報部長
 参加人数 11人
 議事内容 弔事のお知らせ、会計報告、来年度総会について
 講演・討論等 佐藤理事より農工大の近況について

横浜会



日時 H 22.6.11
 開催場所 横浜市「華正楼本店」
 参加人数 9人
 議事内容 第47回通常総会の報告、会計報告及び会計監査報告、50周年記念事業の募金活動の件、50年史執筆の件
 講演・討論等 懇親会

新潟県支部



日時 H 22.6.5
 開催場所 長岡市「割烹 池浦」
 参加人数 25人
 議事内容 本部総会の議事報告
 講演・討論等 近況報告、「池浦酒造」見学

佐賀県支部

日時 H 22.5.22
 開催場所 佐賀市「おおしま」
 派遣理事名 高橋幸資 副理事長
 参加人数 9人
 議事内容 平成21年度会計報告等
 講演・討論等 高橋理事より同窓会本部からの報告、参加者の近況報告

愛知県支部



日時 H 21.11.29
 開催場所 名古屋市「百樂」
 派遣理事名 渡邊敏行 総務副部長
 参加人数 14人
 議事内容 第45期収支決算報告、支部役員の変更
 講演・討論等 ①「地球環境とエコ発電」(太陽電池と熱核融合)名古屋工業大学プロジェクト教授辻田義治氏(工化S41)
 ②母校の近況報告、50周年記念事業の支援要請
 ③懇親会

静岡県支部



日時 H 22.3.6
 開催場所 静岡市「クーポール会館」
 派遣理事名 亀山秀雄 理事長
 参加人数 47人
 議事内容 平成21年度事業報告、平成22年度事業計画、平成22・23年度役員について
 講演・討論等 「バブアニューギニアを訪ねて」平井剛夫(農S42)、懇親会

山口県支部



日時 H 22.7.16
 開催場所 湯野温泉「紫水園」
 参加人数 8人
 議事内容 第47回通常総会・理事会の報告、平成21年度事業報告及び決算報告、平成22年度事業計画及び予算について、支部役員改選、平成23年度支部総会の持ち方について
 講演・討論等 懇親会

埼玉県支部



日時 H 22.2.20
 開催場所 パイオランドホテル「フロンティア」
 派遣理事名 斉藤美佳子 経理副部長
 参加人数 36人
 議事内容 平成20年度事業報告並びに決算報告、平成21年度事業計画並びに予算案について、役員改選について
 講演・討論等 斉藤理事より50周年記念事業について

岩手県支部



日時 H 22.2.20
 開催場所 盛岡市「エスポワール いわて」
 派遣理事名 滝山博志 広報副部長
 参加人数 19人
 議事内容 50周年記念事業の協力について、平成22・23年度代議員の選出
 講演・討論等 滝山理事より大学の近況報告、研究についての講演、懇親会

秋田県支部



日時 H 21.11.7
 開催場所 秋田市「協働大町ビル」
 派遣理事名 大里耕司 名簿担当副部長
 参加人数 16人
 議事内容 会計報告、事務報告
 講演・討論等 大里理事より農業用パイプラインの漏水事故実態分析に関するミニ講演、大学の近況報告



神奈川県支部



日 時 H 22.9.4
 開催場所 「和み亭」海老名中央店
 派遣理事名 多羅尾光徳 経理部長
 参加人数 24人
 議事内容 平成21年度決算および監査報告について、平成22年度予算の承認について
 講演・討論等 懇親会

三重県支部



日 時 H 22.9.5
 開催場所 津市「新玉亭」
 派遣理事名 高橋幸資 理事長
 参加人数 12人
 議事内容 本部総会報告、役員改選、50周年記念事業の募金活動の件
 講演・討論等 高橋理事長より母校の近況報告

H元年蚕糸生物学科クラス会



日 時 H 22.8.14
 開催場所 母校及びホテルコンチネンタル
 幹事・報告等 矢島 清行 (蚕糸H1)
 クラス H1 蚕糸生物学科卒
 参加人数 14人
 実施内容 母校散策、近況報告等の情報交換

38Fクラス会



日 時 H 21.2.19
 開催場所 静岡県焼津市
 幹事・報告等 松井 英輔 (林 S38)
 クラス S 38 林学科卒
 参加人数 20人
 実施内容 親睦

クラス会
だより

か い こ 会



日 時 H 21.5.15
 開催場所 東京銀座 ライオン銀座七丁目店
 幹事・報告等 井上善治郎 (裁桑 S19)
 クラス S19.9 養蚕・裁桑・製糸学科卒
 参加人数 7人
 実施内容 近況報告・親睦

工化39年卒「フサク会」



日 時 H 21.10.17
 開催場所 東京目黒雅叙園
 幹事・報告等 齋 秀麿 (工化 S39)
 クラス S 39 工業化学科卒
 参加人数 24人
 実施内容 金子六郎先生を迎え卒業後45周年記念

武蔵野38人会



日 時 H 21.10.20
 開催場所 さいたま市 かんぼの宿・ラフレさいたま
 幹事・報告等 塩原 武 (製糸 S26)
 クラス S 26 製糸学科卒
 参加人数 17人
 実施内容 親睦

S29年度養蚕学科卒クラス会



日 時 H 21.10.28～29
 開催場所 さいたま市 別所沼会館
 幹事・報告等 郡司 教康 (養蚕 S29)
 クラス S 29 養蚕学科卒
 参加人数 12人
 実施内容 親睦

多摩留会



日 時 H 21.11.11～12
 開催場所 さいたま市
 かんぼの宿・ラフレさいたま
 幹事・報告等 小林 茂雄 (獣医 S31)
 クラス S 31 獣医学科卒
 参加人数 10人
 実施内容 情報交換・懇親会

機械 81 会



日 時 H 21.11.14～15
 開催場所 長野県諏訪郡
 八ヶ岳ロッジ
 幹事・報告等 阿部 典之 (機械 S56)
 クラス S 56 機械工学科卒
 参加人数 7人
 実施内容 親睦

農学部養蚕学科昭和38年卒クラス会



日 時 H 21.12.8
 開催場所 神田川の畔のうなぎ屋
 幹事・報告等 草川 春夫 (養蚕 S38)
 クラス S 38 養蚕学科卒
 参加人数 8人
 実施内容 親睦・近況報告

みそよ会



日 時 H 22.4.14～15
 開催場所 岡山いこいの村
 幹事・報告等 内藤 照章 (獣医 S34)
 クラス S 34 獣医学科卒
 参加人数 15人
 実施内容 親睦・岡山の伝統工芸
 (備前焼・刀剣) 歴史探訪

S 2 3 織農会



日 時 H 22.5.11
 開催場所 川越市「山屋」
 幹事・報告等 増田 弘 (織農 S23)
 クラス S 23 織維農業卒
 参加人数 13人
 実施内容 親睦・近況報告

櫛並木会



日 時 H 22.5.12～13
 開催場所 本学農学部・50周年記念ホール
 幹事・報告等 家寿多正衛 (林 S25)
 クラス S 25 林学科卒
 参加人数 7人
 実施内容 親睦・懇親会・深大寺・
 神代植物公園見学

ポプラ会



日 時 H 22.5.12～14
 開催場所 埼玉県秩父長瀬・
 美やまホテル
 幹事・報告等 小林 茂雄 (獣医 S31)
 クラス S 30 獣医学科卒
 参加人数 20人 (内夫人7人)
 実施内容 情報交換・親睦会

武蔵野山梧会



日 時 H 22.5.15
 開催場所 本学農学部
 幹事・報告等 岡部 廣二 (林 S35)
 クラス S 35 林学科卒
 参加人数 15人
 実施内容 総会・懇親会

農芸化学 S 28 年同期会



日 時 H 22.6.4
 開催場所 本学農学部・武蔵野荘
 幹事・報告等 関 登世彦 (農化 S28)
 クラス S 28 農芸化学卒
 参加人数 10人
 実施内容 大学施設見学・傘寿を
 祝う会

掲 示 板

東京農工大学に元気で可愛いアメリカンミニホースの子馬（第2子）が誕生 愛称は「モカ」に決定！

東京農工大学において、世界最小の馬として知られているアメリカンミニホースが、平成22年7月26日(月)午後7時11分に無事出産しました。東京農工大学では2回目となる馬の出産で、緊張と期待の中、無事に元気で可愛い牝馬(ひんば)が誕生しました。



◆ 概要 ◆

東京農工大学には、「アップルサイダー(牡馬)」と「シナモン(牝馬)」の2頭のアメリカンミニホースがおり、積極的に地域のイベントへ参加したり、幼稚園や小学校を訪問し、馬車を引いたり、ふれあい活動を行っている。この2頭には、平成20年8月13日第一子「アップルパイ(牝馬)」が誕生し、元気に育って現在では、親子3頭で地域の人気者になっている。その2頭に再び子馬が誕生することとなり、東京農工大学では獣医学科教員の指導を受けながら、「ミニホースの会」と「馬術部」の学生が出産に向けて万全の体制を整えていた。7月26日(月)の早朝、出産が近いと判断され、緊張と期待の中、午後7時11分、無事に元気で可愛い鹿毛(かげ)の牝馬を出産した。

これに伴い、東京農工大学は学内外から愛称を募集し、8月31日、愛称選考委員会(委員長:田谷一善馬術部・ミニホースの会顧問教員)を開催、応募総数221件から第2子の愛称を「モカ」に決定した。

「第47回関東学生馬術女子競技大会・馬場馬術競技」で東京農工大学馬術部が団体優勝 また、石坂さおりさんと悠風号が個人二連覇を達成！

平成21年11月14日(土)に開催された「第47回関東学生馬術女子競技大会・馬場馬術競技」において、本学馬術部が団体が初優勝しました。また、石坂さおりさんと悠風(ひろかぜ)号が昨年に続いて優勝し、二連覇を達成しました。今年、獣医学科4年生の石坂さおりさんと悠風(ひろかぜ)号、五味奈穂子さんとハーディー号、登石裕子さんと蒼風(あおかぜ)号、地域生態システム学科4年生の小泉真子さんと春風号の4選手が出場し、上位3名(五味さんが第7位入賞、登石さんが第9位入賞)の総合成績で団体優勝が決まりました。4名とも、選手生活最後の引退試合で、最高の結果を出し今回の快挙を達成しました。準優勝は、日本大学、第3位は、東京農業大学、第4位は、学習院大学、第5位は、早稲田大学、第6位は、日本獣医生命科学大学でした。

本競技会は、日本の馬術界の中で最も層が厚く強豪大学の多い関東地区で行われる全日本大会に匹敵するレベルの高い試合で、今年度も関東地区の20大学からの選手が参加して開催されました。

本学馬術部は、「障碍飛越競技」を得意として、これまで本競技会でも過去に2回の団体3位入賞の記録がありますが、「馬場馬術競技」での団体優勝は初めてのことです。本競技会で東京農工大学が優勝した事は、他の大学にとっても衝撃的なことで、出場した強豪大学の監督や選手の皆さんからも大きな称賛の声が上がりました。ほとんどの部員が大学に入学してから馬術を始め、高価な馬を購入することも無い本学のような馬術部が、本大会のような大きな試合で団体優勝する事は、とても素晴らしいことであると称賛してくれました。毎日のたゆまぬ努力と効率良い練習、そして大学、馬術部後援会や地域の皆さんの支えがあつての賜物です。今年、看板馬の病気が急死が続き多くの困難を乗り越つての初優勝であっただけに喜びもひとしおです。

馬術部員の素晴らしいチームワークを称賛したいと思います。

(馬術部顧問教員 田谷一善)



優勝した石坂さおりさんと悠風号



五味奈穂子さんとハーディー号



登石裕子さんと蒼風号



小泉真子さんと春風号



馬術部顧問 田谷一善教授



中央が優勝した東京農工大学（登石さん）
（第2位は日本大学・第3位は東京農業大学）



左から小泉さん・登石さん・石坂さん・橋本監督
田谷部長・水上副主将・五味さん・藤森後援会長



第47回関東学生馬術女子競技大会・馬場馬術競技の団体初優勝と個人二連覇を記念して、法政大学馬術部監督宮木康光氏から寄贈された木札。

● 定年退職者のお知らせ ●

本学在職中に同窓会活動に多大なご協力を頂いた右記の先生方が、平成23年3月で定年を迎えられます。

このことに伴い、それぞれの先生方の「定年退職祝賀会」が催されることと思います。祝賀会に参加希望される場合は、各先生の研究室にお問い合わせ下さい。

なお、氏名掲載はご本人の了解を得ている方のみとしております。

農学研究院 教授	福田 清春
農学研究院 教授	淵野雄二郎
工学研究院 教授	松岡 正邦

● 慶 弔 ●

慶 事

お祝い申し上げます

☆平成21年秋の叙勲

青木 誠 (農 S37)	瑞宝小綬章
稲葉 次郎 (農 S38)	瑞宝中綬章
山下 実 (農 S24)	旭日小綬章

☆平成22年春の叙勲

坂口 正三 (農 S35)	瑞宝小綬章
---------------	-------

訃 報

ご冥福をお祈り申し上げます

平成22年 6月26日逝去

小野 四郎 (顧問・製糸 S7卒)

平成22年 7月19日逝去

西出 照雄 (前 製糸・高分子・生命工学部会長・製糸 S41)

平成22年 8月25日逝去

大河原清一 (現群馬県支部長・養蚕 S24)

平成22年 5月28日逝去

齋藤 忠海 (元秋田県支部長・農 S18)

平成22年 5月5日逝去

梅木 利巳 (元教員)

女性未来育成機構では、農工大卒業生の ブラッシュアップ・キャリアアップを応援します！

東京農工大学女性未来育成機構は、女性研究者の養成と研究推進を目的として、女子学生、女性研究者、女性卒業生を含む、農工大に関わる全ての世代の女性の活躍支援に取り組んでいます。

卒業生限定 研究生・科目等履修生の 入学料・授業料優遇制度

区分	研究生	科目等履修生
検定料	9,800円 (9,800円)	9,800円 (9,800円)
入学料	0円 (84,600円)	0円 (28,200円)
授業料	月額 14,800円 (29,700円)	1単位 7,400円 (14,800円)

- ・男性も女性も利用できます
- ・（ ）内は、本学卒業生以外の方の金額です。

女性卒業生限定 ネットワークシステム 農工大SNS

「農工大SNS」は、イベントのお知らせ、ブラッシュアップ教材、求人情報等の掲載のほか、出産・育児・介護、再就職、キャリアアップに関するコミュニティを用意しており、卒業生同士の交流スペースとして利用できます。

女性未来育成機構（旧女性キャリア支援・開発センター）から郵送されたID・パスワードを使ってアクセスして下さい。ID・パスワードを忘れた場合は、農工大SNSトップページより再発行手続きが可能です。

農工大SNSのURL
<https://josei.office.tuat.ac.jp/~sns/>

お問合せ先：東京農工大学 女性未来育成機構

- ◆府中機構室 042-367-5945(Tel)/5643(Fax) ◆小金井機構室 042-388-7362(Tel)/7643(Fax)
- ◆e-mail joseispt@cc.tuat.ac.jp ◆HPアドレス <http://www.tuat.ac.jp/~dan-jo/center/index.html>

皆さん 楽しく集まりましょう



東京農工大学 同窓会東京支部

おしゃべりサロン

「けやきクラブ」

「けやきクラブ」は支部に関係なく、どなたも参加できます（予約なし フリー）
◆大正・昭和・平成それぞれ オークー ◆一人でも、友達連れでも

みんなの夕べ

毎月第3火曜日 6.00p.m.~8.00p.m. (時間きっちり)

新宿「中村屋 本店」4階 レストランバー(ラコンテ)けやきクラブ席
住所 新宿区新宿3-26-13 電話 03-3352-6164

飲み物・食べ物 ワリカン制(大体 3000円~4000円)

アクセス 地下鉄 丸の内線「新宿駅」または「新宿三丁目駅」3分 A6出口
JR新宿駅 東口 三越の並び フルーツ高野の隣り



↑2009年11月17日 ↓2010年3月16日友人参加も



最近:2010年8月17日:猛暑の中10名参加

お問い合わせ

けやきクラブ会長 渡辺 彰 090-8051-1798 東京支部長 馬場 信行 03-3641-3882
事務局 磯野 司 090-3878-5418 東京事務局長 山本 賢 090-4729-2114

事務局だより

お知らせ

同窓会会員名簿発行廃止について

平成17年に「個人情報保護法」が全面施行され、その直後に「平成17年版同窓会会員名簿」を発行いたしました。名簿発行後、会員宛に迷惑電話が頻繁にかかるようになり、同窓会事務局には多くの強い口調の苦情が寄せられ、「名簿の廃止」や「非掲載」の強い要望を相次いでいただき、事務局や常務理事会ではその対応に苦慮してきました。

平成20年度通常総会には会員名簿の発行延期を上程し、名簿発行の在り方について、部会・支部および他校の同窓会へのアンケート調査などを行い検討してまいりました。

その結果、種々の方面から検討を重ねましたが、現状のまま、更に名簿を発行した場合、従来から指摘されているように転売等による個人情報漏出のリスクが大きく、それに対する会員からの苦情に応えることができないと考え、常務理事会として名簿発行を廃止することを平成22年5月29日開催の通常総会に上程し、承認されました。

なお、名簿発行の廃止に伴い会員各位にご迷惑がかからないように、従来どおり、会員の動静調査は引き続き行うとともに、部会・支部・クラス会等からの依頼により、当該名簿や宛名ラベル等の提供など、従来の会員名簿に替わるサービスの提供を行っております。

今後の個人情報の管理などについて、ご意見がありましたら、本会事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

事務局だより

◆「住所・勤務先等の変更届のお願い」

住所、勤務先等の変更があった場合には、すみやかに変更連絡票はがき、電話、メールなどで事務局までご連絡いただきたくお願い申し上げます。事務局では転居され、郵便物が返送された会員の方に現住所等のお問い合わせをしております。また、部会・支部・クラス会の名簿に「住所・勤務先・電話番号」について非掲載をご希望される方は、メール・はがき等でご連絡いただきますようお願いいたします。

◆「同窓会ホームページのご案内」

<http://tuat-dousokai.jp.org/>

同窓会HPでは内容を随時更新し、農工通信に先駆けて最新情報を掲載していますので是非ご利用下さい。

また、部会・支部、クラス会便りも電子媒体でお送りいただければ、随時掲載いたしますので、当日参加できなかった方もHPでご覧いただくことが出来ます。

どうぞ下記アドレスまでお送り下さい。お待ちしております。 E-mail:info@tuat-dousokai.jp.org

◆「会費納入のお願い」

★会費は同窓会活動の原動力です。正会員は同封の払込票にて次のいずれかの方法で会費を納入してください。

終身会費は30,000円。年会費は1,500円。

★払込票が同封されてない方は納入済です。

★過去にさかのぼって納入の必要はありません。

◆「慶弔についてのご連絡」

同窓会正会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づき、同窓会から祝電あるいは弔電をお送りしてきております。

このような慶弔事のご連絡の際に、次のような事項についてあわせてご連絡ください。

1. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

- ・受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、

電話等

- ・受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
- ・受章、受賞の日時

2. 慶事（選挙の当選等）

- ・当選者氏名
- ・選挙の種類
- ・就任年月日

3. 弔事の場合

- ・逝去者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
- ・ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
- ・通夜の日時、場所
- ・告別式の日時、場所・逝去の日時

◆「寄稿文 随時募集中」

寄稿内容は自由（例：随想、近況報告、研究紹介、仕事に関すること等）です。なお、文字数はA4判1ページ1800字程度を目安にいただくと共に、原稿については、可能な限り電子媒体でお送り下さい。詳細は事務局にお尋ね下さい。

◆「会報へのご意見ご感想を是非お寄せ下さい。」

同窓生の方からのお便りお待ちしております。

お詫びと訂正

本誌80号 同窓生からの寄稿

*「今に偲ぶ師の恩」飯田辰夫（獣畜S19）氏の寄稿文において記述の誤りがありました。

以下のとおり訂正してください。

21頁左段26行、「代々木練兵場」を「東京神宮外苑競技場」へ訂正

*「贈右大臣大久保利通公碑」顕彰文を書写する」吉田富雄（農学S34）氏の寄稿文において記述の誤りがありました。以下のとおり訂正してください。

23頁左段40行、「農ハ農家ノ基本タル」を「農ハ国家ノ基本タル」へ訂正

23頁左段46行、「尊農報告」を「尊農報国」へ訂正

関係各位および読者の皆様にお詫び申し上げます。

地元 小金井市の商社

株式会社 高岡 機工

〒184-0001 東京都小金井市関野町 1-4-6

TEL : 042-383-6100 FAX : 042-384-4993

E-Mail : takaoka@basil.ocn.ne.jp

☆お気軽にお問合せ下さい。

《 営業内容 》

- ◇ 研究諸機材の製作及び販売
- ◇ 金属材料・樹脂材料・木材・試験片・衬類・配管部材
- ◇ 装置部材・装置部品（ポンプ、シャフト、ギヤ類、モーター、機械周辺機器 etc）
- ◇ 各種工具（切削工具・測定工具・作業工具・補用工具 etc）
- ◇ 受託加工・部品加工（NC・MC加工・旋盤加工・ワイヤ加工・溶接加工）
- ◇ 工作機械・研究装置・測定器・理化学機器・作業台・実験台
- ◇ 修理、オーバーホール、アフターフォロー、加工相談、各メーカー情報の提供



牧場産直 価値ある本物

- * 新鮮！美味！安心！「ゴールデンポーク」「スーパーゴールデンポーク」
- * ドイツ DLG 国際食品品質競技会9年連続金メダル受賞！
「世界が認めたハム・ソーセージ、デリカ調理食品」
- * 本物の食と健康の理想郷！「ミートショップ・レストラン・地元農産物直売所・天然温泉まきばの湯・パークゴルフ場他」P1000 台完備

株式会社 埼玉種畜牧場・サイボクム

代表取締役会長 **笹崎龍雄**（昭和15年・獣医学科卒）

TEL. 042-989-2221（代） FAX. 042-989-7933

<http://www.saiboku.co.jp/> 〒350-1221 埼玉県日高市下大谷沢546

地域の皆様に楽しんで頂ける 店舗作りを目指すオゼック・グループ

PACHINKO&SLOT

OZEC 国分寺

東京都国分寺市東元町4-1-36

TEL.042-325-3394

<http://11990.p-world.jp>

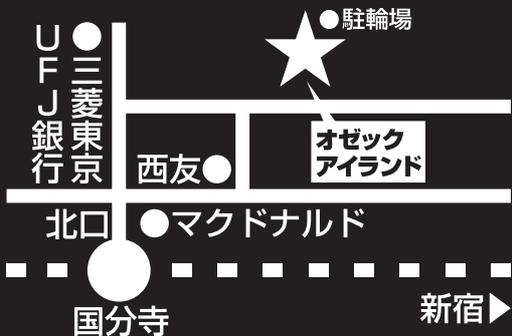
大型駐車場完備

PACHINKO&SLOT

OZEC ISLAND

東京都国分寺市本町2-14-1

TEL.042-326-3887

<http://73986.p-world.jp>
大型駐車場完備 タイムズ国分寺
北口駐車場


東京農工大学生協の オリジナルグッズの一部をご紹介します

白石さんと生協職員が
生協組合員さんと一緒に作った
クラッチバック

525円 (税込)



牛柄クラッチバック姉妹品
牛柄模様を使ったブックカバー

文庫カバー 380円 (税込)
新書カバー 430円 (税込)



MOTの院生が
マネジメント研究の一環として
商品を企画したストラップ

500円 (税込)



その他、生協の店舗では色々なオリジナルグッズを取り扱っています。
キャンパスにお越しになったときは、生協の店舗にもお寄りください。

東京農工大学消費生活協同組合

農学部本部 TEL 042-366-0762
工学部本部 TEL 042-381-7213

ホットマンのタオル製品は

自分達の手で心を込めてつくりあげています。

「快適な暮らし」「良質な生活」「心豊かな日々」とを
願っております。

ホットマン株式会社は 100 年を超える織物製造業者として

織り、染め、プリントをはじめとした自社工場を構え、
企画、デザイン、縫製、刺繍、物流から販売まですべてを
自社で行うという、文字通りの製販一貫体制で、
丁寧な物づくりとお客様第一の販売に取り組んでおります。

Hotman
STYLE OF LIVING

ホットマン株式会社

本社 〒198-8522 東京都青梅市長洲 5-251

TEL. 0428-24-6500

フリーダイヤル ☎0120-29-6900

<http://www.hotman.co.jp>

試薬 理化学機器

株式会社 三友商会

代表取締役 金森 信次

〒183-0041

東京都府中市北山町2-33-58

PHONE 042(502)1200

FAX 042(502)1300

E-MAIL sanyuu@jcom.home.ne.jp

農工大産官学連携支援OBの会

全学連
OBの会

特許活用・共同研究

産官学連携の共同研究などの特許・技術の有効活用や支援をおこなっています。



起業家育成

ビジネスプラン作成などのメンタリングや、ベンチャー企業の経営支援をおこないます。

インターンシップ・就活支援

学生のインターンシップ先の斡旋やキャリアパス就職活動のメンタリングをおこないます。

セミナー・講演会

セミナーや講演などの企画、開演などの支援をおこなっています。

入会お申込はこちら

年会費は
6,000円です!

<http://www.at-netz.jp>

TEL/FAX 0463-94-6744 (深水)



東京農工大学の産官学連携活動を支援するために設立された組織です。

一般社団法人 エー・ティー・ネッツ AT-Netz

TOTAL PRINTING

企画・編集・デザイン・DTP・印刷・製本



明誠企画株式会社

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎 2-25-5

■ TEL (042) 567-6233(代)

■ FAX (042) 567-6230

■ E-Mail:meisei@fancy.ocn.ne.jp

「農工通信 81 号」をお届けします。表紙は、毎回好評を得ています佐藤勝昭先生の水彩画で、小金井キャンパス13号館です。

同窓会創立50周年記念事業として、工学部キャンパスの小金井記念ホール（産学交流会館内）の完成と、府中の50周年記念ホールの増改修は平成23年度末には終わる予定です。

なお引き続き募金活動を行っておりますので、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

同窓会では、名簿の発行を取りやめていますが、卒業生の皆様に大学の近況をお伝えする手段としての「農工通信」を重視し、年2回発行することを検討しています。「農工通信」の内容等にご意見やご提案等がありましたら、お気軽に同窓会事務局までご連絡ください。また、投稿原稿（題目欄を除く文字数は1ページで1800字）、「部会・支部・クラス会だより」や「掲示板」の内容も募集しています。

（広報部長 佐藤敬一、林産S56記）

農工通信 第81号

発行日 平成22年（2010年）11月1日
発行所 東京農工大学同窓会
連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1
東京農工大学同窓会事務局
TEL 042(364)3328 FAX 042(335)3500
e-mail info@tuat-dousoukai.jpn.org
http://tuat-dousoukai.jpn.org/
振替口座 00120-9-93147番（加入者負担）
加入者名 東京農工大学同窓会
印刷所 明誠企画株式会社
〒208-0022 武蔵村山市榎2-25-5

農工大ブランド焼酎

新発売!!

「賞典禄」の芋原酒

ネット販売も好評!!

部会、支部会、同窓会で是非ご賞味下さい。



原酒 (米)



新発売 原酒 (芋)



原酒 (麦)

本学では、農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター(旧農場)で栽培した原料(米・芋・麦)で製造した焼酎「賞典禄(しょうてんろく)」を販売しております。

ご好評いただいております「賞典禄(しょうてんろく)」米焼酎と麦焼酎の原酒に加え、このたび芋焼酎の原酒が新発売されました。

原酒は焼酎の個性そのものが凝縮されていてレギュラー焼酎とはまた一味違う深いうまさを楽しめますので是非ご賞味下さい。

ネット販売対応商品

商品種類	度数	容量	販売価格(税込)
原酒 米焼酎(つぼ入り)	43度	720ml	2,700円
原酒 芋焼酎(つぼ入り)	38度	720ml	2,700円
原酒 麦焼酎(つぼ入り)	43度	720ml	2,700円
米焼酎	25度	720ml	1,700円
芋焼酎	25度	720ml	1,700円
麦焼酎	25度	720ml	1,700円
米・芋・麦 3種セット (セット用化粧箱入り)	25度	720ml×3	5,100円



米焼酎



芋焼酎



麦焼酎

ただいまインターネット販売により、多くの卒業生の皆様方にご愛顧を賜っておりますが、配送先1ヶ所につき5,000円以上のご注文の場合には送料を無料とさせていただきますので、是非ご利用ください。

代金の支払方法は、代金引換かクレジットカードになります。詳しくは下記URLをご覧ください。同窓会のホームページ(トップページにリンクあり)からも本サイトに入れます。

※電話、FAXでのご注文はできませんので、予めご了承願います。

問い合わせ先：農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター事務局 TEL 042-367-5812

ネットショップサイト：FSセンター農工夢市場ネットショップ

<http://www2.enekoshop.jp/shop/noukoudai/>



農工夢市場 で 検索 すると便利です。